

り。北の萬年塔は兼續の墓、南のものはその夫人の墓なり。兼續は永祿三年越後魚沼郡上田に生る。慶長六年登野の米澤に移るや戸數僅に八百戸に過ぎざりしを兼續これを補けて南原在家・山上・花澤等に屯田兵を置きて、荒蕪の開拓に當らせ、御入水を城中に引き西川堰を穿ちて流村を便にし、白布・五色等の温泉を開き、其他、植林・治水に努めて大いに殖産興業を圖り、慶長十四年米澤の新屋敷割を創めて市區を整理する等米澤開市の大恩人たり。元和五年江戸に卒す。大正十三年從四位を追贈せらる。(雲井龍雄の墓)七軒町常安寺境内にあり。龍雄、本名は小島龍三郎、弘化元年市內貸町に生る。若年よく勤王に努めしも明治三年東京小塚原刑場に死刑さる、年二十七。歿後小島氏累代の墓所にその毛髮を埋めしを、昭和五年有志發起して雲井會を起し、東京谷中の墓標の下より頭骨を移葬す。(佐戸太華墓)七軒町長泉寺内にあり。贈正五位佐戸九郎兵衛、諱は善政、字を太華と號す。上杉治憲を輔けてよく中興の治をなさしむ。享和三年歲六十九にて歿す。(佐氏泉公園)米澤驛前にあり。泉水湧出しその傍に老松あり。佐藤莊司正信別荘の地にて、この泉水はその子信信・忠信兄弟の産湯に用ゐたるものと傳ふ。よりに佐藤清水の名あり。(常信庵)旭町にあり。佐藤莊司の妻梅屋尼が正信及び二子信信・忠信の冥福を修せんとして建立せし處。梅屋尼は建久二年

その庵に歿すといひ、その遺骸なりと稱する屍體を安置せり。(北山原殉教遺跡)木挽町北端北山原。藩政時代、幕府の異教徒弾壓令の犠牲となりし幾多のキリスト教徒徒の斬られし處。近年、十字架及び三體の塑像建立されたり。

【米澤盆地】奥羽山脈西側の一盆地。一に置陽盆地ともいふ。海拔二五〇米、南北三四軒、東西一軒、面積約三五〇平方軒。富盆地は大館・横手・山形の諸盆地の如く始め海なりしものが、數島間に入りて湖沼となり、次いで分散せる沼澤に變化し遂に乾涸して平野となりしものなり。而して富盆地に收斂せらるゝ水系は、大牛吾妻火山群に發源し、松川と羽黒川と北流して、盆地の南隅より流入し、梓川は東南より入り、大樽川と小樽川とを合せたる鬼面川は西方より入りて三方よりの複合扇状地を形勢し、米澤市は即ち、その中心平野に發達せしものなり。これ等の水系は主として盆地埋積の岩層を運搬せしものにして、その他の第三紀層丘陵地より流入せる幾多の水系は僅かに小扇状地を形成するに過ぎず。富盆地は長井盆地を隣伴する關係上、最上川の浸透浸蝕は未だ富盆地に及ばず、従つてその堆積面には水蝕削削行はれず、自然傾斜面を潤滑に發達せざるを以て、盆地内は至るところに點々として灌漑の便なき畑地散在す。而してこれ等の畑地の存在は終に現時の隆盛なる養蠶業の因をなすに至れり。盆地の北東隅赤湯附近

には、周囲より土砂を搬入する水系なきため自然の凹地を成し、湖盆乾涸未だ全からざる遺跡あり。かゝる状態は村山盆地に比して著しく原始的なり。

【米澤村】千葉縣下總國香取郡の西北部。利根川の南岸にて、西北は神崎町と隣接す。北は川を隔てて茨城縣稻敷郡と相對す。中部以南は丘陵地にして森林多く、北部の利根川畔には低地ありて水田をなし、一部沼田を交ふ。農業行はれて米を主産し丘陵間には畑地ありて麥を産す。その他養蠶・養鶏も盛なり。鐵道は北部を横走し、又これより分れて南走するものは、印旛郡成田町等に通ず。省線成田線また北部を東走し郡驛(明治三十一年設置)を置く。この地は古へ本郡の邑にして總領村と稱し、のち郡村と改稱せり。古昔の本郡家の所在地にして郡村の稱これに基因す。大字武田の磐石は南方に廣く、北方に狭し。武田信光なるもの之に居り、藤原石見守の子四郎なるものに至り天正年中、小田原役に從ひ敗れ城廢す。大字大貫の陣屋跡はいま民家となり、陣屋跡と稱す。徳川氏の時、津藩藤堂氏この附近の地を分領せしとき陣屋を此に置き、以て之を管し維新に至り廢す。大字古原には古山磐石あり、此地は古山・原宿の二村たり、東國戰記に古山城主秋山内記四郎とあり、大字郡に備島氏の陣屋跡あり、慶長十年、鍋島氏分領五十石を此地方に給せられしを以て陣屋を此處に設け、元禄十一年三月に至り

之を廢す。

【米澤村】長野縣信濃國諏訪郡の北部。上諏訪町の東約四軒。東は北山村、南に湖東・永明二村、西に四賀村あり。村の西北部は山地をなし、東南部は上川の扇状地に當りて低地をなす。村は北方の車山(九二五米)の南麓と、東南方八ヶ岳の泥流との縫合線にあたり、上川に沿つて耕地開け、水田は河岸に、其の外側山麓は桑畑となる。村は鹽澤・北大鹽・錦物師屋・塩原田の集落を中心として發達す。鹽澤には温泉湧出す。耕地面積三一〇町にて全面積に對し一二%を占め、田一六八町・畑一四二町、うち桑畑一三九町にて畑は殆ど桑園化し養蠶業また卓越す。古くは和名抄、諏訪郡山鹿郷の内。

【ヨネシロ】米代川 秋田縣の河川。

流域は縣の北部を占め、上流の一部は岩手縣に屬し、田山谷盆地・鹿角盆地・大館盆地・鷹巣盆地を貫き、能代海岸平野に出で日本海に注ぐ。上流は田山谷盆地の周縁山地の水を集め、鹿角盆地に於ては花輪の南方にて熊澤川・夜明川を合せ、毛馬内附近に於て十和田湖の南斜面に發する大湯川(その支流に米澤川より来る安久谷川あり)、小坂方面より来る小坂川を合せ、大館盆地に於ては、扇田に於て南より来る岸川を合せ、大館附近に於て東より来る長木川と、北の矢立峠より来る下内川とを合せ、鷹巣盆地に於ては、南より来る大阿仁川・小阿仁川を合せ、能代平野に出づ。この間大館より能

代に至る間の北方の羽後・陸奥國境山地の秋田の杉の養林地帯に發する岩瀨川・早川・藤原川等は、米代川の支流にて何れの谷も杉材の運搬に利用さる。本流は鐵道開通前は、川口の能代への流村に利用され、鐵道開通後も一部の運材は新これによる。本流域には小坂・阿仁等の嶺山あり、各盆地には田山・花輪・毛馬内・小坂・大館・鷹巣等の中心地あり、川口の能代は製材業盛大にて、この流域の經濟文化の中心なり。

【ヨネズ】米津 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外六箇村と共に廢され、明治村を置く。

【ヨネタ】米田 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に賀茂郡米田郷あり、その地今の加茂郡上米田村・和知村・八百津町等に當る。

【ヨネタ】米田 兵東縣播磨國加東郡の中央東偏。社町の東北隅に接す。北・東・南の三面は丘陵に圍まれ、中央北偏にも東北境より延び来る小丘が聳居し東南麓に湖沼あり。中部には東西に長き低地發達す。米・粟・粟類・麥類・蔬菜・花卉・食用農産・繭・果實・蠶製品・鶏卵・林産等あり。縣道が中央を東南より西北に貫き、省線福知山線相野驛(東々北方約八軒)及び社線福知山線相野驛(西北約四軒)へは共にバスの便あり。中世の久米庄及び吉田庄の各一部を含むより、米田村と名づく。(朝光寺)畑にあり。古義眞言宗。

その本堂は桁七間、梁間七間、四注造本瓦葺の大字にして、室町時代のもの認められ、國寶たり。

ヨネズ——ヨネタ

【米田町】兵東縣播磨國印南郡の南部。加古川の右岸に位置し對岸は加古郡加古川町なり。西南隅に九米の小山あり、その他は全村地形平坦にて到るところ沃野をなし、東南境に沿ひて加古川が西南流す。米・麥類・蔬菜・花卉・食用農産・果實等の農産多く、毛織物の産額著しく、繭・蠶製品等もあり、また鶏卵も産す。山陽道は北部を横斷し、之と交叉して南北に走る縣道あり。姫路市へバスの便あり。省線山陽本線も北部を通過して賣殿驛(明治廿三年設置)あり。近世版南庄と稱したり。昭和三年町制を布く。

【米田村】熊本縣肥後國鹿本郡の中央西偏。菊池川中流の左岸に沿ひ、北境中央は山鹿町に隣接し、西は玉名郡に界す。村形は北に彎曲せる馬蹄型をなす。西南部は南方に彎ゆる米野山(三二二米)の北麓斜面地帯にして、中部及び東部にも稍々台地あり地形概して平坦なり。菊池川は北境に沿ひて彎曲しつゝ西流す。田畑よく拓けて米・麥・繭の産多く蔬菜の産もあり。北部を縣道が横斷し山鹿町へバスを通じ交通比較的便利なり。大字志岐に倉松臺と稱する丘陵あり。明治十年三月に第三旅團兵これを取り、山鹿の賊兵を追落せし所とす。もとコマタと呼びしも、今は専らヨネタと稱す。大字南島に笠掛臺と呼ぶ森あり、昔、在原業平筑

赤に赴き、この地に領死せるをこの森に葬る。彼のなまけをかけた女、悲ひ來りこの塚を見て悲しみ、傍の池に身を投じたりしが、その折に側の森に笠を掛けたる故に笠掛臺の名起ると。

【ヨネドミ】米富村 熊本縣肥後國玉名郡の中部。南瀬川の南約三軒にあり。南方約四軒には高瀬町あり。西境南部には筒ヶ岳(五〇一米)聳えて西部及び南部はその斜面地をなす。西部・南部の斜面に圍まれて中央には東々北方へ開く淺き谷ありて東部にて東南々方へ向ひ、南隣石貫村の谷を経て、菊池川下流の平野につゞき、こゝに菊池川支流の一細流が流る。東隅には二〇九米の丘陵あり。産物は米・麥・粟等を産し茶の特産あり。東部に主要道路が南北走し南瀬町・高瀬町へ自動車あり。村の西南に小代山あり。小代氏累代の居城ありし處とす。もとメトミと呼びしが、今は専らヨネドミと稱す。

【ヨネノシヨ】米之庄村 山鹿郡の三重縣伊勢國一志郡の東部。松阪市の西北約一軒にあり、東南部は飯南郡に界す。地形概して平坦なり。米・繭・麥・鶏卵等を産し工業額も多し。參宮道・省線參宮線・省線名松線・社線伊勢電氣鐵道と社線參宮急行電鐵等が村内を縱斷し交通の便頗るよし。古くは和名抄、民太郎の内とす。明治二十二年市場庄・久米・中ノ庄・上ノ庄の四村を合して本村を建てし際、各その一字を取りて米之庄村と稱

す。(水善寺)大字上ノ庄にあり。曹洞宗。草創年次不詳。阿彌陀如来坐像一軀(木造、藤原初期作)は國寶。

【ヨネハラ】米原 鳥取縣日野郡にありし村。大正七年に金澤村と共に合して日光村を建つ。

【ヨネフ】米生 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三毛郡米生郷あり、その地今の三池郡鞍馬町および玉川村の邊に當るべし。

【ヨネマル】米丸 石川縣石川郡にありし村。昭和十年に金澤市に編入す。

【ヨネヤマ】米山 宮城縣陸奥國登米郡の南部。登米町の西南約一〇軒。南は遠田郡に接す。陸奥平野の東部。大谷地低地帯に屬し、全村概ね平坦なり。西部に千貫谷地ありて土地低濕なり。道川は東北方より來り北・西・南の境をなして東南に流る。米・繭・麥を産す。道路には東部を東北に向ふもの、及びこれより分岐して西南に向ふもの等あり。北方の社線仙北鐵道佐沼驛へ約五軒。バスの便あり。古くは和名抄、小田郡賀美郷の内とす。桓武天皇紀、延暦二十三年の條に小田郡中山橋見ゆ。その地は蓋し大字中津山の地なるべし。また弘仁六年に小田の團に兵士千人を加ふとあるもこれなるべし。

【米山村】新潟縣越後國中頸城郡の東北隅。柿崎町の東北に接し西北は日本海に臨み、東北は刈羽郡に界す。米山丘陵の主峯米山(九九三米)の西北斜面を占め、

海岸は断崖をなし、奇巖形跡に富む。東南境の米山丘陵に出づる三小流ありて流域に多少耕地を見るも他は概ね山林をなす。米・藪の産あり。海岸棄落は漁業に、山地の部落には林業行はる。越後油田の南西端部に属し、二三の石油鑛區ありと現在のところ何れも振はず。又夏季は東北海岸の青海川海水浴場を以て賑はふ。北陸道及び省線信越本線共に海岸を走り、後者の鉢崎(明治三十年設置)、青海川(明治三十二年設置)を置く。この地に薄政の頃、關橋設けられ、高田侯の番所ありき。もと鉢崎といふ。大字上輪は北陸街道にかゝり、その山中に龜坂坂といふ大切所あり。即ち上杉謙信が一族の政を破りたる所とす。この地は古くより「行こかまらんしゆか米山の薬師ひとつア身のためサ、ゆしのため」の米山甚句を以つて著名なり。靈峯米山は消火山にして圓錐形を成し標高九九三米、高からざるも海岸に直ちに聳立せるを以つて夙に名高し。山頂に謂ゆる米山薬師あり。奉禮大師の遺蹟を説く。長くも明治天皇には明治十一年北陸東海御巡幸の御この地にて御小休遊ばさる。苑惠紀行「あくれば米山へ志しぬ、遙々とよち上りて、絶頂より瞻望するに、煙水茫茫として山また天に連る。雲のほのかゆければ山もかきなれる波の千里に秋かぞぞ吹く。漸うよるほひり待るに、雲の底に雷寺の鐘の聲埋れ消えて夕の雨いと身にしみかへり、打拂ひゆく袖し

しほたるれば、漸う鐘の聲に暮息し侍れども、あくる夜の空さへ残雨なほ晴うして、また立出侍る。東遊記「北地の人越後を二つに分ち、上越後、下越後といふ、上越後は高田領赤魚川領等といふ、其東に米山といふ高山ありて、其西の麓に關所あり、其所を鉢崎と云、親米山といふは登り下りに三里の山にて、此あたり第一の高山なり、誠に越後を二つに分けたる山也、此山高しといへども奇妙の山にて、山上七八分までも山中に田作して水が、りよしと也、故に米山と名付ると云、余は只通り道一筋の事にて、山中に入らざれば、委しきこと見及ざりしかど、高山にて米穀の生ずるは珍敷事也、西國にては肥前の雲仙嶽、三里登りて絶頂に水田ありて農家あり、其外はいまだ聞ざることなり、誠は是等をや賣山といふべき。」(明治天皇の青海川行在所)指定史蹟。明治十一年北陸東海御巡幸の際、九月十三日及び還幸の御同月二十四日御遊覧を召されたる處にて舊規模よく保存せらる。(明治天皇上輪新田御小休所附御請水)指定史蹟。大字上輪新田にあり。明治十一年北陸東海御巡幸の際九月十三日及び、還幸の御同月二十四日御小休所となりたる處にして、舊規模よく保存せらる。附近に御請水の泉あり。〔龜崎神社〕村社。祭神、豊田別尊・息長足尊等外二神。俗に源經親没落の時、夫人此處にて出産胎衣を埋むと傳へ、安産を祈る者多し。(大泉寺(大清水観音))

大字大清水にあり。新義直言宗豊山派。東山と號し、俗に大清水観音といふ。白鳳元年奉禮の草創。永祿二年雷火に炎上せしも爲堂これを復興す。天正七年上杉登勝出羽米澤移封の砌、寺僧多く之に従ひて寺運衰へし、著名なる觀音靈場とし衰者多し。本尊觀世音菩薩。觀音堂は國寶。城内に名木燈籠あり。

田野をなす。米の主要なる産地なり。南北・東西に貫走する縣道村内に交錯し、省線越後線の吉田驛及び彌彦線の燕驛に近くパスの便あり。

ヨヘツ

長く、南境の加部島・小川島等を含む。全村丘陵地にして、中部には北方より約一軒ばかり南方へ突入する狭長なる小洲あり、市街地は其東岸に並び、一軒たらずの西北海上に横はる俗座を離れたる神仙境の加部島に對しこゝに呼子港が發達し、潮水の如く美しき海に臨める有名な漁港なり。東隣の濱村には七ツ釜の奇跡あり。其附近の土器時より呼子港に至る三海里の沿岸は又すばらしき玄武岩の峭壁が連りて一壯觀をなす。北方海上には白鳥・鷹島(燈臺あり)等を隔てて小川島・平瀬・屋形瀬等が横はる。西部は隣村との間に南方へ深き切りこみなせる名古屋浦に面す。呼子港は捕鯨の中心地にて鯨の軟骨を拍賣したる名産「松浦漬」の本場は即ち此地なり。麥・米・藪等の農産もあり。東南方の唐津市より呼子港へ縣道通じ自動車の便あり。近海路線汽船出入し海路交通便なり。海底電線は豊岐・對馬へ通ず。昭和三年に町制を布く。呼子港は支那圖書編に肥前州築紫府とあるは、この呼子港が事なり。また國花萬葉記に呼名の浦とあるもこれとす。古來、良港として知られ、内外航路の要衝に當れり。吉野朝時代に九州探題、今川了俊の弟仲秋は兵船を率ゐて肥前に進入すべく上陸せしこの地なり。その他日本抄路記・海路記・江海風帆草・名處小鏡・海東諸國記などにも呼子の名は記され、海路記には「松浦呼子は日本第一の港なり、上下の舟東西の風に出帆する

に、何れの浦よりも勝れたり云々」と見ゆ。(田島神社)加部島に鎮座。國幣中社。祭神、多紀理屋賣命・市杵島比賣命。多岐都比賣命。延喜の制式内名神社に列す。然し祭神は三座なれど主祀は一座とす。蓋し三神中何れか一神を主祀せるものならんも今詳かならず。創建年代は詳かならざるも、田島神社由緒書に「祭神源津姫尊、田心姫尊、市杵島姫尊、和武武王命、大山祇命(中略)、田島大明神と申奉るは、天照大神宮の御弟、素戔嗚尊御子三女神、神代より鎮り坐すに依りて姫神と稱し、異國降伏の爲、西北に向ひ鎮座し給ふ」とあり。神名帳頭注・和漢三才圖會等に當社祭神を稚武王とせるは、相殿と混同したるものなること勿論にして、社傳に據れば、聖武天皇天平三年の祀祀に係る。歴代天皇の崇敬厚く源滿仲亦深く崇敬し祭田を寄進せしが、其子頼光肥前守に任ぜられて當國に下るや社殿を造營し石鳥居一基を建つ。當時の石額いま尚ほ存し田島の二字は佐理卿の筆なりといふ。また豊臣秀吉征韓の役を起すに際し數度參拜し神領百石を寄進せり。社賣中太刀(銘、備中國住人吉次)は國寶たり。例祭、九月十六日。

〔余別村〕北海道後志國後志支廳積丹郡の西部。積丹半島の西北端に位し、西及び北は日本海に面す。東は入刺村、南は古守郡に接す。面積八三・八一平方軒。村内悉く山地に蔽はれ、東南境に余別岳

置す。

ヨヘツ—ヨミカ

ヨヘツ 余別

ヨボノ 丁野

ヨミカキ 讀書村

南は香葉村・田立村、西は岐阜縣郡部川上村、北は大桑村なり。木曾谷の南端坂下町(西南約六軒)にて建す。村の東部山地は木曾山脈の南木曾岳(一六七七米)・掛古木山(二六九米)・高曾根山(一一一九米)等聳立し、木曾川の西部は飛騨山脈の南部にして奥三界岳(一八一米)峙つ。村内に於ける飛騨山脈は二〇〇米より一五〇〇米に一平地面をなす。木曾山脈は九〇〇―一二〇〇米に一平地面を有し、準平原の痕跡を留む。村

り。こゝより約一軒の上流大桑村野尻に於て木曾川本流を堰止め、右岸に取入口を設け、支流阿寺川及び帯箕川の水を合せて延長一三軒の水路を通じ、毎秒時千六百箇の水を導く。水は一且水槽に入れて水勢を緩和せしめ、三條の鐵管によりて有効落差三二〇米を直下せしめ、三臺の水車及び發電機を備かして、總計四萬九千ワットの電力を發生せしむ。

【譽田神社】 大字横内に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊外二神。社傳に、嵯峨天皇朝、空海の勸請して、虚空藏院の鎮守とす。例祭、十月一日。(與田寺) 大字中筋にあり。古義眞言宗。譽王山虚空藏院と號す。天平年間、行基の草創、自刻の薬師如来を安置せしに始まるといふ。大同年間、空海更に堂宇を再建、密教弘通の道場と定むといふ。天正年間、兵燹の爲め一山悉く焼亡せしが寛永年間再建さる。額本若色佛涅槃圖一幅(藤原期)・同地蔵曼荼羅圖一幅(推察元朝以後の支那畫)は國寶なり。

一〇軒。全島荒山にして樹木なし。水缺乏す。嘗て島内に牧場を設け、牛・豚・山羊等繁殖せし事ありしも現在にては漁家のみに過ぎず。大正十五年に一大珊瑚密林を發見せるは此の近海なり。

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨモキ

【譽田神社】

【譽田神社】

【譽田神社】

ヨリソ 寄磯崎 宮城縣牡鹿半島の中央東方に突出する一半島。北方の女川湾と南方の野々濱とを区分し、標式的イナス式海岸の地形を示す。島の沖合に足島・江ノ島・圓貝島等の江ノ島列島あり。半島と地質を異にして始原層より成る。江ノ島は海嶺の群棲地として有名にして、また舊幕時代の流人島なり。孤島として特殊なる風俗を残す。

ヨロイ

ヨロイ 兵庫縣城崎郡都村の大字。省線山陰本線の線路(明治四十五年設置)を置く。

【鑑岳】 松阪市の西方約四〇軒前後、奈良縣宇陀郡曾根村に時ち標高八九三米。噴出岩より生成せられ、巨大なる岩塊の山にして、側面の岩壁は三段の柱状節理の縦縞を織出し、恰も鑑の威し目の如くに見ゆるにより山名出づ。この岩壁上に金剛神社の社殿あり。福徳利財の神として地方の人の信仰厚し。この山の北方兜岳(九二〇米)と同型なるを以て兜岳を雌岳、鑑岳を雄岳ともいふ。

ヨロイ

ヨロイ 香川縣木田郡庵治村の屬島。五創山半島の突端、御殿の北方二軒の海上にあり、東に稻木島、北に兜島、西には大島(彌生所あり)、これ等の諸島は屋島、或は五創山上よりの展望に景絶を添ふ。周囲約一・五軒、高さ四二米。

ラ

ライ

ライ 内社 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ—ライテ

全村平地にして西川は村内を北へ貫流し沃田開かる。米を主産し、鑑岳には養魚行はる。略南北に省線越後線貫流し、越後曾根驛(大正元年設置)を置く。曾根・巻町間には鐵道通じバスの便あり。

ヨロイ

ヨロイ 鹿兒島縣大隅郡大島郡奄美群島の南端の與論島を占む。東西六軒餘、南北約五軒の島にして中央は丘陵地をなし四周に積々低地あり。海岸は積々屈曲し西部には一半島突出し北に赤佐港、南に供利港あり、四圍に珊瑚礁を繞らす。米・麥・薯等の農産及び林産・畜産・工業あり。また水産もあり。人口密度は三九四人なり。交通は赤佐港東岸の茶花を主とし、沖水良部島と交通す。(高千穂神社)大字足戸に鎮座。祭神、天津彦火命々許尊。明治三年の創建。例祭、九月十九日。

ヨワラ

ヨワラ 榎原村 宮崎縣日向國南陽郡の中。低肥町の西南方にて、東は細田、南は南郷、西は大東、北は酒谷の諸村に接し、南北に長く約十軒、東西は約四軒あり。南郷珂山塊の中部にて西北端に近く男鈴山(七八三米)、西端上に鹿久山(四八五米)、西南界に鶴取山(三六七米)等あり、東方に傾き概ね山地草野なるも、南部と北部とに小低地ありて多少の耕地拓く。省線志布志線は村の南部を東西に走り榎原驛(昭和十年設置)を置く。戦国時代以前よりこの地一帯を低肥

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

郡といひ、水陸年間より低肥藩伊東氏の領地となれり。明治に至り低肥南郷の一郡を割きて本村を建つ。(榎原神社) 祭神、大日靈貴尊・天忍穗耳尊外敷神。舊稱、榎原山大権現。例祭、十月九日。

等よく見らる。(雷神社) 大字雷山にあり。祭神、雷神、火雷神、彦火々出見尊外三神。古來この地は大足姫命の神蹟なりと傳へ、上下の崇敬を蒙り、殊に舊藩主黒田家は社地若干を寄進せりといふ。例祭、陰曆九月十六日。(大悲王院) 古義眞言宗。千如寺と號す。高野末。俗に雷山觀音と稱す。聖武朝以前の草創。醍醐天皇以來歷朝の勧進寺なり。源賴朝は怡土庄を寺領として寄せ、北條・足利二代また深く寄附す。豊臣秀吉・小早川隆景・黒田氏等みな朱印を寄す。千手觀音立像・清賀上人立像は國寶。

【雷山】 筑紫山脈香嶺山塊の一峯。主峯香嶺山(一〇五五米)の西方約一四軒に當り。北面は福岡市糸島郡雷山村に、南面は佐賀縣小城市北山村に屬す。標高九五五米。住古、山頂に雷電の神を祀ると云ひ、いま山麓に縣社雷神社鎮座す。山上部は草生地にして眺望に勝れ、高さ二米程の巨岩あり、遠見岩と稱す。神功皇后は應神天皇の皇居の地を相し給はんとてこの山頂に立ち給ひ、箭筒の地を御治定ありたりと傳ふ。山腹に神籠石あり、北麓に大悲王院あり、この山は古へ佛教の靈場として盛なりと云ふ。今は冬季スキー場として知らる。登山は北方の糸島郡前原町より自動車にて雷山村三坂部落に至り、更に四軒にて山麓に着し、ついで神社を経て建頂す。

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライ 雷山 臺灣高雄州潮州郡の蕃社。郡の東方山嶽地帯にあり、標高約五五〇米の地、高砂族の部落にして、パイアン族に屬す。戸數一九五、人口九九二を有する大蕃社なり。潮州街より自動車にて新置まで至り、徒歩約八軒にて達し、交通便利のため、蕃社視察者の杖を惹くもの多し。

ライ

ライハイ—ラクシ

ライハ 禮羽村 埼玉縣武藏國北埼玉郡の中郡。加須町の西隣にて、北は不...

ライハイ 禮拜 新潟縣刈羽郡内郷村の大字。省線越後線の禮拜驛(大正二年設置)あり。

ライアアン 社 臺灣高雄州屏東郡の舊社。隘寮北溪の上流右岸の山地にあり、標高約一〇〇〇米、高砂族の部落にてパイワン族に属す。戸數五四、人口三〇八(昭和十二年末)。

ライマ 來馬嶺山 黒松内村(北海)道。

ラウシ 良牛山 千島火山帯に属する一火山。北海道本島の東北端、根室・北見の國境をなせる知床半島の分水嶺に聳ゆ。コニテ型を呈し海拔一六六一米、その東南麓に羅臼の集落あり。

ラウス 羅臼村 北海道根室國根室支庁日高郡の北部。知床半島東南部を占め、根室海峡に東面す。西は北見國、南は標津村に接す。面積四〇〇・一九平方...

五七五

しむ。村内概ね高峻なるも海岸に於て稍低くなり狭長なる平野を有す。海岸は出入乏しきも集落概ね此處に集り漁業を營む。特産に大野・昆布・蟹・鮭・鱒・鱈の産あり。中部山中の羅臼川上流の河畔に羅臼温泉あり。南海岸に準地方道通じ自動車の便あり。また羅臼港は根室港に定期航路を有す。昭和五年に植別村を改稱す。植別村は安政年間既にあり、明治九年、藤田四郎兵衛なるもの渡來、漁業を營みたるを以て開發の端をなす。

ラクシ 羅漢 廣島市の西方約三六軒に當る山にして、西面は山口縣玖珂郡秋中村・高根村・本郷村に、東面は廣島縣佐伯郡四和村に属す、標高一〇九米。冬季山腹の廣大なるスロープは廣島附近唯一のスキー場となり、夏季も登山に適し、來り遊ぶ者多し。

ラクシ 羅漢 省線政治原線の一驛(大正十二年設置)。徳島縣板野郡松坂村にあり。臺灣高雄州屏東郡の舊里名。旗山街の中、楠梓仙溪西岸の流域全部と、その北に接する内門庄の葉子坑・溝坪二大字を合したる地域に相當す。清領時代に建てられ、我が領臺後依然これを費用せしが、大正九年、地方制度改正により廢せらる。

ラカンナイモン 羅漢内門 臺灣高雄州旗山郡の舊里名。内門庄の東北部に葉子坑・溝坪二大字を除きたる範圍に置く。

ラカンナイモン 羅漢内門 臺灣高雄州旗山郡の舊里名。内門庄の東北部に葉子坑・溝坪二大字を除きたる範圍に置く。

ラクセー—ラクト

ラクセー 樂生面 朝鮮京畿道廣州郡の西南部。廣州邑の西南方約一五軒。全城三―四〇〇米の丘陵性山地を成し、東部には漢江支流の炭川北流し沿岸に於て、

ラクセー 樂生面 朝鮮京畿道廣州郡の西南部。廣州邑の西南方約一五軒。全城三―四〇〇米の丘陵性山地を成し、東部には漢江支流の炭川北流し沿岸に於て、

ラクセー 樂生面 朝鮮京畿道廣州郡の西南部。廣州邑の西南方約一五軒。全城三―四〇〇米の丘陵性山地を成し、東部には漢江支流の炭川北流し沿岸に於て、

ラクセー 樂生面 朝鮮京畿道廣州郡の西南部。廣州邑の西南方約一五軒。全城三―四〇〇米の丘陵性山地を成し、東部には漢江支流の炭川北流し沿岸に於て、

ラクセー 樂生面 朝鮮京畿道廣州郡の西南部。廣州邑の西南方約一五軒。全城三―四〇〇米の丘陵性山地を成し、東部には漢江支流の炭川北流し沿岸に於て、

ラケツ

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

ラケツ 落月面 朝鮮全羅南道靈光郡の西方海上三〇餘軒に横ばる二十餘の諸島嶼を包括せる海上東西五〇軒、

リアン 利安面

朝鮮慶尙北道尙州郡の北部に位置し、郡邑尙州の北方凡そ二〇軒にあり。小白山脈に属する芍薬山(七六〇米)西境に聳え、餘勢城内に及びて西北部は一部に山地を成せども、東南部は低平にして耕地發達す。住民は農を主業とし、傍ら養蠶・機械に従ふ者甚だ多し。農産物の主なるものは米・大豆・大豆・雜穀・棉花・繭・干柿等あり。山下咸昌黒鉛山の鑛區は富田より咸昌面・慈嶺面に跨る。即ち富田の南東方に當り、山下黒鉛鑛業會社の採行に係る。昭和十年には土狀黒鉛二、五四二噸(價額五萬餘圓)を産出す。社線朝鐵慶北線は東南部を縦貫すれども停車場なく、隣接の咸昌に停車場ありて之より三等道路により連絡す。城内道路の改修未だ充分ならずして、特に北部の山地區は交通・運輸共に不便なり。

リキコー 力合村

熊本縣飯俣國地誌郡の南部。白川の南岸に對し對岸は熊本市なり。全村地形平坦にして北境に沿ひて白川が西流す。田畑よく發達して米・麥類・粟・甘藷・他其他の農産物を産す。鹿兒島街道が東境を縦走し、東部には省線鹿兒島本線が南北に通過して川尻驛(明治二十八年設置)あり。川尻驛

リ

リキホ

朝鮮平安南道大同郡龍淵面の主邑。總督府鐵道京義本線の力浦驛(明治四十七年設置)あり。

リキョト

鯉魚頭。臺灣臺中州竹山郡の舊堡名。竹山庄の東邊、清水溪(濁水溪支流)流域一帯の地。勞水坑・桶頭・山坪頂・福興・田子・鯉魚尾の六大字を合したる地域これに相當す。清領時代に立てられしより我が領臺後も依然之を襲用せしが、大正九年地方制度改正に至りて廢せらる。

リキリキ

臺灣高雄州湖州郡の舊社。浸水越道路北側に接近し、標高約七六〇米、パイワン族に屬する高砂族部落なり。戸數一七〇、人口九〇六(昭和十二年末)を有する有数の大舊社。潮州より枋寮を經、浸水越道路を東進して至るを便す。

リクウ 陸羽

陸羽街道。奥州街道の別名。↓奥州街道

リクセ

【陸羽東線】省線陸羽東線の一部。宮城・山形二縣に互る。陸羽東線(小牛田・新庄、延長九四・一軒)・陸羽西線(新庄・余目、延長四三・〇軒)・石巻線(小牛田・石巻、延長二七・九軒)の三線を含み、總延長一六五・〇軒。

リクチュ

【陸羽東線】省線陸羽東線の一部。宮城・山形二縣に互る。東北本線小牛田驛より分岐し中新田驛・界田驛等を経て奥羽本線新庄驛に至る。全長九四・一軒。新庄驛にて陸羽西線と接続し、中新田驛にて社線仙臺鐵道に接続す。

リクセ

【陸羽西線】省線陸羽西線の一部。山形縣最上・東田川の二郡に互る。奥羽本線新庄驛より發し津谷驛・清川驛等を経て羽越本線の余目驛に至る。全長四三・〇軒。新庄驛にて陸羽東線と接続す。

リクゴ

【陸羽西線】省線陸羽西線の一部。山形縣最上・東田川の二郡に互る。奥羽本線新庄驛より發し津谷驛・清川驛等を経て羽越本線の余目驛に至る。全長四三・〇軒。新庄驛にて陸羽東線と接続す。

リクセ

【陸羽東線】省線陸羽東線の一部。宮城・山形二縣に互る。東北本線小牛田驛より分岐し中新田驛・界田驛等を経て奥羽本線新庄驛に至る。全長九四・一軒。新庄驛にて陸羽西線と接続し、中新田驛にて社線仙臺鐵道に接続す。

リクセン

【陸羽東線】省線陸羽東線の一部。宮城・山形二縣に互る。東北本線小牛田驛より分岐し中新田驛・界田驛等を経て奥羽本線新庄驛に至る。全長九四・一軒。新庄驛にて陸羽西線と接続し、中新田驛にて社線仙臺鐵道に接続す。

リクセ

【陸羽東線】省線陸羽東線の一部。宮城・山形二縣に互る。東北本線小牛田驛より分岐し中新田驛・界田驛等を経て奥羽本線新庄驛に至る。全長九四・一軒。新庄驛にて陸羽西線と接続し、中新田驛にて社線仙臺鐵道に接続す。

年設置)。岩手縣和賀郡湯田村にあり。

【陸中折井】省東北本線の一驛(昭和三年設置)。岩手縣磐前郡城村中野にあり。

【陸中川尻】省横濱線の一驛(大正十一年設置)。岩手縣和賀郡湯田村にあり。

【陸中門崎】省大船渡線の一驛(大正十四年設置)。岩手縣東磐前郡門崎村にあり。

【陸中中野】省八戸線の一驛(昭和五年設置)。岩手縣九戸郡中野村にあり。

【陸中夏井】省八戸線の一驛(昭和五年設置)。岩手縣九戸郡夏井村にあり。

【陸中花輪】省花輪線の一驛(大正十二年設置)。秋田縣鹿角郡花輪町下中島にあり。

【陸中松川】省大船渡線の一驛(大正十四年設置)。岩手縣東磐前郡松川村にあり。

【陸中八木】省八戸線の一驛(大正十四年設置)。岩手縣九戸郡八木村にあり。

【陸中山田】省八戸線の一驛(昭和十年設置)。岩手縣下閉伊郡山田町にあり。

【陸中八木】省八戸線の一驛(大正十四年設置)。岩手縣九戸郡八木村にあり。

地勢除々に東南に低下せり。河川沿岸を除けば五〇〇米を下らず。利別川山中を南流し中央にて流別川と合す。合流低地上に流別市街地あり。附近は土地肥沃、農耕に適し大豆・小麦・蕎麥・燕麥・大麦・馬鈴薯を産す。山地は森林多く、木材及び其の加工製品は本村主要産物なり。省線制定本線利別河畔を走り小利別(明治四十四年設置)・川上(大正九年設置)・流別(明治四十三年設置)の三驛を有し、また北見國に通ずる地方道あり。この地は明治三十四年開又一が国有未開地三百五十ヘクタールの貸付を受けて入地開拓に着手、和人士の嚆矢をなす。其後漸次開拓の歩進められ、大正十二年遂に一村を成して流別村と稱すに至る。

【梨月面】朝鮮忠清北道雲川郡の北部に位置し、郡邑龜城の北に相隣接す。東嶺山脈に属する武帝山(五七四米)・玉女峰(四五六米)等西境に連なり、地味肥沃にして米・大豆・大麦、其他雜穀・棉花・烟草・蕪草等を産す。道路は南方嶺川より来る三等道路、面の略中部を北方山嶺へ縱走し、聯合自動車の便あり。其他は等外路線にして改修未だ充分ならず。果物は東中部に多く分布し、美湖川右岸の中山里を主邑とす。その西方老院里は鶯の渡來するもの多きを以て著はれ、いま天然記念物に指定せられ、また本面を中心として萬升面・徳山面、並

に隣接郡大所面に互る地域はマナヅル渡來群棲地として知られ、同じく天然記念物に指定せらる。

【梨峴面】朝鮮平安北道龜城郡の南部に位置し、郡邑龜城の西南約二〇軒、宜川の東方一五軒に在り。南境には佳人居(五三六米)、東部に吉祥山(五九五米)等聳え、城内四〇〇乃至五〇〇米内外の低山性山地を成し、北東の雲川江沿岸に稍平地を見る。また西部には東江流嶺南方に至る。これ等の流域並びに山岡の緩斜面を開墾し以て耕地となせるも、後者は水利を缺き畑作農業を主とし、水田に乏し。住民は質實勤勉にして大部分農業に従事し、又行商に従ふ者あり。産物は米・小麦・粟・稗・大小豆・玉蜀黍・蕎麥・大麻等にして殊に東南部の地域には金・砂金・黒鉛の産あり。中央より偏在せるを以て、交通便して便ならざるも、北部には龜城・宜川間を結ぶ自動車道路通す。(吉祥嶺山)面の南部、吉祥嶺にあり。朝鮮礦業開發株式會社の經營にして、鐵礦は金・黒鉛。昭和十年中の産額は金一〇、五六二瓦、銀九、七五五瓦、金銀鐵三、〇〇〇噸、この價額計六五萬餘圓なり。同年六月末現在使役人員六八二名。

【利原】朝鮮咸鏡南道二府十六郡の一。道の東北部に位置し、北は端川郡に、西は北青郡に隣接し、東南は日本海に面す。注江三角形をなし、面積四五〇・五平方

は本嶺にして、嶺區數凡そ五、いま元山及び西山等に於て採掘せられ、昭和十年中の産額は二二七、七八三噸、その價額一二七萬餘圓、同年六月末現在使役人員一、四二一人を算す。利原鐵山會社は、大正四年の創業にて、當時世界大戦の財界好況時代に事業を擴張し、年産三〇萬噸を採出せり。鐵石はその目的の爲に敷設せられたる鐵山線の利原鐵山驛(昭和四年設置)より同線及び端川線によりて端川港に搬出し、同港より内地へ輸送せらる。

【里港庄】臺灣高雄州屏東郡下五庄の一。郡の西北部、下淡水溪の上流東岸に位置す。東は高樹庄に、西は下淡水溪を隔てて鳳山郡に、北は下淡水溪の支流たる老濃溪を隔てて旗山郡に、南は九塊庄に夫々隣接す。管内は概して平坦なるも地勢は東部高く、西方に向ひて傾斜す。本庄下住民の大部分は福建族にして、主として農業に従事す。管内は純然たる農村にて、近年、下淡水溪沿岸工事の完成と共に墾地化して良田となるもの多く、農業著しく盛となり、其の生産額も亦増加せり。本庄下農業戸数は地戸数の約七割を占め、農産額年約百萬圓に達し、米・甘蔗・甘藷・芭蕉・豆類を主産物とす。また庄下の武洛には常盤村・千歲村等内地人移民部落ありて、専ら黄色種業糖草の栽培に従事し、地方産業上一偉觀をなす。また農家に於ては、副業として牛・豚・家禽等の飼育をなす者多く、

是が生産は本庄下農民の重要な財源をなし、管外搬出多し。商業は、管内が純然たる農村なるも、近くに屏東市を控ゆるを以て、商取引は不活潑にして、單に日常必需品に限つて取引せられ、農産物及び其加工品は概して屏東市に於て取引せらる。金融機關としては、僅に信用組合を有するのみ。教育状況を管見するに、學校教育に於て當管内には、小學校三、公學校一、分教場一を有し、小學校中の二校は移民村の兒童を收容す。また社會教化機關としては、青少年團・庄民風作會・農業實行組合あり。特に本庄には里港神社ありて、里港住民の敬神崇祖の淳俗を振作し、青年子女の精神教化上好影響を齎しつつあり。交通は未だ便ならずと稱すべからざるも、屏東市よりは九塊庄を経て本庄に連する大道路あり、自動車運行自由なるを以て管内貨客の運輸に事少し。本庄の地往時は平埔蕃族マカッサオ部族のタアラウ(塔樓)社及びグアラタ(武洛)即ち大澤機社の所在地に屬し、現大字塔樓及び武洛は其據址とす。清の康熙年間、閩粵人の足跡を及ぼし、同五十年代には阿里港(現里港)地方に建庄を見、港西上里なる行政區劃内に入れり。雍正年間には楊・王の二姓壘首と爲り、里内の大部を拓成し、乾隆初年には阿里港街成れり。平埔族武洛社が漢族の爲に故土を侵佔せられて、東方山脊界に移住地を開きしは、康熙年間中に在り。當初、山麓と麓々街突せしが終に成

新、道中の最小郡なり。東南面を除きては完全に山地を以て圍繞せられ、北境には鶯徳山(一〇〇一米)・鶴峰(八七〇米)、西境には廣嶺(最高點五六二米)・鶯徳山(一四〇八米)・鶯峰(九三一米)等聳立し、一支脈は南部海岸に三―四百米の山地を起し、官山(四一三米)ありて海崖をつくる。河は西北境の廣嶺に發する南大川、鶯徳山に出づる東大川等あり何れも東南流して海に入り、殊に南大川流域を中心として廣き平地ひろく、海岸は水平的肢節に富み、利原泊地並に端湖は最も良港にて船舶の繫泊に適す。島嶼は全椒島・鶴島等數島あるも、全椒島のほかは概して無人島なり。氣候は地形及び海洋の關係上、同緯度の土地に比して比較的溫暖なり。産業は農業・水産業・工業に亘れり。盛にして、昭和十年中の生産額は農産一二七萬圓、水産二二萬圓、工業二四七萬圓を示し、その他林産二萬圓、礦産六八萬圓等を合し、生産總額七百萬圓に近く、一戸當り生産額は八〇二圓に上り、各郡中の上位に居る。農産物は米(二萬石)・大豆(一・五萬石)・大麦・馬鈴薯・大麻、その他雜穀にして、苹果・梨等の栽培行はる。大豆は特に良質を以て開え郡外に移出せらる。漁業は群魚・端湖を根據地として鰻・明太魚・鱈・鱒・鱒・鱒等の漁獲多し、その他若布・帆立貝・鮑・うに等を産し、鰻油(八七萬圓)・鰻(四〇萬圓)を始めとし、鹽干魚・鰻節類の水産製造盛なり。礦産は利原鐵

力を以て是を産し、拓地定住せり。康熙末年巡撫御史黃叔象の審俗六考に「武洛社、性靈悍、逼近鶯徳山、先是鶯徳生蕃、賦其社小人、賦賦之、土官糾集社蕃、往闕大收生蕃、賦其未無算、由是鶯徳偏服、不敢賦賦、こゝを以て其勇を知る」として用ひられしが、大正九年十月一日地方制度改正に際し、本里下の一街六庄(現大字)の地を割きて、里港庄なる一庄を建て、高雄州屏東郡の管下に歸せしめたり。

【麗州】朝鮮京畿道三府二〇郡の一。道の東南部に位置し、北は楊平郡、西より西南は廣州郡・利川郡に面し、東は江原道原州郡、東南は忠清北道忠州郡に界す。南北に稍々長く、面積約六四三平方軒あり。北部に低山性の山地東西に連り、楊平郡との境に嶺山(五四三米)・注邑山(五八三米)・楊子山(七〇四米)など聳え、廣州郡との境には天徳山(六三三米)等あり、南東境にては楊甲山(六〇九米)著はれ、其他域内にも老年性の丘陵起伏するも、これ等丘陵地帯間には平地闊く拓く。漢江は南方より來り江原道との境にて端江の長支を穿れ、西南部の平地を灌溉する清美川・楊花川・福河川及び北部山地に發する金塘川等を合しつつ、東南―西北に貫流し、灌溉、舟運に便す。農業を主産業とし、耕地面積大にして(約二萬ヘクタール)、水田は一部に二毛作

行はる。昭和十一年統計に據るに、農産物は米八萬一千石、大豆一萬七千石、大豆一萬四千石、棉花六三萬斤等の收穫あり。其他、小麦・小豆・粟・苧草・楮・甘藷・馬鈴薯等を産す。副業には養蠶・養鶏又は牛・豚の飼育行はれ、工産物としては織物・陶磁器・薬加工品・履物・酒等あり。鑛産は金を主とし、麗水金山や著はれ、また良質の磁石を出す。鐵道は社線京東鐵道麗水線が西方利用より來り、梅津を経て漢江を岸の麗水邑に達し、麗水邑を中心として西北方揚平を経て京城へ、西方利用、東方原州、南方長湖院へ、何れも良路を通じ、漢江の水運と相俟つて交通は便利なり。行政上、十箇面に分ち、郡廳を州内面の麗州邑に置く。本郡はもと高句麗の骨及縣にして、新羅朝に至り武寧と號し、高麗の始め高麗縣となす。のち永義・麗興と稱し、江原道原州に移設せしめられしことあり。李朝太宗王の時、除竹縣の北部を併せて忠清道より京畿道に移屬し、睿宗元元年に始めて麗州と名付け牧を置きしが、のち復た郡守を置きて現在に至る。

リシリ 利尻

【利尻郡】 北海道北見國宗谷支廳の西海上。利尻島一島を占む。支廳管下四郡の一。稚内町の西南海上に横ばり、四週日本海に圍まる。西北方約一〇軒の海を隔てて禮文島あり。面積一八四・一九平方

軒。人口一六、四四四。郡は磐泊・青形・他法師・鬼藤の四ヶ村を含む。略々圓形の火山島にして中央にコニーア火山の利尻山(一七一九米)聳ゆ。四周に放射狀の傾斜をなして島内概ね山地に占められ、その裾に海岸平野連れり。灌溉の便乏しく地味肥沃ならざれば、耕地少し。島内は利尻山を中心し約四分が分されて村内の區劃とせり。各村とも崖落は概ね海岸に存し漁業を主となす。一體に海岸線の出入乏しきも北に磐泊灣の出入を有し、磐泊灣あり。灣口左岸のメッ岬は燈臺を有す。鯨・昆布・蟹・鮭等の漁獲多し。磐泊・青形は本郡に於ける主要漁港なり。海上交通便にして、各村より天鹽港・稚内港に至る汽船の便あり。

リシニ 利尻島

【利尻島】 北海道北西岸の沖合、日本海に浮ぶ利尻島の中央に峙つ山。利尻島全島はこの山を以て構成せられ、山裾は海岸より起り、周囲約六〇軒に達す。截頭圓錐形の消火山にして一に利尻富士または北見富士と稱され、端麗なる富士形をなす。標高一七一九米。山頂部には男性的なる岩壁時、岩登りを樂み得らる。山上部は飯松を以て掩はれ、その間に多種多様の珍奇なる高山植物咲き亂れ、特にヒメイハクマ・エゾノイブキトロナチ等の珍草あけて植物學上注目し値す。登山は昔より島民によりて行はれしが、近時植物研究者及び一般人にして登山する者を著すに至れり。この山に登るには小

樺または稚内より海路によりこの島の南東端鬼藤に至り、それより登高す。また島の北岸磐泊より登山可能なり。冬季登山も興味あれども四〇〇米以上はシ・タイグアイセンを要す。

リシシ 梨津灣

【梨津灣】 朝鮮咸鏡北道富寧郡東部の灣。東角は花嶺山の山肢のなす花嶺、西角は非所嶺にして、灣口の幅凡そ九軒、奥行五軒餘。ほぼ中國を描きて南に開口し、水深くして航行に適す。灣内北岸は低砂濱をなし、ここに葉清川流入し、河口の東方に潟湖發達す。灣の東北隅に梨津港あり、沿岸航路の寄港地にして、又漁港をなす。

リシシ 里仁面

【里仁面】 朝鮮咸鏡南道豊山郡にありし面。いま豊山面と改稱さる。

リシシ 利仁金山

【利仁金山】 朝鮮忠清南道公州郡にある金嶺山。嶺區は濠川と木洞間に跨る。東洋拓殖會社の濠川に係り昭和十年には金六、二六二瓦、銀六、〇一瓦、金銀鐵二三六三(この總價額五萬五千餘圓)を産出さる。

リシシ 東西面

【東西面】 朝鮮平安北道江界郡の北端部に位置し、郡邑江界の北方約二五軒にあり。狼林山脈の北端部に位置し、東境近くは月起峰、南境に梨嶺(一〇〇八米)、西境に駒嶺山(八八三米)、北境に月起峰(二二三八米)など一千米内外の高峰を以て圍繞し、餘勢城内に及びて山岳重疊し、高峻にして平地に乏しく唯僅かに秀魯江支流乾浦川の沿岸に何處段丘の發達を見る。耕地は水利に乏しく

畑作農業卓越す。農産物は粟・豆類にして大豆の産額が道中の首位にあり。また蜂蜜・薪炭等を出し地産の鹽産行はる。道路は中央の面邑松鶴洞を中心として東北方惠山嶺、西南方滿浦嶺に各二等道路、南方江界に三等道路を通じ、前者は比較的坦路にして自動車の便あり。

リシシ 利川

【利川郡】 朝鮮京畿道三府二郡の一。道の東南部に位置し、北は廣州郡、東は驪州郡、西は龍仁郡・安城郡に隣接し、南は忠清北道陰城郡と界す。南北に長く三〇軒に餘り、東西は平均一〇軒前後にして、面積四六一平方軒餘あり。地勢は西南より北東に向つて緩傾斜し、城内は老年性の丘陵性臺地をなす。從つて山岳としては、北境の天徳山(六三四米)・羊角山(三八八米)、西境の乾芝山(四一四米)・南境の馬耳山・林島山(三四四米)等をやや著しきものとなし、而も城内には二百米を越ゆるものすら少し。北部には福河川、中部に揚花川、南部に清美川の三川あり、何れも北又は東北に流路をとりて驪州郡に入り漢江に注ぐ。之等諸川の流域には田圃沃野ひろく相連り、灌溉の利に富む。氣候は寒暑ともに酷烈なれど、全道に比較すれば中位にして、京城よりやや温暖なり。耕地は約一萬七千ヘクタールに及び、その七割弱は水田にして、一部には二毛作行はる。昭和十一年統計によれば、農産物は米一六萬七千石に達し、大豆一萬三千石、大豆一萬四千石、

棉花九五萬斤、苧草三萬六千貫等これにつき、其他小麦・小豆・大麻・苧・胡麻及び甘藷・白菜・甜瓜等の蔬菜並に果實を産す。副業としては養蠶(産繭高、四萬七千疋)、牛豚の飼育、養鶏(産鶏高、四萬七千疋)、植物業油桐等あり。北部を社線京東鐵道東西に貫走し平川・西山・利用等の驛あり、道路は利用邑を中心として西方水原、東南方長湖院に各一等道路通するを始めとし、東方は驪州、北西は京安里を経て京城に二等道路通じ、何れもバスの便あり、また南部に長湖院を終點とする社線京南鐵道通じ、交通便利なり。行政上、十一箇面に分ち、郡廳を利用川面に置く。人口約七萬、一方軒密度は一四八人を算す(昭和十年)。本郡は高句麗太祖始めて利用郡となし、高宗王の時、永昌と稱し、恭讓王の時南川となし、李朝太祖名を利用川に復して縣とし、世宗王の時に都護府となせしが、のち郡に改め大正三年三月陰竹郡の大部分を併合し現在に至る。

【利川面】 朝鮮京畿道利用郡の北部。社線京南鐵道終點驛長湖院と廣州郡の郡邑京安里の中間にあり。西境に雲峰山(三〇四米)聳え山肢南に延びるも、中部は東は土地低平にして地味肥え、農産物なり。東境には福河川北流す。米は品質、量共に優れ、其他大豆・蜀黍・黍等あり。特産物には棉花・標草・大麻等あり。社線京東鐵道東部に通じて利用

郡(昭和五年設置)あり。道路は利用邑を中心として西方水原、東方江原道江陵、北方京畿、南方釜山への一、二等街道出で、邑は交通上の要衝を占む。邑内の市場は其取引頗る活潑にして年取引額十數萬圓の多きに達す。邑内には郡廳・地方法院出張所・稅務署・道立利用醫院・穀物検査所・砂防事務所等の官衙を始め、水利組合・農業倉庫・金融組合・電氣會社・公立農業實修學校・公會堂等あり。利用郡の南方約二百米に利用溫泉あり、含硫黄泉にして、皮膚病に卓效ありといふ。西境の雲峰山は文祿後の古戰場として著はれ、また景勝に富む。東境を流る福河川は高麗太祖が新羅救済のため南下せんとする時、渡渉に難儀したる所に於て、里民の嚮導よろしきを得て利涉したるにより郡名を利用と稱するに至れりと傳ふ。

【栗面】 朝鮮京畿道利川郡の南端。郡邑新溪の南方約五軒。東南境に鶴峰(四〇一米)の聳立せる他は著しき山なきも、城内一般に丘陵起伏し、平地極めて少なく、鶴成江は西部を南流し、支流古新思川をはじめ幾多の支流は狭入蛇曲流を成して、峽谷美に富み紅葉・橡樹の間に點在せる風光推獎に値するものあり。住民の多くは農業に従事し、副業として養蠶・機械をなす者少ならず。産物は米・大豆・小麦・粟・玉蜀黍・棉花・標草・入蔘・蔘・明抽等あり。東部に平壤・議政府間二等道路通じ、西南方の南川店より来る二等道路と會し、北方新溪邑に至り、新溪・南川店にはバス通するを以て交通不便ならず。

リタ 利田村

【利田村】 富山縣越中中新川郡の西部。常願寺川の右岸。五百石町の西北に接し、西は常願寺川を以て上新川郡に界す。富山平野の中央部に近く、三郷用水その他の水流により灌溉され全村沃田拓く。米を主産し、麥を僅に出す。村の南部を掠む縣道あり、富山・五百石までのバス通す。また社線富山電鐵越中舟橋その他の驛に近し。

リタクカン 利澤簡

【利澤簡】 臺灣臺北州基隆郡の舊堡名。郡の東南海岸帯よりその南に接する蘇澳郡蘇澳庄に互る一帯の地。即ち蘇澳庄全部に五帖庄(蘇澳郡)の

リツ 立面

【立面】 朝鮮全羅南道谷城郡の北部。谷城面の西隣にて、西北は玉果面、

北部を縦走して北方金堤に通じ、乗合自動車あり。

リフ 利府村

宮城縣陸前國宮城郡の北部。仙臺市の東北約一軒。北は黒川郡、東南は鹽釜町に接し、東北は鹽釜湾に面す。七北田丘陵の南斜面に属し、北端に龜山、北部に香ヶ森山(二二米)聳え、北部は丘陵をなすも、南部は仙臺平野に属して平坦なり。村の生業は農業を主とし、米・麥・蕎麦を産し、利府菜の名産あり。道路は村の中部を西南より東北に通じ、西南方仙臺市へは自動車の便あり。省線東北本線利府驛(明治十七年設置)及び社線宮城電線濱田驛(昭和二年設置)を置く。菅谷外八郡落は古く宮城三十二邑に属せし各々その一なり。然し加瀬・森郷・赤沼は一に高城本郷に属せしことありといふ。中世、伊達家、源頼朝に及びて東征の役に功あり。即ち奥州の留守を命ぜられて此地に城く。のち一族この地を領す。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の初、この地にて御小休遊ばさる。

リホク 梨北

朝鮮忠清南道瑞山郡の西北部に位置せる牛島郡及び果島・竹島等の屬島より成り、郡邑瑞山の西北方約一五軒に在り。中央に國師峰(二〇六米)聳え、その山脚北方海中に展びて牛島を成せるを以て平地極めて乏しく、山脚直ちに海に没して岩石海岸を形成す。東部海岸は加露林洞にて、干満の差大にして干潮時には淺灘露出し船の繋留便ならず。耕地は山脚斜面を開墾せるを以て灌溉水に不利にして主として農業行はる。又沿岸住民は牛・馬・牛油を爲す。産物は米・小麦・大豆を主とし、煙草・棉花これに次ぎ、海産物には石首魚・蝦・蟹・鯛・海藻・貝類等あり。位置僻地にあるを以て道路發達充分ならず、水運亦不便なり。墾務は其密度極めて小にして、西岸の浦地里に面事務所、除曆四・五の日に開く市場ありて近隣の遠北面・所道面北部を商圖とすれども取引活潑ならず。

リユーアン 龍安

北道益山郡の北部。郡邑龍安の北方約二五軒にあり。北境には錦江に注ぎ、南部の湖水は松亭江に入りて錦江に流す。江景平野の一部を成し、沃野遠く連り、郡中主要の農産地を形成す。産物の主なるものに米・大豆・大麻・大麻・苧麻・棉花等あり。鐵道湖南本線は北方江景を経て南に南浦を横断して南方成徳・裡里に通じ、道路は面邑龍安を軸として北方江景、東南方成徳驛及び西南方成徳等に通じ、一方、錦江に舟楫の便ありて水陸共に交通・運輸便なり。主邑龍安は大正三年まで龍安郡の置かれし地なり。

リユーエー 柳營庄

臺灣臺南州新營郡二街四庄中の一。郡の南部中央に位置し、新營街の東に隣る。東北は香社庄、西北は新營街によりて圍繞せられ、南は曾文郡下の六甲・下營二庄に接す。北西南三面には急水溪の本支流が境界を流れ、東南端の一部が丘陵をなす外は、土地總て平坦にて田畑廣く展開し、總然たる農村を形成す。灌溉水利の便不十分の爲め農耕地は看天田及び畑多し。米・甘蔗・甘藷等を主要農産物とし生産額少からず。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏・鴨・鵝等の家畜多く一般家庭に副業として蓄く飼育せられ、農産に次ぐ經濟上の重要な地位を占む。鐵道

リユーエン 龍淵

朝鮮平安南道大同郡の南部。平壤府の南方約五軒にあり。大同江平野の一部を成し、土地極めて低平にて地味膏腴、農産豊かなり。南部中和郡との境には昆陽江流る。住民は農を主とし、傍ら牧羊・養蠶をなす者あり。産物は大豆を第一とし、米、その他、雜穀・棉花・楮皮・栗・繭・梓・蠶繭・生牛等あり。また煉瓦・石灰石・陶土等を出す。富田と大

リユーオ 隆尾嶺山

北海道北見國紋別郡生田原村にある金銀銅山。礦區九七萬餘坪。その地質は第三紀に屬する頁岩及び凝灰岩にて一部に安山岩の露頭を見る。礦床は安山岩を運搬岩とし頁岩・凝灰岩を母岩とする含金銀石英脈にして主なるもの二條あり、走向何れも北七〇度東、傾斜七〇度内外、脈幅約一〇—三〇米、平均品位略十萬分の三とす。昭和九年の試掘に於て金銀銅一一五噸を出せしが、同十年金銀銅二、〇四〇噸、價額約九萬圓)を産出し、一躍重要礦山に列す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

す。住民は質朴にして農業に従事し、また内地及び釜山・木浦等に工場労働者として出稼する者多し。産物には米・大豆・大豆、其他雜穀及び棉花・大麻・煙草等あり。道路は昌寧より來れる二等道路南部を横断し乗合自動車の便ある他は河津も等外路線にして車を通ぜざるも、洛東江は物資の運搬に供せられ水路運輸は便なり。本面及び隣接せる遼池・大合・大池の各面に互りて白鳥の渡來するもの多く、昌寧白鳥渡來地として天然記念物に指定せらる。

リモカン 社

臺灣臺北州文山郡の善社。淡水溪の上流、南勢溪流域にあり、標高約四五〇米、高砂族部落にしてアタム族に屬す。戸數三二、人口一五一(昭和十二年末現在)。臺北より新店を経て至るを便とす。

リユー 利柳面

朝鮮忠清北道忠州郡の南部。忠州邑の西方に隣る。西南境に龍淵峯(四八三米)・倉山(四八五米)等四百米内外の諸峰相連りて周徳面及び槐山郡頂面との境を劃し、餘勢域内に及びて丘陵起伏すれども緩傾斜にして耕地よく發達す。北部を連川の支流なる莞波川東流し沿岸は低平なり。住民は農業を主とし、副業として養蠶を爲す者多し。産物は大豆・大豆を主とし、其他雜穀・煙草・棉花・大麻・花等あり。殊に煙草は米國種の黄色煙草の栽培盛にして、郡中に於ける優秀煙草の産地をなす。社線龍淵北線は莞波川に沿ひ東西に通じ、西に大召院驛(昭和三年設置)、東に連川驛(昭和三年設置)あり。京城・釜山間一等道路これに並走し、大召院より西方險城(二等道路を岐ち、何れも乗合自動車の便あり。墾務は川沿ひに多く分布し、大召院に面事務所・市場等あり。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユー 龍

同江面とは龍淵より貞前嶺あり、朝鮮無煙炭會社の經營に係り、昭和十年には無煙炭一六、五六三噸(價額一三萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は三三七人とす。鐵道京義本線は面の中部を南北に縱貫し略中央に力浦驛(明治四十四年設置)あり。京義一等街道の東方に並行縱走し路面坦々として自動車・馬車の往來繁く交通便なり。墾務は西部に多く分布し、力浦には面事務所等あり。また市場ありて除曆三・八の日に開き年取引高五萬餘圓に達す。

リユーオー

龍王

【龍王村】 山梨縣甲斐國中五郎郡の中央北部。釜無川の左岸。甲府市の西方約五...

六米。山頂部は土壌の如き四角形をなす。...

【龍王山】 龍王山の北峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の西峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の東峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の北峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の東峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の西峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

五軒にある社。龍王山の北峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の北峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の西峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の東峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の北峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の東峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の西峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

には夏季農産・稲等より精緻すといふ。...

【龍王山】 龍王山の北峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の西峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の東峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の北峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の東峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の西峰。高松市の南...

【龍王山】 龍王山の南峰。高松市の南...

リユーカ

龍華山

【龍華山】 朝鮮平安南道大邱郡の東北端に偏在し、平壤府の...

リユーガク

龍岳面

【龍岳面】 朝鮮平安南道大邱郡の東北端に偏在し、平壤府の...

リユーガサキ

龍ヶ崎町

【龍ヶ崎町】 茨城県龍ヶ崎市の西南部に在り、...

リユーカヤ

龍谷村

【龍谷村】 愛知県三河國額田郡の南端に在り、...

北道星州郡の東南部に位し、星州面に南隣す。北境には星山(三九〇米)・七峰山(五一七米)等、南境には儀鳳山(五五二米)等、北と南は山地をなし、中部もまた一般に低山性の丘陵地帯を成し、洛東江小支の流域にやや廣き平地ひらく。灌溉水利や不便にして、畑作農業卓越す。住民は農を主業とし、工業品として綿布・麻布・葛草等もあるも何れも副業になるものにして産額多からず。農産物には米・大豆を主とし、其他、大麻・煙草・落花生等あり。道路は面の中部なる松亭洞を起點とし、北方星州色、南方高靈に三等道路を通じ兼合自動車の使用は他は何れも等外路線にして交通運便ならず。葉落密度比較的疎にして龍亭洞には陰曆一・六の日に開く市場あり城内は勿論、東隣の高靈郡茶山面、北の龍南面一部等を西面とし市日には販賣を呈し郡中有数の取引市場をなす。本面は昭和九年四月、もと龍巖面及び龍頭面を合併、新設せしものなり。

【琉球國】西海道十二箇國の一。九州の南方海上臺灣に至る間に浮ぶ大小數十の島嶼を總稱す。最大なる島を沖繩島とし大島・徳之島・西表島・石垣島これに次ぐ。これを大別して沖繩群島・奄美群島・先島群島に分つ。琉球とは我が國の命名に非ず。隋・唐の頃、支那人により與へられたるものにて、即ち隋書に琉球と見え、唐書には琉求に作り、明史以後琉球の字を用ふ。而して國人はこれを阿兒奈波に作りオキナワと稱す。蓋し阿兒奈波は阿史奈波の誤ならんと云ふ。國史に此國の記事を見たるは夙く推古天皇の朝にはじまり屋・我が國に朝せり。我が國にてはこれを南島と稱す。元明天皇の朝、南島奄美、信樂石垣・球美(久米島)人五十二人來朝す。その他、我が國史に見ゆる故久・益久・多福・多福と稱するもまた此の國を云ひおしにして、鎌倉時代に本土と盛に交通せしことは琉球古語の證する所なり。室町時代に至り我が朝貢し方物を獻す。永享の頃、將軍義教琉球を島津氏に與ふ。是より先、琉球は明に通じ又その封册を受く。此に於て我が國及び明に屬せざるが如し。爾後琉球は國亂れ修明を怠る。是に於て慶長十四年島津家久これを征服し、琉球は永く島津氏の附屬となる。明治の初、一國を建て鹿兒島藩に隸屬す。明治五年琉球藩を置き直にこれを朝廷に歸せしめる。國

十二年琉球藩を廢し沖繩縣を置くに及び大島・喜界島・徳之島・沖ノ水良部島・與論島を以て大島郡を建てこれを鹿兒島縣の管下に移す。國內を那覇・首里の二市及び島尻・中頭・國頭・宮古・八重山の五郡に分ち以て今日に至る。沖繩縣

【琉球庄】臺灣高雄州東港郡下一街五庄の一。郡の西南約一哩の海上に浮ぶ琉球嶼を管轄す。琉球嶼は一に小琉球島とも、また割腹山嶼とも稱し、歐米人の謂ゆるラムレイ(Lamley)島にして、西曆十七世紀初頭より本島に占據せし和蘭人は、本嶼を「Gouden Leeuw Eyland」と命名せり。島形は不整形圓形にして、北東に走り、島の中央には割腹山と稱する一丘陵あり、四方に支出起伏して、島内殆ど平地なく、また海岸には珊瑚礁排列す。従つて船舶の假泊すべし良港を有せず、僅に小舟を碇泊せしめ得べき所四ヶ所を有するのみ。然して漢民族の多くは是等海岸に部落を形成し、主として漁業に従事す。上記四ヶ所の小舟碇泊すべし所は、北に在るを白沙尾澳、東に在るを大寮澳、南に在るを天臺澳、西に在るを杉板路澳と稱す。本庄下の農業は上記の如き地勢よりして到底その發達を望むべからず、隨つて庄下産業の主なるものは漁業を第一とし牧畜業これに次ぐ。漁業は發動機船による沿海漁業を主とし、特産物として夜光貝・章魚・伊勢蝦を出す。畜産に於いては、高原地帯を利用する黄牛・鹿の集團飼育地設けられ、大に特産

性を有す。かくて漁・畜・農業に於ける年生産は約四十萬圓なり。教育機關に於ては公學校一を有し、其他、社會教化機關として、青年團・國語講習所・簡易國語講習所等設けらる。また近時庄下に國旗揚揚臺四ヶ所を設置して、庄下本島人をして日本人たるの認識を深め、天恩の深きを體得せしめつゝあり。本島が小琉球と云へる名稱を附せられしは、古く明末鄭氏の時代に在り、當時の漢裔者沈光文の平臺測序中に既にこの文字を載す。またラムレイなる名稱は平埔部族なるツライヤ部族が、本島を呼びてラムレイと云へるに基きしなるべし。本島はもと平埔部族ツライヤ部族の根據地なりしもの如く、黄叔畝の番俗六考に「新港、蕭壠、麻豆各番は昔小琉球に住す」と記せしは即ち是なり。漢族の初めて定住せしは清朝領臺の後に在りて、東港に在りし泉州人が、小舟に乘じて往來し、北方なる白沙尾澳に草寮を營みしに始まると云ふ。臺海使棧(黃叔畝著)に「小琉球社、對東港、地廣約二十餘里、久無番社、同郡瑞南南貢、皆台令代輸、山多林木、探薪者乘小艇登岸、水深難於維繫、舟舟牽拽岸上、結寮而居、近因債借餘弊、所司絕其往來」と云へる、以て當時の情景を察知し得べし。されど朱一貴の亂後には政府の政策に依り一時漢族の往來杜絶せしもの如く、再び漢民族の往來杜絶せしは乾隆中葉以來の事にして、末年には、既に各澳には部落の建設を見たりと云ふ。即

【琉球列島】 本來は大島等を含む奄美群島より西南に列なる沖繩群島・先島群島

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

【龍巖山】 朝鮮咸鏡南道中北部の山。新羅郡東上面の北部、赴戰湖の東岸に屹立し、標高二〇九九・七米。

リユー——リユー

五二四

【龍源】 朝鮮成鏡北道龍源郡朱乙温面の湖名。總督府鐵道成鏡本線の龍源驛(大正十三年設置)あり。

リユーケン

龍源面

龍源面 朝鮮成鏡南道洪原郡の東南端に位置し、北青の西南方二〇軒余。蓋馬嶺岩臺地の東端部背後に迫り北部一帯は山地を成し、南方海岸に近づくに従ひ低地となる。西北端に蓋馬山(一〇一〇米)聳え、山麓南に延びて南部中央に黄蓋山(三三七米)を起し、海岸低地を東西の二區に分つ。東部低地は比較的廣く地味肥え、東大川之を灌溉し農業行はる。海岸地帯は漁業に従事する者多し。産物中最も著明なるものは明太魚にして、年産二〇餘萬圓の多きに達す。其他大豆及び鱒・鱈等の魚類、生牛・麻布等の産あり。鐵道成鏡本線海岸に沿ひ東西に横斷し、東に蓋武驛、西には雲浦驛(共に大正十三年設置)あり、北部に洪原・北青間一等道路通じて交通便なり。東南部の蓋武里は漁業集落にして道内屈指の市場あり。本面は昭和十一年四月もと龍源面に雲浦面及び龍川面の各一部を編入して成れるものとす。

リユーゲンリ

龍源里

龍源里 朝鮮總督府鐵道滿浦本線の驛(昭和七年設置)。平安南道价川郡中南面にあり。

リユーコ

龍湖

龍湖 朝鮮平安南道平原郡の西部。郡邑水峯の西約一〇軒にあり。五〇米前後の小丘陵起伏すれども土地概して低平なり。

リユーコ

龍興江

龍興江 朝鮮成鏡南道南部の河。平安南道との界に近き高原郡雲谷面の南部山中に發源し、北流すること凡そ五〇軒、水興郡横川面大坪里附近に於て北流山地より来る立石川を併せ東流し、宜興面細柳村に於て北方より来る龍湖川を合し、河口に近く、徳池江・龍源江を併れ、文川郡との境を劃しつゝ永興河の支洞松田洞に注ぐ。流域凡そ一三五軒、流域面積約三四〇〇方軒。河口と永興間三〇軒は舟運の便あり。流域の永興平野は地味肥沃にして大豆・米・麥・粟・麻・煙草等の農産に富む。

リユーコ

龍崗

龍崗 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の驛(昭和二年設置)。成鏡南道龍川郡龍崗面にあり。

リユーコ

龍郷村

龍郷村 天城縣富陸郡那珂郡の西北隅。北より西は栃木縣那須郡馬頭町その他と隣す。八溝山脈中の一帯を占め、全村山地連りて、北境には尺丈山(五二二米)、蒼子山(四〇三米)等あり。山地一帯森林多く、木材・椎茸の産多し。南部を東流する緒川の流域に

リユー——リユー

にて、西方西朝鮮河に向ひて傾斜し海岸一帯は沃野相連なる。北部海岸の臥龍山(七四米)は残丘として稍々著はれ、その南方に深き入江ありて東より来る中橋江これに注ぐ。海岸線延長三〇軒に及ぶも沿海は干潮時に泥濁遠く連るを以て良泊地を缺く。住民は多く農業を業とし、海岸地方の梅田里・魚塘里・安淵里等に於ては漁業に従事し、西南端の雲風里・板橋里に於ては農業及び製鹽業に従事する者あり。産物の主なるものは米・大豆・小麦・粟・小豆・麥等に於て、其他産物・草鞋の産あり、また水産物には石首魚・鱒・鱈・貝類等あり。道路網比較的密なるも中央より遠ざかるを以て改修未だ充分ならず、車を通ずるものなし。

リユーコ

龍岡

龍岡 朝鮮平安南道三府十四郡の一。道の西南部に在り、南に龍南浦府を抱擁す。北および東北は江西郡に接し、南は大同江を距てて黄海道安州郡と、南は同じく大同江を距てて黄海道安州郡の二郡と相對し、西は黄海面に面す。面積七四四・八平方軒。東北より来る妙香山脈の末端部が城内に及び、中央北偏の島石山(五六五米)著しき注意を惹く。その北境には雙嶺山(三〇五米)、廣東山(三九六米)あり、南方にも凡そ二條の支脈ほば並行して出で、東のものに黄嶺山(一五一米)等ありて末端は龍南浦府の城内に及び、西のものは神徳山(四一〇米)、女兒峰(二七九米)・牛山(五〇七米)・雲南山(二三九米)等を起し、同じく大同江畔に達す。之に反し西部は海岸に至るまで廣漠たる大平野を成す。城内河川の大きなものなく、灌溉の便に乏しくして、耕地は耕作をなすところ多し。沿海地帯は遠淺にして船舶の繫泊に適せず、大部分草生地をなし、その間所々に鹽田の發達を見、殊に西南部の廣慶灣は官營の天日製鹽場として有名なり。大同江畔は東南部に國土峰(二二四米)の末嶺長く突出して牛島をなし、大同江を曲流せしむる外、また碑角嶺も多く、その中央に龍南浦の良港あり。農業盛にして、米・麥・大豆・粟・棉花・繭の産多く、水産には食鹽最も著はる。他、大同江には蝦・鱒・鱈等の漁獲少からず。鐵道平原線は東北方平原府より來り中部を南走し龍湖洞・葛川の諸驛を経て龍南浦港に達し、これと並走する一等街道あり、西部には江西郡の概山方面より来る二等道路通じて廣慶灣を経て龍南浦府に達し、中部の郡邑龍岡を核として、また道路四通し、陸上交通便なるに加へて、海路は龍南浦港に内外航路船寄港し、また大同江に汽船を通じ、交通運輸の便甚だ大なり。行政上、十三箇面に分ち、郡廳を龍岡面に置く。人口一四萬餘。一方軒人口密度は一五四人(昭和十年)にして、大同郡につき稠密なり。本郡は箕子朝鮮時代の黃龍國の地にして島石山上の黃龍城に都せり。高句麗これを併せ黃龍城、又は軍馬と稱へ、令を置

リユーコ

龍興里

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

リユーコ

龍興里

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

リユーコ

龍興里

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

七九米)・牛山(五〇七米)・雲南山(二三九米)等を起し、同じく大同江畔に達す。之に反し西部は海岸に至るまで廣漠たる大平野を成す。城内河川の大きなものなく、灌溉の便に乏しくして、耕地は耕作をなすところ多し。沿海地帯は遠淺にして船舶の繫泊に適せず、大部分草生地をなし、その間所々に鹽田の發達を見、殊に西南部の廣慶灣は官營の天日製鹽場として有名なり。大同江畔は東南部に國土峰(二二四米)の末嶺長く突出して牛島をなし、大同江を曲流せしむる外、また碑角嶺も多く、その中央に龍南浦の良港あり。農業盛にして、米・麥・大豆・粟・棉花・繭の産多く、水産には食鹽最も著はる。他、大同江には蝦・鱒・鱈等の漁獲少からず。鐵道平原線は東北方平原府より來り中部を南走し龍湖洞・葛川の諸驛を経て龍南浦港に達し、これと並走する一等街道あり、西部には江西郡の概山方面より来る二等道路通じて廣慶灣を経て龍南浦府に達し、中部の郡邑龍岡を核として、また道路四通し、陸上交通便なるに加へて、海路は龍南浦港に内外航路船寄港し、また大同江に汽船を通じ、交通運輸の便甚だ大なり。行政上、十三箇面に分ち、郡廳を龍岡面に置く。人口一四萬餘。一方軒人口密度は一五四人(昭和十年)にして、大同郡につき稠密なり。本郡は箕子朝鮮時代の黃龍國の地にして島石山上の黃龍城に都せり。高句麗これを併せ黃龍城、又は軍馬と稱へ、令を置

リユーコ

龍興里

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

リユーコ

龍興里

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

リユーコ

龍興里

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

リユーコ

龍興里

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

リユーコ

龍興里

龍興里 朝鮮總督府鐵道价川線の驛(大正五年設置)。

ものにては龍龍窟最も大きく、世界一と稱せらるる北米ケンタッキー州のマンモス洞窟及び山口縣秋芳洞と比較するに...

流し、灌漑水利の便に富む。米・麥・大豆・棉花・繭などを産す。鐵道平南線と平壤・鎮南浦間の一等道路とは東部に走り、前者の趙村驛(昭和九年設置)あり、同驛附近より西部の主要全村里を経て漢川方面にもバスを通ずる道路ありて、交通便利なり。

Table with 4 columns: 山名 (Mountain Name), 産 (Production), 額 (Amount), 従業員 (Employees). Lists mountains like 浩美山, 楓山, 青橋山, etc.

山を成せども、漸次北西に向つて傾斜し、西半部は稍低平にして安城川これを灌漑す。住民の多くは農業に従事し、また南部地方に於ては鑛山労働に従ふ者多からず。

鐵道の中にあり。京釜本線の龍山驛より起り北西方の西江を経て唐人里に至る線及び西江より分れて東方の京義本線新村驛に至る線を含む。京城市街の西北部郊外を迂回する循環線にして、龍山・唐人里・京城間に直通運行はる。

【龍山】 朝鮮京城府の南部。南山の西南麓より漢江・岸に至る地域。京釜本線龍山驛(明治三十三年設置)あり、京元線及び龍山線は同驛にて接続す。早くより鐵道交通の要地並に軍事都市として發達せし地にて、鐵道局・朝鮮軍司令部・第二十師司令部、その他歩兵・騎兵・野砲兵・工兵の各部隊等あり。京城府

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

南に羅南邑及び梧村面、西は富寧郡西上面、北は富寧郡富寧・石幕・青岩の三面及び清津府に接し、東は日本海に面す。西北より東南に長く、面積四〇〇方軒に近き大面なり。西北部には小長白山脈連互し、郡界には高城山(七五六米)・古城嶺(最高點一〇九五米)・大連谷山(一五五〇米)等聳え、漸次東南に低夷して北境には慶司嶺(一三二〇米)・高烟臺(六〇八米)・南境には北實峰(一三六八米)等を連ね、河川は北には輪城川、南には羅北川あり、特に前者の流域は謂ゆる輪城平野にして廣闊、且つ地味肥え、農耕に好適なり。

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

【龍城】 朝鮮龍州府鐵道平元西部線の一驛(昭和二年設置)。平安南道大同郡平原面にあり。

萬八千石、大豆二萬七千石、棉花三二萬斤、粟三萬貫、莞草二萬貫(昭和十一年)等を主とす。其他、小麦、小豆、綠豆、粟、蕎麥、蕎麥、大蕪、花、胡麻及び馬鈴薯、甜瓜、胡瓜等の蔬菜並に苹果、梨、柿等の果實を出す。副業には養蠶、蠶加工及び牛、豚、山羊、鶏、兎の飼育行はる。工業には織物、窯業製品、植物性油脂、製皮、酒類等あり。鑛産は金銀を主とし東順金銀は年産額一〇萬圓に達す。社線京東鐵道瀋陽支線中部を東西に貫き、西より德谷・新葛・漁江・龍仁・陽智・錦日の諸驛あり、京城・釜山間の一等道路これに並走する外、龍仁驛附近にて京安里・島山間道路は京釜街道に直交し、また新葛より北方京城へ、陽智より東方南方竹山へ至る各三等道路を出し、之等の路線には何れもバスを通じて、交通便利なり。行政上、十二箇面に分ち、郡廳を金良場(水陰面)に置く。人口八萬餘、一方野密度は一三〇(昭和十年)を示す。本郡は高麗の初期、龍駒・處仁の二縣及び處原郡の地にて、大祖王開國の初め處原郡を陽山郡と改稱し、大正十三年に至り龍駒・處仁の二郡を併合して龍仁縣となし、成宗の朝に陽山郡を秋溪縣と稱し、のち利用府に合併して陽智縣と稱せり。開國五百四年に至り龍仁縣を龍仁郡に、陽智縣を陽智郡に改稱す。大正三年三月に至り陽智・龍仁の二郡及び竹山郡の一部を合して龍仁郡となし、以て今日に至る。

リユー——リユー

龍神村(龍神村) 和歌山縣紀伊國日高郡の東北部。日高川の渾流地を占め、北は有田郡、東は奈良縣吉野郡十津川村に界す。山村にして南北に長し。東境には護摩ノ境山(一三七〇米)・鋒尖峰(一三二〇米)・牛廻山(二〇七米)・大峠山(一八八米)等の峻嶒が南北に連りて奈良縣境を限り、大峠山より西南へ延びる山脈は南境を劃し大久保山(七九二米)・紫岬、西北境には城ヶ森山(一六九米)が聳え、西境には高甲良山(一三二米)の山脈が連りて村境をなす。日高川は北境に發して中央西偏を屈曲しつつ西南流し隣村に入る。全村山岳地なる爲め産業發達せず、林産及び米、蕎麥等の農業あり。また日高川上流の左岸に龍神温泉(炭酸泉)あり。河谷に沿ひて西南方の南部町及び田邊町へ通ずる縣道あり。大字廣井原に經路あり。大正五年和鏡四面、白磁合子數個を發掘したり。また大字小又川に文久三年水野長雄等の一行を幽閉すと傳ふところあり。

リユー——リユー

龍川(龍川) 朝鮮忠清南道大德郡の中南部。大田府の西に隣接す。謂ゆる大田平野の中心を成し、土地極めて低平にして沃野相連なり、柳等川・甲川等との間を灌溉し、地味肥沃、農業に適す。加ふるに氣候極めて中和にして盛夏も三〇度を超えず、嚴冬も零下五度に降ること稀なり。住民は主として農業に従事し、また商業、

リユー——リユー

の經營に着手し、農人家増加し、日露戰役後我國の經營に移り貿易港となり、最近水運の便と相俟つて工業地帯としての發展を見るに至れり。但し干潮時には港内水淺く巨船の出入に不便なる爲、近年港勢衰はず。昭和十一年貿易額は輸出五三四萬圓、輸入二一六萬圓を示せり。邑内に龍川郡廳・地方法院出張所・税關支署・海陸検査所等の官署・その他金融組合・測候所・公立水産學校等あり。また龍川神社あり。

リユー——リユー

龍仙山(龍仙山) 比良山脈南部の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡伊香立・和邇の二村境上に峙つ。標高七五一米。北方に權現山(九九五米)・打見山(一七四米)・蓬萊山(一一〇三米)等續く。西麓は北流する安曇川の上源地をなし、東方脚下に琵琶湖を俯瞰す。

リユー——リユー

龍泉寺山(龍泉寺山) 靜岡市の志段味村(愛知縣)北方約二軒、靜岡縣原郡西奈村と兩河内村との境上に峙つ山。附近に三峯連峯し、北方なるが龍瓜山にして、その南方に連るを藥師岳、更に南方なるを文珠岳(二〇四一米)と稱し、更に山勢南方に延び龍崎山を経て遂に靜岡市の位する平地に降る。傳説に據れば、昔、龍ありて三爪を山上に置せりと云ふ。いま山上に龍潭あり。全山樹木茂り合ひ、山麓に芍薬咲く。西麓は南流する安倍川に注はる。

リユー——リユー

龍臺(龍臺) 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(大正十三年設置)。成鏡北道咸津郡鴨南面にあり。

リユー——リユー

龍泉面(龍泉面) 朝鮮黄海道慶尚北道西浦郡の西端半島部を占め、他に慶興島・萬財島・麻姑島等の屬島を含む。北は大東洞、西及び南は黄海に面す。城内一般に丘陵起伏し平地少く、耕地は多くは丘陵の緩斜面を利用す。従つて灌溉不利にして水田極めて乏しく、畑地卓越す。また慶津港附近は近時干拓行はれ水田を新に得たり。住民の多くは農業に従事し、沿海の龍岩里・龍作里等に於ては漁業又は製鹽に従事する者多からず。産物は大豆・大麥・甘藷最も多しまた栗・黍・馬鈴薯等を産す。海産物には石首魚・鱈・鰻・鰈・太刀魚、其他貝類・海草等の産

リユー——リユー

あり。陸上交通は概して不便にして、北は龍岩里、南は慶津港等により水路に頼る者多し。

リユー——リユー

龍瓜山(龍瓜山) 靜岡市の北方約二軒、靜岡縣原郡西奈村と兩河内村との境上に峙つ山。附近に三峯連峯し、北方なるが龍瓜山にして、その南方に連るを藥師岳、更に南方なるを文珠岳(二〇四一米)と稱し、更に山勢南方に延び龍崎山を経て遂に靜岡市の位する平地に降る。傳説に據れば、昔、龍ありて三爪を山上に置せりと云ふ。いま山上に龍潭あり。全山樹木茂り合ひ、山麓に芍薬咲く。西麓は南流する安倍川に注はる。

リユー——リユー

龍泉寺山(龍泉寺山) 靜岡市の志段味村(愛知縣)北方約二軒、靜岡縣原郡西奈村と兩河内村との境上に峙つ山。附近に三峯連峯し、北方なるが龍瓜山にして、その南方に連るを藥師岳、更に南方なるを文珠岳(二〇四一米)と稱し、更に山勢南方に延び龍崎山を経て遂に靜岡市の位する平地に降る。傳説に據れば、昔、龍ありて三爪を山上に置せりと云ふ。いま山上に龍潭あり。全山樹木茂り合ひ、山麓に芍薬咲く。西麓は南流する安倍川に注はる。

リユー——リユー

龍臺(龍臺) 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(大正十三年設置)。成鏡北道咸津郡鴨南面にあり。

リユー——リユー

龍瓜山(龍瓜山) 靜岡市の北方約二軒、靜岡縣原郡西奈村と兩河内村との境上に峙つ山。附近に三峯連峯し、北方なるが龍瓜山にして、その南方に連るを藥師岳、更に南方なるを文珠岳(二〇四一米)と稱し、更に山勢南方に延び龍崎山を経て遂に靜岡市の位する平地に降る。傳説に據れば、昔、龍ありて三爪を山上に置せりと云ふ。いま山上に龍潭あり。全山樹木茂り合ひ、山麓に芍薬咲く。西麓は南流する安倍川に注はる。

龍岩浦の良泊あり、近時築港工事行はれ、龍岩浦が冬季凍結するに反し不凍港なるを以て將來の多幸を約束する。行政上十二箇面に分ち、郡廳を龍岩浦(龍川面)に置く。人口約一三萬、一方野密度は二二六(昭和十年)を示し、道平均六〇人に比し著しく稠密にして、各郡中の最高位に居る。本郡は高麗の初め安興と稱し、顯宗王五年龍州防禦使と稱し、後改めて龍州府と爲し、李朝太宗王の時、義州の伊彦を本郡に併せ龍川と改めしが、義州に至り府と爲し、後また郡に復し以て今日に至る。

龍川面(龍川面) 朝鮮平安北道龍川郡の西端、鴨綠江口左岸に位置し、江を隔てて滿洲國安東省大東溝に相對す。鴨綠江沖積原の一部を成し、土地頗る低平にして、江岸に懸臺山(五三米)、南岸に懸臺山(七七米)崛起し旱澇を蔽る。灌溉用水路網の完備、地味の膏腴、耕地整理等と相俟つて郡中第一の未作地を爲す。住民の多数は農業に従事し又内地人の農園を經營する者あり。其他漁業・商業者之に亞ぐ。産物は米・大麥・大豆を主とし、水産物は鱈・石首魚・鱈・太刀魚・鰻・鰈・比目魚・海産類等あり。又鴨綠江外は白銀の大漁場として有名なり。交通は龍岩浦を中心として北方新義州、東方龍川、東方龍山等に道路を通じて乘合自動車のある外、龍岩浦は江口の良泊を成し、大小船の出入絶えず。龍岩浦は三十餘年前迄は蘆荻の叢生地なりしが、嘗て露國

の經營に着手し、農人家増加し、日露戰役後我國の經營に移り貿易港となり、最近水運の便と相俟つて工業地帯としての發展を見るに至れり。但し干潮時には港内水淺く巨船の出入に不便なる爲、近年港勢衰はず。昭和十一年貿易額は輸出五三四萬圓、輸入二一六萬圓を示せり。邑内に龍川郡廳・地方法院出張所・税關支署・海陸検査所等の官署・その他金融組合・測候所・公立水産學校等あり。また龍川神社あり。

の信用組合を有し、農村金融の潤滑を計る。尙ほ工業方面に於ては製糖・精米・製茶・落花生・茶葉等より産する製油・製粉業等行はれ、煉瓦の製造も亦一部の住民に行はる。本郡の教育施設を見るに龍潭農業專修學校及び龍潭・銅鑛團・三坑子の三小學校ありて、本島人兒童の就學率は約三割なり。社會教化機關として國語講習會・家長會・婦人會・青年團・國語講習會等の設置あり。交通機關としては中興・平鎮・龍西の間に夫々輕便鐵道の便ありて、庄の中央を東西に、及び大溪間、龍西間に通ずる道路あり、是等道路に自動車の運行あり交通極めて便利なり。本庄一帯は清領當時の統制領の一部に屬し、我が領臺後も尙ほ引續き運用せられしが大正九年十月一日地方制度大改正に際し、同區下の現大字龍潭を中心にして十六庄を以て大溪郡の管轄に屬し、龍潭庄を建てたり。約百年前、聖主黃慶興なる者來りて土地の開墾を奨励し、漸次、廣東人・漳州人・泉州人等陸續來りて雜居し、龍潭の池邊を中心として發展したり。我が領臺以前には身(廣東)・閩(泉漳)兩民族間の戦闘絶えず起り居たれども、我官憲の手に依り兩者の和解成り現在に至れり。尙ほ龍潭庄の中央部に、東西三町、南北七町餘、周圍二〇町、水心の深さ十餘尺に及びて、旱天久しく川潭の水涸くも、その水が減る事なき一大貯水池ありて、龍潭庄の名稱出づ。もと龍潭と稱せしものにして、淡水龍

志の名蹟致に記し、龍潭は乾隆十三年(皇紀二四〇八年)青裡の通事知母六なる者、何(小作人)を招きて置く所をなす。相傳ふ、昔早せし時莊佃雨を此に降りしに即ち應ず、即ち名づく、龍潭志には「今尙里俗相傳へて連中に泉窟あり、窟中に白石あり、白石現はるれば必ず降雨す、蓋し白石乾けば雨を呼ぶなりと言ひ近在人民早に値へば來りて雨を禱る」との記を記せり。後に龍潭を改めて龍潭と稱ふる因に就きては龍潭志に「一夕風雨晦冥、波濤大いに起り龍潭の出現を見る、依て改めて龍潭と稱す」と記せり。然れども是れ龍潭の文字に拘泥し、且つ潭の靈威を誇張せんが爲めの附會に過ぎず、龍潭と龍潭とは龍潭の發音が近き爲め、自然の轉訛を推移したるものなるべし。爾來漸時修築を加へ、光緒二十一年業主林本源等重れて改修し、現在の大龍潭を爲せしものにして、田圃百數十甲に灌溉す。人口一八、八二六(昭和十一年末調査)。

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

七三米)聳ゆ。錦江は南より北に侵入蛇曲流し、西より朱子川同じく蛇曲しつづれり之に合し、沿岸に低地やや拓く。産物は米・麥・雜穀・煙草・木炭・乾柿等なり。朱子川左岸に在りし龍潭邑を中心として道路四通するも坂路多く、北方錦山、南方鎮安の兩邑に幸じて自動車を通ずるのみ。【龍池】 龍池 靜岡縣遠江國濱名郡の東部。笠井町の東北にあり、西に北濱村、北に中瀬村、東に野田郡廣瀬村・岩田村あり。天龍川の右岸の地に於ては村の東部は同川の細流路中にして砂礫河原地なり、西部は砂礫土壌にして、桑園・畑・水田多く、米・蕎麥・西瓜・絲瓜等を産す。この地は往昔の龍池庄の一部にして、天正の頃まで天龍川の氾濫により區域漠然とせり。然し元禄年間堤壩を築き區域明らかとなれり。【龍池面】 朝鮮全羅北道金堤郡の東部。金堤邑の東北凡そ八軒。面積は約三八〇〇米の丘陵が波狀に起伏するに過ぎず。萬頃江支流東部と西境とを北流し、また水利組合の恩恵によりて灌溉の便よく、農業盛なり。米・麥・大豆・棉花・吹等を産す。西部を鐵道湖南本線南北に通じ、北は芙蓉驛、南は金堤驛に近く、南部には全州・金堤間道路、北境近くには全州・裡里間道路通じ何れもバス便あり、交通便利なり。

七三米)聳ゆ。錦江は南より北に侵入蛇曲流し、西より朱子川同じく蛇曲しつづれり之に合し、沿岸に低地やや拓く。産物は米・麥・雜穀・煙草・木炭・乾柿等なり。朱子川左岸に在りし龍潭邑を中心として道路四通するも坂路多く、北方錦山、南方鎮安の兩邑に幸じて自動車を通ずるのみ。【龍池】 靜岡縣遠江國濱名郡の東部。笠井町の東北にあり、西に北濱村、北に中瀬村、東に野田郡廣瀬村・岩田村あり。天龍川の右岸の地に於ては村の東部は同川の細流路中にして砂礫河原地なり、西部は砂礫土壌にして、桑園・畑・水田多く、米・蕎麥・西瓜・絲瓜等を産す。この地は往昔の龍池庄の一部にして、天正の頃まで天龍川の氾濫により區域漠然とせり。然し元禄年間堤壩を築き區域明らかとなれり。【龍池面】 朝鮮全羅北道金堤郡の東部。金堤邑の東北凡そ八軒。面積は約三八〇〇米の丘陵が波狀に起伏するに過ぎず。萬頃江支流東部と西境とを北流し、また水利組合の恩恵によりて灌溉の便よく、農業盛なり。米・麥・大豆・棉花・吹等を産す。西部を鐵道湖南本線南北に通じ、北は芙蓉驛、南は金堤驛に近く、南部には全州・金堤間道路、北境近くには全州・裡里間道路通じ何れもバス便あり、交通便利なり。

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

【龍潭】 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(昭和二年設置)にして、川内里線の接續點。成鏡南道文川郡都草面にあり。【龍潭炭礦】 ↓北面(平安南道价川郡)【龍潭面】 朝鮮全羅北道靈安郡の北部。郡邑鎮安の北方約一八軒に在り。東西七一〇軒、南北凡そ六軒あり。城内山地をなし、北には聖德峰(五三六米)・狗峰(六〇九米)・烽火山(六七〇米)・城時山(六七三米)等連り、東麓には智藏山(七

年小松内大臣重盛領國の時、當寺を建立してその新願所とす。寺門隆盛となりしも天正十六年、小西行長寺社焼打の災に遭ひ寺寶烏有に歸す。寶永八年加藤右馬允正方一字を再建、爾來修繕を加へ今日に至る。本尊千手觀音(佛母太子作)。毘沙門天立像二軀のうち丈高四尺七寸二分のものは國寶なり。

リユーマ

龍馬(りゆうま) 赤石山脈の一端。静岡市の北西方凡そ三七軒に當り、静岡縣周智郡無切・氣多の二村境上に峙つ。標高一五〇一米、山麓古生層より成る。東斜面並に北方部は奥山御料林をなす。東斜面より發する杉川は南西流して天龍川の支流氣田川に落つ。

リユーモン

龍門(りゆうもん) 奈良縣大和國吉野郡の北部。吉野川の右岸にあり、上市町の東北に接し北は高市郡・磯城郡・宇陀郡に界す。北境には龍門山脈東西に連り、東北隅には龍門岳(九〇四米)聳ゆ。地形は南斜面地をなし東南部は土地西南に傾斜す。吉野川は西南流して西流し東南部及び中部には西南流する河川ありて之に合す。低地少きも、米・麥を産す。河岸に沿ひて藤道が走り上市町へ通ず。古くは和名抄の製菓郷の地にして、中世は龍門庄と稱せらる。(妹山御養)指定天然記念物。大字河原屋宇峠山に屬し、山は吉野川の北岸に屹立し、海拔二九〇米なり。古來山麓大名持神社の社叢として伐採を禁止され、新山御料林と繁り、天台宗の寺あり。

暖地性植物を産し、殊に山頂に於けるツルマンチヤウの純群落、山腹に於けるシシトフキの純群落の如きは稀に見る所なり。(大名持神社)郷社。祭神、大名持御魂神・須磨理比咩命・少彦名命。式内名神大社。神位、貞觀元年從一位より正一位に累進せり。社地の峰山は萬葉集その他の歌集に名高し。例祭、九月十日。(高野神社)大字山口に鎮座。郷社。祭神高皇產靈神。例祭、三月三日・十七日・十一月七日。

【龍門岳】吉野山の北方約九軒、奈良縣吉野郡龍門・中龍門の二村境上に峙つ山にして、北麓は宇陀郡神戶村に互る。標高九〇四米。越大なる山容を有す。山中に二條の淵があり、龍門ノ淵・白倉ノ淵と稱す。吉野川の上流は龍門を西流す。日本名勝誌に、山上に城址及び龍門寺の遺蹟ありと見ゆ。いま頂上に木造の小祠立つ。

【龍門村】和歌山縣紀伊國那賀郡の中部。紀ノ川の左岸に沿ひ粉河町の南に接す。南部に龍門山(七五七米)一帶の山地が東西に連り北に傾斜す。北部は紀ノ川流域の平野にして北境を紀ノ川西流す。低地は米・藪の産多し南部の斜面地は蜜柑栽培地にして農産額中首位を占む。礦産も多し外に畜産・工業あり。省線と和歌山線新河原は北方約一軒にあり。古くは和名抄、那賀郡龍門郷の地なり。幕末の儒者にして尊攘論者たりし森田節齋(附從四位)は此地の人、今その墓村内にあり。

境にては八百餘米の標高を示す。また南境にも二三百米の丘陵起伏す。北方兜率峯(二三四米)に發する洛東江支流漢川は東部を南流し、西北部山地に出づる支谷これに合し、流域は低平なり。米・麥・大豆・棉・藪等を産す。龍門岳に近きも、城内の交通は未だ便ならず。北部山中には古刹龍門寺あり。

リユー

龍門(りゆうもん) 朝鮮京畿道楊平郡のほぼ中央。郡邑楊平の東方凡そ一〇軒。南北に稍々長く約一四軒、東西は五一一〇軒あり。北境に龍門山(一一五七米)聳え山脈東方と南方とに延び、南走するものは白雲峰(九三七米)を起して西境を限り、漸次南東に傾斜す。南境には注邑山(五八三米)聳ゆ。之等山地の水は黒川となり西南に流れて漢江に注ぎ、この流域に平地ひらく。産物は米・麥・大豆等を主としまた養蠶・牧牛行はる。黒川に沿うて楊平邑と江原道洪川を結ぶ三等道路通じハスの便あり。之に沿ふ東部の廣源里より南方に出て漢江を岸に達する道路にもハス通じ、南中部の交通は便なり。廣源里の西方、黒川右岸の馬龍里は主邑にして、金融組合等あり。龍門山中の龍門寺は銀杏の巨樹あるを以て知られ、樹はいま天然記念物に指定せらる。

龍門金鏡

龍門(りゆうもん) 朝鮮京畿道楊平郡のほぼ中央。郡邑楊平の東方凡そ一〇軒。南北に稍々長く約一四軒、東西は五一一〇軒あり。北境に龍門山(一一五七米)聳え山脈東方と南方とに延び、南走するものは白雲峰(九三七米)を起して西境を限り、漸次南東に傾斜す。南境には注邑山(五八三米)聳ゆ。之等山地の水は黒川となり西南に流れて漢江に注ぎ、この流域に平地ひらく。産物は米・麥・大豆等を主としまた養蠶・牧牛行はる。黒川に沿うて楊平邑と江原道洪川を結ぶ三等道路通じハスの便あり。之に沿ふ東部の廣源里より南方に出て漢江を岸に達する道路にもハス通じ、南中部の交通は便なり。廣源里の西方、黒川右岸の馬龍里は主邑にして、金融組合等あり。龍門山中の龍門寺は銀杏の巨樹あるを以て知られ、樹はいま天然記念物に指定せらる。

【飯盛山】富村と龍津村とに跨る飯盛山にあり、鎮座は兩村に跨りて九二萬餘坪、その地質は太古紀の結晶片岩系に屬し、鎮座は含銅硫化鐵礦の層狀鐵脈にして綠泥片岩中に賦存す。當山は明治十一年の發見にて、同二十年より探採せしが鎮座地として盡きず、現に重要鐵山に列す。現在は古河鐵業合名會社の採行に係り、昭和十年の産額は含銅硫化鐵礦四六、三二六噸、沈澱銅二四噸(總價額七九萬餘圓)にして、同年六月末の儲蓄額二六一人。

【龍門山】和歌山市の東方約二〇軒、和歌山縣那賀郡龍門村と奥安樂川村との境上に峙つ山。標高七五七米。一に神神山とも云ふ。山頂に無麻池あり。山上より東方に高野山を眺め、北方山下に西流する紀ノ川を下視し、その彼方に葛城山脈の連嶺對峙し、眺望佳なり。形状によりて紀州富士の名あり。この山は正平十四年吉野朝廷の將、四條隆俊が紀州の兵三千を以てこゝに據り、島山義深の三萬の兵と激戦のありし所なり。

【龍門岳】山口市の北方約八軒、山口縣吉野郡宮野村と阿武郡津生村・佐々並村との境上に峙つ。標高六八八米、山麓石英粗面岩より成る。

【龍門村】熊本縣肥後國菊池郡の北部。限府町の東北約一・五軒にあり、西境北半は鹿本郡に接し、東北境は大分縣日田郡に界す。東・北・西の三面は山脈を繞らし西北境に八方ヶ嶽(一〇五二米)聳ゆ。不便ならず。

リユー

龍門(りゆうもん) 朝鮮京畿道楊平郡のほぼ中央。郡邑楊平の東方凡そ一〇軒。南北に稍々長く約一四軒、東西は五一一〇軒あり。北境に龍門山(一一五七米)聳え山脈東方と南方とに延び、南走するものは白雲峰(九三七米)を起して西境を限り、漸次南東に傾斜す。南境には注邑山(五八三米)聳ゆ。之等山地の水は黒川となり西南に流れて漢江に注ぎ、この流域に平地ひらく。産物は米・麥・大豆等を主としまた養蠶・牧牛行はる。黒川に沿うて楊平邑と江原道洪川を結ぶ三等道路通じハスの便あり。之に沿ふ東部の廣源里より南方に出て漢江を岸に達する道路にもハス通じ、南中部の交通は便なり。廣源里の西方、黒川右岸の馬龍里は主邑にして、金融組合等あり。龍門山中の龍門寺は銀杏の巨樹あるを以て知られ、樹はいま天然記念物に指定せらる。

東西兩境に西南方へ連る山脈は高さ次第に減じ西南部に二〇〇米程度となる。追間川は東北に發して中央を西南流し沿岸に僅に低地あり、米・麥・藪・煙草等を産しまた畜産物あり。限府町(ハス)を通ず。古くは和名抄、菊池郡上甘郷の内なるべし。村内に菊池寺あり。寺は宇土の人、大智禪師の開創に係る。

【龍門山】朝鮮京畿道安岳郡のほぼ中央。郡邑安岳の北に接す。東西約一〇軒、南北は平均五軒前後あり。西部には五〇一〇〇米臺の丘陵地あるも、東半は龍野の北麓に當り、地味肥沃なる農耕地をなす。龍野江支流水合江東部を流る。住民は農業を主とし、米・小麥・大豆・棉花・苹果等を産す。また東部には赤鐵礦の賦存するもの多し現に採行せらる。主邑東倉里は東境に近く偏在す。水合江に臨み、金融組合・市場等あり。鐵山を近くに控へ、市況は活況を呈す。

【龍門山】朝鮮京畿道信川郡の南部。郡邑信川の西南方約五軒にあり、連勝山境に屬する鶴山(五九三米)南境に聳え、西境には雲鶴山(四八七米)、東南境には近々天峰山(五八六米)の峻峰聳え、餘勢城内に及びて南中部は山地を成せども、北するに従ひ緩傾斜となり、北部には稍低地帯ありて安信平野の一部を成し、地味肥沃にて米産地として有名なり。平野を東流する西江支流はその上流にて堰止せられて信川水利組合の貯水池(福陽堤と稱す)作らる。北境に近く社神廟龍野海

四米)・石立山(一七三米)・梅嶺嶺等あり、城内にも大多山・東谷山・慨峰・安石山等一五〇〇米前後の山岳聳立す。南境龍野魚木山中に禿魯江發源して北西流し、中部以北の山地に上流を有する銀河江・厚池江の水を容る。これ等沿岸に狭き平地ありて農産行はる。産物は米・玉蜀黍・大豆・大麻・牛・蜂蜜・木材等にして、特に木材の産は多し。西方の滿浦線雲松驛より禿魯江を測る三等道路域内に入り、西南境にて甲峴嶺(一〇〇九米)を跨りて龍川方面に出て、之にハスの便あるも、交通不便なるところ多し。平南鎮は前記街道に沿ひ、禿魯江・厚池江の交會點に位し、伐採の中心地にして營林署出張所あり。

リユー

梨陽面(りゆうめん) 朝鮮全羅南道和順郡の東南部。綾州と寶城との中間に位し、北は赤阜面に、西は清豊面、東は寶城郡福内面、南は廣洞面及び長興郡長平面に接す。東西約九軒、南北一〇軒餘。北境には盤嶺山(五四五米)・馬頭嶺・斗峰山(六三〇米)など連り、斗峰山は南に延びて桂桑山(五八〇米)を起し、城内にも北に博龍山、南に月山等四〇〇米以下の山あり、殆ど山地を成せど、西境を北流する砥不江及び東部山地に發して西流し之に注ぐ支谷の沿岸に狭長の平地ひらく。産物は米・麥・麻・藪等を主とす。鐵道慶全西部線北方より來り砥不江に沿ひて梨陽驛(昭和五年設置)より東南に轉じ、道林驛(昭和六年設置)を経て古峯驛

なし、青雲河の上流中部を南に流る。農
業行はれ玉蜀黍・大豆・落花生・高粱等
を産す。金州・雙子高を繋ぐ道路、之よ
り分れて北方普蘭店に至る道路あり、ま
た金福鐵道の亮甲店驛南部に設けられ、
交通不便ならず。

リョーコク 陵谷

朝鮮總督府
鐵道京義本線の一驛(大正十二年設置)。
京畿道高陽郡知道面にあり。

リョーゴク 兩國

【兩國】 愛知縣海部郡にありし村。明治
三十九年、本村外二村を設けその區域を
以て鍋田村を置く。

リョーサク 良策

朝鮮總督府
鐵道京義本線の一驛(明治四十一年設置)。
平安北道龜山郡東上面にあり。

リョーサン 梁山

【梁山】 朝鮮慶尙南道二府十九郡の一。
道の東部に位置し、東北は蔚山郡、西北
は密陽郡、東南は東萊郡に隣接し、西南
は洛東江を距てて金海郡と相對す。面積
約四八六平方軒。大白山脈の末端の二脈
が、密陽郡及び東萊郡との境を成行して
南北に走り、ために全城は東北より西南
へ緩傾斜す。東部山脈にては元曉山(九
二二米)・金井山若は、西部山脈にては
樓山・香峰山・金方山・土谷山(八六五
米)等あり。洛東江幹流は西南境をなし
て流れ、これに注ぐ支流梁山川は葛樓山
に發源して南流し、孤浦に於て本流に合
し、之等の流域に狭長なる平地ひろく。

耕地面積七千ヘクタール餘のうち、水田
は七割餘に當り、一部に二毛作行はる。
産物は米約七萬石を最とし、大豆・小麥・
大豆・棉花(約七〇萬斤)・繭(約二萬斤)・
大麻等これにつき、牛・豚・鶏の飼育行
はる。その他寒天・木炭・松茸・桑苗・
高嶺土・陶石等の産あり。洛東江岸に沿
ひて鐵道京義本線走り勿論、院洞の兩驛
あり、道路は京釜一等道路が東部・西北
に通ずる外、東部に釜山・蔚山間二等道
路、中部に釜山・慶州間三等道路ほゞ並
行して南北に通じ、交通不便ならず。行
政上、七箇面に分ち、郡廳を梁山面に置
く。人口四萬餘、一方軒密度は九一人(昭
和十年)にて、道内各郡中最も稀薄なり。
本郡は新羅景德王の朝に良州と稱し、高
麗の太祖梁王と改め、李朝太宗の時梁山
と號し、郡となしたるもの。明治三十九
年九月大上・大下の二面は金海郡に、左
耳面は東萊郡に編入し、新たに熊上面を
蔚山郡より併合し、大正元年四月外南面
は蔚山郡に編入し、また同三年四月には
中北面を上北面に併合、更に近年に至り
上西・下西の兩面を廢合して、新たに院
洞・勿絶の兩面を建て、以て現在に至り
しものとす。

【梁山】 朝鮮慶尙南道梁山郡の中南部。
釜山府の北方約二五軒。北は上北面に、
東と南は東面、西は勿絶面に接す。面積
三〇平方軒餘。元曉山の山脈が走りて
東部は山地をなせど、西部の梁山川流域
は平地ひろく拓く。この平地に梁山水利

リョーセン 靈仙山

【靈仙山】 嶺南山脈北端の一峯。嶺
南郡板田郡福ヶ井村と大上郡芹谷村との
境上に聳立す。標高一〇八四米。伊吹山
と共に江州の双峯と稱せられ、古より名
高し。山頂は三峯に分れ、北靈仙・中靈
仙・南靈仙と呼び、南靈仙が最高峯をな
し、標高一〇八四米。標高は伊吹山(一
三七七米)に劣れどもその山麓の廣大に
して雄巖嶺なる點は悉に勝る。太古伊
吹大明神と靈仙權現と互に山の高さを競
ひ、空に架橋して高低を計りしが、双方
互角なりしかば靈仙權現は根の下にかひ
物をして高さを誇れりとの傳説ある。往
時この山一帯に靈仙寺百有餘坊の寺院あ
りしが、今は寺院としては松尾寺のみ残
り、他は龍ヶ井村の西隣なる鳥居本村に
佛生・男鬼等の部落名として存す。東方
に經ヶ塚あり、古の靈仙寺の礎を埋めし
所と傳ふ。この山の北方溪谷に靈仙瀧か
かり、南方に權現谷の深谷あり。

リョーゼン 靈山

【靈山村】 福島縣岩代國伊達郡の東部。
掛田町の東北に隣り、東は宮城縣及び相
馬郡に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し

組合の灌漑地にして、水田連り、農産に
富む。産物は米・麥・大豆・棉花・繭等
の農産を主とし、工業には寒天あり。ま
た良質の陶石を出す。梁山は川の左岸
に位置し、交通の要衝に當る。即ち釜山府
より来る一等道路は邑を過ぎて西に去り
龜浦・彦陽間の三等道路これと交叉し、
京釜本線勿論、彦陽・東萊・釜山の各
地へ何れもパス通ず。邑には郡廳・釜山
地方法院出張所・金融組合等あり。名利
通度等は彦陽街道に沿ひ、北方約七軒に
あり。

リョーサン 兩山面

【兩山面】 朝鮮平安
北道朔州郡の東部。朔州面の東端に隣り
し、北は南西面・外南面、南は水豊面、
北は昌城郡南面、東は同郡新倉面・青山
面に界す。南北に長く約二五軒、東西は
平均一〇軒あり。面積約二二〇方軒。飛
來峰山脈に屬する山地にして、北部に富
居山(八六九米)、東境に雙峰(九九七
米)、南境に昌昌山(八〇五米)、西境に
は新徳山(五三四米)等聳え、大體、東に
高く西に低減す。北部と南部とに各々大
峯江の上支發源し南流し、沿岸低地に聚
落・耕地ひろく。産物は米・玉蜀黍・蕎
麥等の種穀及び大豆・小豆・大麻等の農
産を主とし、牧畜・養蠶行はる。北部の
各谷に二等道路通じ東境の伴龍嶺を越
えて昌城郡内に至り、途中より東南に岐
れ青山市場市に出づる三等道路あれど、交
通未だ便ならず。

リョーシ 獵師岳

【獵師岳】 阿蘇火山脈、
東境に阿蘇山(七八三米)聳え、西方に傾
斜し、全村概ね山麓をなし、廣瀬川の一
支流東部に發源して西流し、廣瀬川に合
し、廣瀬川は村の西部を北流し沿岸に耕
地拓く。米・蕎麥・木炭等の産あり。西南方
社福島電線掛田驛へはパスの便あり。
本村より石戸村に互りては指定史蹟名勝
たる靈山ありて、村名に蓋しこれあるに
依る。靈山(阿蘇山神社)大字大石に
鎮座。別格官幣社。祭神、北畠親房・同
顯家・同顯信・同守親。明治十五年、土
俗等相傳りて南朝の柱石北畠顯家父子
孫の遺蹟を、その舊地に鎮祀せるに創ま
る。社地は本村東部西方の小丘にあ
り。一に小屋敷(古城址)と稱せらるる所
にして、元弘三年陸奥守顯家は義良親王
を奉じて陸奥・出羽の地を討伐し、次で建
武二年功に依りて鎮守府將軍となる。顯
家朝は延元二年正月より九月迄、顯信朝
は興國元年より正平八年迄靈山に居り、
足利氏に抗したる勤王家を奉じて東國の
官軍を總督す。土人その芳名を後代に傳
へんとして、その遺址に兩朝初めその女
子孫の遺蹟を合祀するに至れるなり。い
ま山頂廣瀬なる芝生に化し辰屋雄大、東
方邊に太平洋の碧波に浮ぶ白帆を目撃に
する壯觀は筆紙に盡し難し。山上南方に
義良親王在御の址と傳ふるものあり。例
祭、四月二十二日。

【靈山】

【靈山】 福島縣の東北部に聳ゆる名峰。
伊達郡石戸村・靈山村及び相馬郡玉野村
に互り、いま指定史蹟、名勝たり。標高

久住山塊の一峯。主峯久住山の西部に峙
ち、大分縣玖珠郡飯田村の南嶺。標高一
四二三米。山は森林を以て掩はれ、山中
鹿・熊等多し。久住山

リョーシ 兩寺面

【兩寺面】 朝鮮京畿道江
華郡江華島の北端。南は松海面・河帖面
に隣接し、西は喬桐島と相對し、北は漢
江河口を隔てて開豊郡及び黃海道延白郡
を望む。東西に長く八軒餘、巾は約三軒
あり。南境に風天山(二九一米)・別立山
(四〇〇米)等連なり、その北側にも一〇
〇米台の丘陵東西に連るも、北部と丘陵
間とに平地ひろく、水田發達す。米を主
産し、また魚介の利あり。東部漢江左岸
の嶺山里は主邑にして、對岸開豊郡大聖
面との間に渡船あり、開城府に出づるに
便なり。此處より道路一は南走して江華
邑に至り、一は西南走して西嶺の寅火浦
に通ず。寅火里は對岸喬桐島に至る要津
にして、また東南方、江華邑へはパス通
す。北部海岸には鶴城臺・龜登臺を
始め凡そ五箇の砲臺の地あり。

リョーシイワ 獵師山

【獵師山】 筑紫山
脈脊振山塊の一峯。主峯脊振山の西方に
連なり、北面は福岡縣早良郡藤山村に、
南面は佐賀縣神埼郡三洲村に屬す。標高
八九三米。この山の東端は脊尾をなし
奇巖時々、また凄然たる岩壁をなす。こ
れを鬼ヶ鼻と云ふ。山頂より北に方に支
海の波光を眺め展望佳なり。

リョーシユ 綾州面

【綾州面】 朝鮮全
羅南道和順郡のほぼ中央。北は和順面、

は八〇五米にして、北方に阿蘇山(七八
三米)、南方に三郎峯(七〇三米)聳え、
宇多川は東麓に發して東流し、廣瀬川の
一支は南麓に發源して西流す。山體は片
麻岩より成り、玄武岩質の火山集塊岩が
その頂上を掩ひ、甚しく風化浸蝕を受け
て圓ゆる奇岩怪石を藏く。全山悉く數百
切の絶壁をなし、殆ど一大石塊といふを
得べし。延元元年二月後醍醐天皇の皇子
義良親王(後に後村上天皇と申し奉る)陸
奥太守に任ぜられ、北畠顯家陸奥大介、
鎮守府大將軍となり、陸奥・出羽・常陸・
下野の四國を管領せしめられて陸奥に下
り、五月多賀國府に入り給ひしが、二年
正月陸奥の賊徒蜂起して國府を攻められ
ば、顯家は結城宗廣と共に親王を奉じ靈
山城に移りて守る。蓋し、靈山は大正二
年弘法大師の開くところと傳へらる。尋
いで慈覺大師、貞觀元年始めて伽藍を建
て、天竺の靈鷲山に擬し靈山寺と號し、
昔時は僧房山谷に充滿せりと傳へしによ
り、この僧徒の力を恃みしものならん。
いと顯家の居館の址と稱する國司館のあ
る國司館の北方に續いて、古靈山(阿蘇
山とも)には、古の靈山寺本堂の址にや
無數の巨大なる圓形の礎石儼然と残存せ
り。蓋し往時の壯觀を想ふに足る。當時
この地に伊達氏の舊領地にてありしが、
應永八年に伊達政宗靈山寺を再興し、明
應九年には尙宗天文八年には桓宗、天正
十二年には輝宗、茲にこれを修理再興せ
り。今なほ山麓大石村に靈山寺存し、且

東は寒泉面、西は流谷面、南は春陽面に
接す。南北に長く六軒餘、東西は約三軒
あり。東境に南北に二百米程度の山連り
最高約二九〇米を算し、支脈西に延び、
西南境にも飛風山(二五六米)を最高とす
る丘陵群あるも、西部および東南部に平
地ひろく。砥石江は南より走り、北より
来る和順川を併せて西流に轉じ、灌漑水
利の便に富む。邑は南部砥石江左岸、飛
風山の東麓に位置し、鐵道慶全西部線その
東部を過り綾州驛(昭和五年設置)あり、
北は萬水驛(昭和七年設置)を経て和順へ
南は寶城方面に至り、和順・寶城間の二
等道路これと並走するほか、邑より西北
方南平へ三等道路を出し、何れもパスの
便あり。即ち邑は羅州・同福方面との交
通の要衝に當り、市街の發達、市況の盛
盛、共に見るべきものあり。産物は米・
麥・繭・果實等の農産の外、工業や多
し。邑の附近には藤原寺・三忠閣等の勝
景あり、また多塔峰の佛蹟は西南約一〇
軒に在り。

リョーセー 陵西面

【陵西面】 朝鮮京畿
道羅州郡の西部。東は州内面に、南は加
南面、西北は興川面、西は利川郡夫鉢面
に接し、東北は漢江を距てて大神面と相
對す。南北に稍々長く、面積五三平方軒
餘。東境に北城山(二七四米)あり、山麓
域内に及んで東部は丘陵地を成せど、西
部および南部には廣き平地ひろく楊花川
これを灌漑しつつ北流して漢江に入る。
産物は米・大豆・小豆・棉花・栗

つその霊山神社は霊山村に鎮座す。

【霊山】 大分市の南方、大分縣大分郡... 田村に時つ山。標高五九六米。山頂三角...

リョーチク 兩筑産業線 朝鮮平... 安南造成川郡の南部。郡邑成川の南方約...

リョーチュー 陵中面 朝鮮平... 遼江華郡の西南部。郡邑江華の西南西約...

互類その他の建設多く、養蠶盛にして成... 川船の原料となし、また美味の菓を出す。

リョーツ 兩津町 新潟縣佐渡... 國佐渡郡の中部。兩津港に臨む。加茂湖...

リョーヘン 兩邊面 朝鮮江原... 道寧越郡の西部。郡邑寧越の西北方約二...

リョーモ 兩毛線 省線東北... 線の一部。栃木・群馬に互る。東北...

せりといふ。元祿十四年再建せらる。一... に諏訪大明神とも云へり。例祭、六月十...

リョートー 遼東 遼東半島 Liaotung P. 滿洲國の南部... に突出せる大牛島。東側は黄海、西側は...

リョーリ 綾里村 岩手縣陸前... 國氣仙郡の東部。盛町の東南約九軒。東...

リョクサン 茶山面 朝鮮慶尙南道... 金海郡の南端。郡邑金海の南方一〇餘軒...

つて關東州を租借すると共に州外に於て... も遼平河より鴨綠を経て大洋河口に至る...

リョーリョー 旅順市 關東州西南端... の港市にて行政の中心地。東より北は水...

リョーリョー 旅順市 關東州西南端... の港市にて行政の中心地。東より北は水...

リョーリョー 旅順市 關東州西南端... の港市にて行政の中心地。東より北は水...

會の東南部は老虎尾半島となり、東北方に延びて市の南西中部に迫り内側に旗...

北洋水師の根據地となす。ついで道臺衙門置かれ、商業また榮えて人口四萬を算...

盤龍山東麓盤龍山西麓盤龍山北麓盤龍山南麓...

リヨリツ 呂律川 山城國(京都府)愛宕郡大原村小野山の麓にかゝる管無温...

め、大橋農場、不二興業會社を北支場、右近商會社農場(以上何れも千ヘクタール以上)等あり...

盛に行はる。莞茂川に沿うて社報朝報忠北報と京城・釜山間一等道路並行して通...

校を有し、其他社會教育機關として、青年團・國語講習所等を有す。本庄は郡の中心地たる風山街を距る事遠く、隨つて...

煙草・苧草・蕎麥及び麻布等あり。二等道路は新徳洞を中心として西北方安東、東南方盤龍に通じ坦路にして乗合自動車の便あり...

リンキョー—リンコ

地を占め警察官駐在所、郵便所等あり。リンキョー 林圪埔 また林圪埔・林圪埔。竹山庄(臺灣臺中州)

リンケイ 臨溪(面) 朝鮮江原道

臨溪の東北端に位置し、郡邑旌善の東北方約一五軒にあり。周縁山地を以て圍繞す。即ち東端には中峯山(一三五四米)に属する諸峯相連り、北端には石峯山、西北端には徳九山(一〇〇九米)・高飛徳山(一〇二〇米)・西南端には高陽山(一五一一米)等相連り、城内に山岳重疊し、ただ漢江の支流骨只川が中部を蜿蜒蛇曲流して西流し、その蛇曲帯に僅に耕地を見るに過ぎず。一般に土地瘠せ收穫少なけれども大豆・糠草・大麻等を産し、又材木・生牛・蜂蜜・砂金等の産あり。道路は面邑松溪里を中心に四通し、特に北方江陵、東方三陟、西方旌善の諸邑には各三等道路を通じ比較的坦路なるも、其他は險坂多く交通不便なり。粟落は溪谷に沿ひ發達し、面邑松溪里は面の略々中央に位して警察官駐在所あり、また陰曆二・七の日に開く市場あれども購買力乏しく市況振はず。

リンゲン 林原(面) 朝鮮平安南道大同郡の東部。北は斧山面、西は西川面及び平壤府の北部に接し、東は榮見面にして、南は大同江を距て秋乙美面・大同江面と相對す。東西に稍々長く一〇軒餘、南北は七八軒あり。東部榮見面との境上に大栗山(二七四米)登え、山腹南に伸びて高坊山(一四七米)を起し、西北部に

地を起點として北方長城、南方福州、東方龍島及び光州に各三等道路を通じ、交通・運輸比較的便なり。

リンサン 麟山(面) 朝鮮黄海道平山郡の西部。郡邑南川道の西南約三〇軒。東西約一三軒、南北約一〇軒あり。南方海州郡との境界上に雲達山(六〇〇米)登え、その東麓に主之峰(七一三米)あり、餘勢城内中部に延びて負兒山(四五五米)を起す。また北端には東より玉女峰(四〇八米)・佛首山(三八〇米)・周峰(二五三米)等あり。北部に東西に長き低地あり、東部に麟山發し北流して銀波江に入り、西部には曲川上支流れて義亭江に入るも、灌溉の利に乏しく、耕地は概ね畑に拓かる。産物は麥・大豆・棉花・繭・牛等あり。北部低地に蒲川・青石頭里を結ぶ三等道路通じバスの便あるも、南部は險坂多く交通不便なり。主邑は麟山里と稱し、同名の川の左岸に位す。

リンシン 臨津 朝鮮中部の河。朝鮮半島第七位の大河。咸鏡南道徳源郡の北境なる馬息嶺に發源し、南流して江原道伊川郡に入り東方より来る古味香川を合せ、京畿道に入りて更に平安川及び漢灘川の二支を容れ、次で西南に流路を採り、若しき蛇曲流をなして埴州・長湍兩郡の界をなし、のち漢江に合流して江華河に注ぐ。流路延長二五四軒餘。河口より上流一二四軒餘の間に舟楫を通じ得。灌溉の利もた勢からざるも、江原道伊川郡に潤りて

丘陵ありて銀銅山(一五六米)著はるるも、城内の大部分は平地にして謂ゆる大同江平野に属す。大同江は面の東南端對岸にて南江の長支を入れ、大いに水量を加へて南境を西方に曲流し、面の中部平野を灌溉する合掌江を併せ、平壤府へと流る。農業盛に行はれて米・麥・豆類・棉花・粟・蕎麥・芋等を産し、東南部は海軍省所管の有名なる平壤炭礦の礦區に屬し、無煙炭を出す。西境に近き西川面にある京義本線西浦驛を起點とする平元(昭和二年設置)あり。道路は西境に沿ひて京義一等道路通するを始めて、之より分れて東方咸鏡南道に至る一等道路、北方合人場を経て寧遠に至る二等道路等あり、陽徳・咸川・徳川へ至るバス通じ、また大同江には舟楫の便あり、對岸平壤炭礦林驛(秋乙美面)に出づる便もありて、交通頗る便なり。東境の大栗山には有名なる大栗山城址あり、山中に石築の大城、土築の小城の古址を有し、また廣法・頭陀の二寺あり、高句麗の平原王が平壤より移りて居りし地と傳へ、或は始祖東明王の別宮なりしともいふ。山勢雄壯、眺望絶佳にして春夏の節、遊覽者頗る多し。

リンコイ 林口庄(面) 臺灣臺北州新莊郡の西北端。東は五股庄及び淡水郡の八里庄、東南端は新莊街、南は新竹州桃園郡龜山庄、西南は同じく蘆竹庄に夫々地を接し、北は臺灣海峡に面す。觀音

は水量頗る減じ、舟楫・灌溉の便なし。下流埴州の平野は道内に於ける米の主要地をなす。

臨津(面) 朝鮮京畿道坡州郡の西北部。臨津江の曲流部左岸に沿ひ、北と西とは江を隔てて長湍郡内面・津南面と相對し、東は坡平面、南は州内面・月鏡面に接す。東西・南北ともに約六軒あり、面積約三三平方軒。中部以東に五〇米程度の丘陵起伏するも、臨津江・岸及び南部の支流汝山川沿岸に平地ひろげ、農耕地地に乏しからず。農産物は米・大豆・棉花・粟・麥等を主とし、工業には織物・窯業製品・薬加工品・酒類その他食料品あり。主邑汝山は南境近くに位し、鐵道京義本線南方より來りて此處に汝山驛(明治四十一年設置)を設け、これより西北に城内を横ぎり臨津江鐵橋を渡りて長湍に至る。京城・新義州間一等道路は東境に近く走り、途中より高浪浦又は積城に至る道路を岐ち、交通便なり。汝山は坡州郡の主邑にして、郡廳・地方法院出張所・穀物検査所・金融組合等あり。此地はまた、漢江沿岸各地と舟楫の便あり、物資の集散地として著はる。汝山驛の東北約三軒に興岡あり、故大院君及び同妃の墳墓を京城の孔德里より移葬せられたるところ。

リンセン 林川(面) 朝鮮忠清南道扶餘郡の南部。郡邑扶餘の南方一〇軒餘。北は揚岩面、東は世道面、西は忠化面・良化面に接し、南は錦江を距てて全羅北

山麓の東部に相當する高臺地を占め、平野の見るべきものなく、北邊海岸附近に僅かの平坦地散在するに過ぎず。臺地にては茶の栽培廣く行はれ、庄の主要農産物として重きを爲し、茶葉傳習所・茶業組合等設けらる。茶に次いで柑橘等の果樹園よく發達し、柑橘の産出少からず。米・甘藷も亦主要農産物なるも他街庄に比し産額甚だ少し。外に小量の竹材及び薪炭を産出す。畜産は農産に次いで重きをなし、勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主産とする家畜家畜類多く、一般家庭に於て副業的に蓄く飼育せらる。工業は製茶の外、見るべきものなし。庄役場は大字善埔に置かれ、東南新莊より兼合自動車を通する外は道路の大なるものなく、且つ、臨所に峻坂ありて交通便ならず。管内にも總て八里發達に屬し、東隣八里庄に次ぎ清領の初め頃より開闢、粵人によりて開拓の緒に就き、爾後移住者漸次増加して隨所に都落を建設せられ今日の基礎となれり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし八里發達を廢し、之に屬せし六庄を割きて六大字に改め、之を一括して林口庄となし新莊郡に編入せられたり。

リンコイ 臨阜(面) 朝鮮慶尙北道水川郡の中央東端。郡邑水川の東北方約五軒。東境に大白山脈に屬する道徳山(七〇三米)の屹立する他に著しきもの

道徳山郡龍安面・無浦面と相對す。南北に長く約九軒あり。北部には東に聖興山(二六一米)、西に錦城山(二一五米)相對峙し、聖興山の山腹延びて東境に太興山を起す。その他西南部に丘陵起伏すれど中部の錦江支流と南部の江岸とは著しく低平にて田畑ひろげ、林川水利組合の灌溉地に於て農耕特に盛なり。また錦城山北方の丘陵地には玄溪發して東南流し、この流域にも水田よく發達す。産物は米を第一に、麥・大豆・棉花・苧麻等の農産物外、礦産に金あり。扶餘より來る道路は林川邑にて一は東南方江景へ、一は西南方韓山へと岐れ、また西方鴻山にも道路通じ、前記各地へ何れもバスの便あり。林川邑は錦城山・聖興山の中間鞍部南端に位し、大正三年まで林川郡廳のありし地、いま金融組合・市場等あり、交通の要衝に當るを以て附近物資の集散盛んに、市況活潑なり。聖興山上には山城址あり。

リンテイ 麟蹄(面) 朝鮮江原道二十一部の一。道の東部北端に位し、北は高城郡・淮陽郡、東は襄陽郡、西は楊口郡、西南は洪川郡、南は平昌郡に接す。南北に長く、面積は二一五一平方軒あり、實に道中第一の大郡にして、東京府全体の面積とほぼ相等し。東部には大白山脈の主脈南北に連互し、その北端は金剛山の南段にして、それより南方に孤山(一三二〇米)・香爐峰(二二九三米)・圓峰(一三二二米)・七節

なきも城内山地連る。西部には泗陽流紫陽川(琴湖江上支)ありて其沿岸に稍低地を見るも、砂礫質の土壌にして地味瘠せ。灌溉不利の爲め水田乏しく收穫率低し。産物は大豆・小麥・糠草等を主とし、また麻布の産あり。道路網は比較的密に發達せるも何れも等外路線にして峻坂多く交通・運輸不便なり。粟落は地形的關係上西部に偏在す。

リンコイ 梨郷村(面) 山梨縣羽前國東置賜郡の西部。宮内町の西約四軒。北境に若松山、西北境に酒松山、中部に龍樹山(三三七米)登え、西北部は山地をなすも、東南部は米澤盆地に屬して平坦なり。松川は村の西南境を西北に流る。米・蕎麥・粟等の産あり。道路は村の中部を東西に通す。省線長井線通じ梨郷驛(大正二年設置)あり。近世伊達氏の勢力下にありし地にして、いまその將士の居館址所々にあり。

リンコク 林谷(面) 朝鮮全羅南道山郡の西北端に位置し、光州府の西方約一五軒にあり。東南境は三〇〇米内外の山地連互し平地に乏しきも、中央は低平にして地味肥え農業に適し、西部は黃龍江によりて灌溉水利よく水田地帯を形成す。生業は農業を主とし、家庭工業として綿布・鉄・農具等の生産行はる。産物は米・大豆・小豆・棉花・芋・麻等あり。又礦産として錫を産す。鐵道湖南本線は面の略々中部を南北に貫貫し中央に林谷驛(大正三年設置)あり。道路は此

時(一一七二米)・大間嶺・神領峰(一一八三米)・雲岳山(一七〇八米)・點風山(一四二四米)・柯七峰(一一四〇米)・五臺山(一五六三米)・杜芳山(一五七七米)等の高峰を順次に起し、特に雲岳山・五臺山は峻險雄大にして、また史蹟に富むを以て名あり。西境には北より鷹峰・加七峰・大巖山(一三二六米)等、南境にも鷹峰山・可得峰など何れも一千米以上の山連り、城内には明塔山・雲石山等錯ち、全城殆ど山地を成す。河川は南部山地に發する内麟川・芳臺川等の諸流みな集りて昭陽江となり、北部山地に發する麟北川と、雲石山西麓に合して著しく水量・河幅を増大し、西方に蛇曲流して春川邑に至る。之等諸川流域の狭長なる平地及び、山地の緩傾斜面、臺地等に耕地發達す。耕地面積は郡の面積に比し少くも、地味肥沃にして道内に於ける主要農業地帯をなし、水田は少く、畑作を主とす。農産物は米・大豆・大麥・蕎麥・粟・棉花・大麻等を主とし、副業に養蠶・牧羊・養蜂等行はれ、その他山地には木材・薬草を出す。工業には麥粉・濁酒・麻布・薬加工品等、鐵産には金銀あり。道路は春川より日本海岸の杆城に出づる二等道路西南・東北に貫き、沿線の交通は稍々便なるも、その他は峻坂多く、概して不便なり。行政上、六箇面に分ち、郡廳を麟蹄面に置く。郡の人口七萬餘に過ぎず人口密度は一方軒當り三六人にして、道中に於て最も稀薄なり。本郡は新羅時代

リンサ—リンテ

に島足縣と稱し、のち春州(いま春川)に屬し瑞城縣と改め、高麗朝に至り嶺南と改め、李朝太祖の時始めて嶺南縣と稱す。明治二十七年郡に改め、同四十二年春川郡・江陵郡の各一部を併せ、大正三年面の廢合を行ひて現在に至る。

【嶺南面】朝鮮江原道嶺南郡の中部。北は北面に、南は嶺南面及び南面に接し、東は襄陽郡西面、西は揚口郡の南面と界す。東西に長く二五軒に餘り、面積四七〇方軒餘あり。大白山脈に屬する山地にして、中央に寒石山(一一一九米)絶り、北境に加里峰(一一一九米)、東境に點風山(一四二四米)、北西境には大巖山等聳えて、全城山岳重疊し、また處處に臺地狀地を有す。昭陽江は南方より域内に入りて西北流し、嶺南邑の北約二軒に於て北より来る嶺北川を穿れ、次で南方に蛇曲流す。西部の流域に狭長なる平地ひらく。耕地はこの平地と、山間臺地又は緩斜面に發達し、米・麥・大豆・粟等を出し、其他繭・生牛・蜂蜜・麥粉・麻布等の産あり。主邑嶺南は昭陽江右岸に位し、邑を貫きて河沿ひに二等道路通じ、洪川・春川・杆城・揚口等へハスの便あり、されど東部・西部の山地は里道を通ずるのみにて、途中險坂多く、交通便ならず。邑に郡廳・京城地方法院出張所・金融組合等あり。北方の昭陽江・嶺北川の合流點には合江亭の驛地あり。

北は禮安面、西は月谷・臨河の二面、南は吉安面に、東は襄陽郡立巖面・青松郡嶺南面に接す。南北に長く約一八軒あり、面積約九六平方軒。西面山を以て圍繞せられ、東境と南境とは稍々高峻にて、南部に雲峽山(五九一米)、東北境には六百米を越ゆる峰あり。之等山地に發する溪水は南境近くには流入蛇曲流する半邊川に入り、沿岸に狭長なる平地ありて田畑拓く。産物は米・麥・大豆・繭・牛等あり。南部平地に主邑嶺南あり、西方安東邑より来る二等道路これを過ぎ嶺南を離れて、漢江に通過ハスの便あり。その他同地を中心として四方に里道を出ず、以北の交通は不便なり。

○軒あり、面積約一八八平方軒。南境に大白山脈の主脈連なり、東南部には金剛山の北麓なる嶺南峰(一一一三米)あり、その西方には雲山・笠峰等一千米以上の高峰聳え、之等の諸山は山峯秀拔にしてこの山地より北に向つて數條の山脈を出しつづつ低夷し、海岸に至る。河川は長大なるものなきも、流域と海岸平地とに耕地ひらく。海岸は概ね低沙灘をなし、沖合に松島・穴島・明島等の諸島あり、良泊を缺く。農産に米・粟・麥・繭等あり、沿海は鰻の漁場として知らる。海岸に沿ひ鐵道東海北部線通じ、漢城・登白の兩縣(共に昭和七年設置)あり。元山・襄陽間二等道路は之に沿ひて走り、ハスを通じ、登白驛附近より嶺南境を離れて内金剛の末嶺に至る捷路あり、交通不便ならず。

【嶺北面】朝鮮高州東部郡の略中央部に位し、東西約四軒、南北約一〇軒、面積約三一平方軒あり。東は湖州郡新地庄・住冬庄、西は東港街、北は新國郡・湖州郡湖州庄に夫々隣接し南は海岸に臨む。往昔のパンソア(放棄)社所在地にして周圍を森林に蔽はれ居たり。本庄と住冬庄の界を流るる林邊溪は古の放棄溪(パンソア)にして、港東中里方面の山中に發源し、途中力力溪(リリリリ)を合せて南流し海に入る。現管内は農業盛にして、産物としては米・茶・甘蔗・甘藷を主として、芭蕉・蔬菜類等も産す。農家に於ては其の傍ら畜産業にも従事し、水牛・黄牛・豚・山羊・鶏・鴨・鵞等の飼育も行はる。水産業は殆ど見る可きもの無きも若干の漁獲あり。また住民の一部は工業にも従事し、製糖・精米・醬油・製麵・製菓・竹細工・木製品等を産出。本庄に於ける初等教育の狀況は、漢州小學校、林邊・竹子洞・漢州の三小學校が設置せられ、兒童の就學率は四三%を示す。社會教化機關としては部落振興會・國語講習所・簡易國語講習所・青年團・少年團・社會教化聯合會等多類あり、庄内十數箇所國語講習場を有す。住民の

【嶺南面】朝鮮平安北道定州郡の南部西偏。郡邑定州の西南方約一〇軒。昭和十年三月も海面と臨海面とを合併、新設せしものに係る。北は郭山面・觀舟面に、東北は西面に接し、南方一帯は西朝鮮側に臨む。北境に凌漢山(四二二米)屹立し山腹南に延びて東北境に臨漢山(二〇一米)を起し、餘勢更に延びて東南方に突出する半島を成り、その突端に九千山(一九五米)聳ゆ。かくて東北部と半島南部は丘陵地をなすも、其他は概ね低平にして、西北境を劃して海に入る泗江左岸、凌漢山に發して西南流する河川流域の平地は特に地味肥沃、灌溉の便よろし。半島の南方には内島・外島・外島島の二大島が南北に並び、その西方に觀舟列島、同列島の西北方には小觀舟列島が何れも南北の方向に連る。此等の諸島を浮ぶる海上は干潮時に泥濘遠く連り、從つて本陸部に於ても海岸線延長の大なるにも拘らず、治地として見るべ

きものなく、但し鹽田は極めてよく發達して古より鹽の産地として知らる。以上諸島のうち内島・外島には棄落發達して島民は牛農半漁の生活を營むも、殘餘の諸島は無人なり。而して觀舟列島は北より臥島・長島・觀舟島・連陽島・大岡島・中島・大甘島・小甘島を経て南端の雲霧島(此島のみは葛山面に屬す)に至るまで大小二十餘より成り、小觀舟列島は諸島を最大としその數また約二十あり。この兩列島は共に東側は險崖にして西方に傾斜し、且つ並列規則正しき點に極めて特異なり。本面の主産業は農業にして、米を筆頭に麥・粟・大豆・小豆・棉花・大麻・果實等を産し、その他、繭・牛・食鹽及び魚介を出す。鐵道京義本線北部を通じ、東方定州縣(定州邑)西方郭山縣(郭山面)に近く、北半部の交通は比較的便利なり。凌漢山上には規模大なる古城址あり。

リンホ—リンフ

約半數は大麻を專營、教化狀態概して良好なり。當庄の交通機關は北部を東西に走る輕便鐵道ありて庄下交通の補助をなす。本庄の沿革としては往昔明末鄭氏時代、北方平原より驅逐せられたる平埔蕃アアカ社一名パンソアの退却地なりしが泉州人壽・蔡の二姓の者嶺南港より上陸、舊地を開拓し現在の磁子口の地點に一庄を立て西勢庄と稱へたり。次で清領後、康熙年代より林邊溪流域を成は興得し、或は侵法して漸次田墾・林邊方面の開拓に従へり。後、粵人葉古なる者數人の同志と共に渡來して七地層を開拓、次で閩人湯・李・傅・蔡等車路築を開き、竹仔脚方面は乾隆中葉に閩・粵人相前後して開拓に當り、次で乾隆の末年には林兄弟に依りて漢州が開かれ漸く遠近風を聞きて移住し來る者多く、林邊一帯は都ちにして肆街を形成さるるに至れり。又南方に天然の良港(新打港)ありしより對岸との貿易盛に行はれ、一時は三百餘家の住民を有せし、道光二十年林邊溪の氾濫に遭ひ、地の過半は流亡し、舟楫殆んど不能となり、商勢頓に衰へたるも農業は依然として發達し、人口も漸次増加したり。我が領臺後明治三十四年に至り官制改正の際林子邊と改め、庄内を林子邊・七地層の兩區に分ち居たるが、大正九年十月一日地方制度改正に伴ひ、七地層區内の三西和・下郡の兩大字を東港街の管轄にし、即ち往時の港東中里の一部分、林仔邊(林邊と改稱)・田墾層・磁仔

口・竹仔脚・漚頭・牛埔・巷仔内・漢州・車路地・七地層の十大字を以つて現在の林邊を形成せり。人口一五、五九〇(昭和十一年末調査)。

リンホ—リンフ

【林邊溪】臺灣高雄州下に流るる一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峡に注ぐ。

【林邊溪】臺灣高雄州下に流るる一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峡に注ぐ。

リンホ—リンフ

【林邊溪】臺灣高雄州下に流るる一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峡に注ぐ。

【林邊溪】臺灣高雄州下に流るる一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峡に注ぐ。

リンホ—リンフ

【林邊溪】臺灣高雄州下に流るる一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峡に注ぐ。

【林邊溪】臺灣高雄州下に流るる一川。東部中央山脈に發源し西流して潮州郡下に入り、附近に灌溉して、林邊・佳冬兩庄境を流れて臺灣海峡に注ぐ。

ル

ルストツ 留壽都村

北海道釧路支庁 留壽都郡 留壽都村
志支離釧路支庁の南端。後方羊蹄山の南麓に位置し、支離東端を占む。東は喜茂別村、西は留壽都村、南は釧路支離釧路郡に界す。面積八六・四方軒。地勢高燥なる山嶽地帯にして北は羊蹄山(一八九三米)、東は別別岳(一一〇七米)、中南はまた諸山峯々西南に低夷するも、平地なし。尻別川上支流の發源地にして附近に農場地帯を有す。米・大豆・馬鈴薯・蕎麥・粟・麻・牛・木村・製菓等を産す。準地方道は喜茂別村より南に踏地方に向ひて貫通し、喜茂別・京橋・定山溪温泉・洞窟等へパスの便あり。明治三十年七月に戸長役場置かれ、同三十九年二級町村制施行。もと留壽都村を留壽都村と改稱す。

ルタカ 留多加

留多加郡 留多加町
留多加郡 留多加町
留多加郡 留多加町
留多加郡 留多加町

留別村

北海道千島國樺支庁樺太支庁 留別村
留別村 留別村 留別村

ルモイ

留壽都郡 留壽都村
留壽都郡 留壽都村
留壽都郡 留壽都村

ルベツ——ルモイ

をなし、また沿岸よりは鱈・昆布等の水産あり。市街地は川口に近き曲流部に位置し、東北西に川を繞らし上流清水村山地より流下する木材を集散し、大泊支離出張所を置かる。また社線南樺鐵道の留多加(大正十五年開業)あり。群前よりは留多加(大正十五年開業)あり。群前よりは留多加(大正十五年開業)あり。群前よりは留多加(大正十五年開業)あり。

留邊藥町

北海道北見國 留邊藥町
留邊藥町 留邊藥町 留邊藥町

Table with 3 columns: 留邊藥町, 留邊藥町, 留邊藥町. Lists names and locations.

留壽都

留壽都郡 留壽都村
留壽都郡 留壽都村
留壽都郡 留壽都村

留壽都

留壽都郡 留壽都村
留壽都郡 留壽都村
留壽都郡 留壽都村

り松前藩の家臣なる下國兵大夫の支配となり、其後、場所の開設ありしも私人の居住は許されず、されば私人が此地に住するに至りしは安政年間を溯ることなかるべし。北邊を露國船屢々侵すに及び安政六年、蝦夷地を各藩に分割して給與し防備と開拓とに當らしめたるが、此際、留前邊は庄内藩領となり、庄内藩は留前場所に實別・茅原の二村を開く。これ留前に於ける和人聚落の嚆矢とするも不可なるべし。〔蝦夷神社〕郷社。祭神布杵島飯命。天明年間の創立。例祭、七月十五日。

【留前線】省線の一。北海道石狩・天鹽二國に亘る。留前本線（深川—増毛、全長六六・八軒）、羽幌線（留前—羽幌、全長六〇・六軒）の二線を含み、總延長一七・四軒とす。

【留前本線】省線留前線の一部。北海道石狩・天鹽の二國に亘る。留前本線の深川より分岐し、恵比島驛・留前驛等を經て増毛驛に至る。全長六六・八軒。石狩沼田驛にて省線札沼線、恵比島驛にて社線留前線、留前驛にて省線羽幌線・社線留前線に各々接続す。

【留前線】私設鐵道。北海道釧路・石狩・天鹽の三國に亘る。留前本線の恵比島驛より分岐して昭和驛に至る一七・六軒、留前本線の留前驛より分岐し比留前驛に至る一・〇軒、同じく留前驛より分岐して假古丹渡驛に至る一・四軒、同じく留前驛より分岐して西留前驛に至る一・

二軒の四線を含む。

【ルヨベツ】留夜別村 北海道千島國根室支廳根室郡の東北中部。國後島の東北部を占め、西南は泊村に隣接す。面積九六一・〇五平方軒。三周を海に圍まれ海岸線の出入乏しく、殊に西岸は險崖多く後背地に山地迫りて條件宜しからず。

香取山脈は稍西寄りに盤走し、爲に東岸は平坦地比較的多く、河川また灌溉して農牧に適す。棄置され東岸に集り蟹・鮑・昆布・鮭・蟹等の漁獲及び昆布製造・蟹罐詰等を營む。村内に千島嶺山あり。北部チヤチヤ岳は二重富士狀の秀麗を有し各嶺高山植物に富む。根室港および近海郵船の定期航路の便を有し、根室港より小型發動機船にて直航すれば約十時間にて達す。されど冬季は積氷或は流水のため航海は殆んど全く不可能なり。本村は大正十二年に置かれしもの。鹿川川の河口安山質熔岩層に底吼の瀧あり。高さ約二七米、幅二二米弱にして、北海道中、有名な巨瀑なり。〔千島嶺山〕留夜別村にある金銀嶺山。シベトロ川口の北方二軒の地點にあり。面積三五萬餘坪、その地質は第四紀層・第三紀層・閃綠岩・石英粗面岩・安山岩などより成り、露床は閃綠岩及び第三紀層の礫層を充塞せる含金銀石英脈にして數條あり、主なるものは本嶺（脈幅三・九米）及び元山嶺（脈幅一・二—一・八米）の二條とす。當嶺山は大正八年頃の発見なるも、復活なる活動を始めたるは昭和九年九月以後の事

に屬す。同十年には金銀七二〇兩（價額三萬五千餘圓）を産出し、一躍重要嶺山に列す。いま昌德礦業會社採行。

【ルルイ】岳 千島列島國後島の北端にあるコニエテ型の火山。標高一四九六米。その北麓の先端はルモイ岬とな

レ

【レ】麗島 朝鮮咸鏡南道南部の島。永興湖の湖中央に位し、元山港の東・北一五軒餘。島頂は約一〇米の標高にて、西部に一岬角半出ず。棄落は西北岸に發達し麗島里と稱す。沿海は鮑・蟹・鰻等の漁獲多し。島の南東端に麗島燈臺（明治三十九年設置）あり、第四等燈臺にて連閃白光、一〇秒を隔てて五秒間に三閃光を發す。先達二一・五哩。霧笛を裝備し、四〇秒を隔てて五秒吹鳴す。本島は行政上、慈恩郡麗島に屬す。

【レ】禮安面 朝鮮慶尙北道安東郡の東北部。安東邑の北・東約一八軒。北は陶山面に接す。東西に長く約一八軒あり、面積約一三〇平方軒。中部以東は山地にして概ね五—六百米の高度を有し北は清涼山（八七〇米）に達す。地勢東北より西南に低減せるも、西部はなほ二—三百米の丘陵地をなす。洛東江は西寄りを南方へ蛇曲しつつ流れ、沿岸やや平地ひろく、産物は米・麥・大豆・棉花・繭等あり。洛東江の右岸、河成段丘上に禮安邑あり、道路は此處を核として四通し、南方の安東邑、北方の陶山面土溪洞にパスを通ずるも、交通未だ便ならず。東部山地にては仁溪洞を中心聚落となし禮安と共に地方的物資の集散地たり。禮

レ

【レ】靈巖 朝鮮全羅南道二府二十一部一島の一。北は羅州郡、東は長興郡、南は康津・海南の二郡に接し、西北は梁山江下流を距てて務安郡と本浦府に相對す。

東より西南へ長く、面積約四八一平方軒あり。東南端に月出山（八〇九米）聳立し、その支脈東中部に重疊互立して國師峰（六一三米）、弓城山（四九二米）等々起すも、西中部は花崗岩質の老年性丘陵となり、殊に梁山江沿岸には稍々廣き低地横ばる。月出山は岩骨峻々として全道稀に見る絶頂の地をなし、小金剛の稱あり。河川は靈巖邑の東北を流るるを長成川と云ひ羅津浦に注ぎ、西にある横川は西倉に入り、東北の龍頭川は羅州郡に入り梁山江に注ぐも、何れも小流にして、灌溉の便はあれど、梁山江を除きては舟運の便に乏し。頗る水平的狀態に富み、北西岸は梁山江下流のなす南海灣の支離數箇あり、また西方には本浦港へ向ひて狹長なる半島突出し、附近に羅佛・奇之、象山等の島嶼あり。之等の沿岸は何れも遠淺にして干潮時には泥海遠く連るを以て、良泊に乏し。産業は農を主とし米・麥・大豆・棉花等の農産あり、副業に蠶糸製造・養蠶・牧畜行はる。其他、繭草・繭・綿布、並に魚介・食鹽の産あり、また竹器・竹欄・籠等の竹細工を特産とす。未だ鐵道を通ぜざるも、北方羅州邑より

二等道路來りて靈巖邑を經、南方長興・海南の兩邑に達し、其他、西方半島部へも自動車道路を通じ、龍崎よりは對岸本浦府へ渡船連絡す。水路は沿岸各地より不便ならず。行政上、十一箇面に分ち、都府を靈巖面に置く。人口九萬餘。一方軒密度は一九〇人にして、道平均一八一に比し稍々稠密なり。本郡はもと百濟の月奈郡にして、新羅に至り靈巖と改めしが、高麗成宗王の十四年朔州と改め、また朔州と號し安南都護府を置けり。のち顯宗の九年また靈巖郡に復し、李朝これを顯巖と改め、明治三十九年より大正四年間に於て隣接郡との面の入替が行はれ以て現在に至る。

【レ】靈巖面 朝鮮全羅南道靈巖郡の中央より稍東部に跨る地域を占め、羅州邑の南方二五軒餘に在り。南境には月出山（八〇九米）聳々たる峻嶺を以て屹立し、北境には弓城山（四八二米）屹立し、餘勢城内に及び山岳重疊すれども、北西部は低平にして殊に梁山江下流のつくる南海灣に臨む一帶の地域は地味肥沃にして農産豊かなり。住民の多數は農業に従事し、また養蠶をなす者尠からず。産物は米を主とし、其他棉花・煙草・綿布・繭・竹細工品・生牛等あり。道路は靈巖を中心として、北方の羅州、東南方の兵營と長興、南方の康津・海南に各二等道路を通じ、途中、陵田時・火時等の諸村ありて交通不便なりしが、最近改修を見、容易

に自動車を通ずるに至る。主邑靈巖は山北麓に位し、附近耕地廣く農産豊かにして物資集散の中心を成し、羅州地方法院出張所・金融組合・養蠶傳習所等あり。

【レ】江ノ大川 江ノ大川の河口に近き洲にて江戸中島と呼べり。のち新川を稱りて靈巖島と稱島とを分つ。安永頃より江戸開港場の一となり、俗に萬島ともいふ。名稱は此處に靈巖寺がありしに因む。靈巖寺の深川に移りし跡に東西に一渠を通じ、いま京橋區の靈巖町・越前堀・新川の三町に分る。東京灣汽船の發着點ありしが、之も芝浦に移る。日本水代殿・六ヶ外の人々のせむ事に十五年たつうちに、三萬兩の分限になつて靈巖島に隱居して、ふたりの養親に孝をつくしける。婦美車常鹿子、靈巖島築立新地。此移土漸々去夏よりじやうじゆす、製衣しやう新地におなじ、いまだしかとひやうなし、製國策「れいがん新地三田神明市兵衛町、赤きか米川など其ほか諸所におしてだつてはなければ、あるいはさげ重、おどり子、つり物、くわせ物、しやうべん組の町けいしやなどというく有」

【レ】嶺脚寮 臺灣臺北州にある石炭山。嶺脚は基隆郡平溪庄と文山郡石碇庄とに跨る。臺灣礦業會社の經營に係り、昭和十年には石炭五、六九三萬噸（價額三萬餘圓）を産出す。

レーキ—レーサ

【嶺脚寮】 臺灣總督府鐵道平溪線の一段（昭和四年設置）。臺北州七尾郡平溪庄にあり。

レーキン

嶺斤面

朝鮮京畿道

遼川道の東南部。郡邑遼川の南方約一〇軒にあり。南境に磨又山（五八七米）・龍嶺山（六七五米）等あり、その餘勢南部を壓して山地を成し漸次北方に緩傾斜して臨津江とその支流漢灘江に達し、之等の諸江に峡谷を成し至る所峽谷美に富む。産物は米・小麦・大豆を主とし、繭・煙草・麻・綿布等もあり。また果實に栗・杏等あり。鐵道京元線は東部を南北に縦貫し全各郡ありて此地を基點として、北方の遼川、南方の議政府に各二等道路を、西方の長嶺、西南方の楸城、東方の永平に三等道路を通じ之等は何れも平垣路にして交通・運輸便なり。棄落は江に沿ひ分布し、漢灘川右岸の全谷里には商事務所と陰曆一・六の日に開く市場ありて郡南南南郡及び抱川郡の青山面・蒼水面等を商團とし取引活潑なり。

レーケン

礪峴

朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛（大正十二年設置）。京義道開陽郡北面にあり。

レニコ

靈光

朝鮮全羅南道二府二十郡一島の一。道の西北部に位置し、東は長城郡、南は咸平郡に接し、北は全羅北道高敞郡と接し、西方一帯は黄海に面す。西方海上の嶺島群島・洛月島・松耳島・靉馬島等を含み面積四三二平方軒あり。

の四五九米等あり、西北境に加魯山脈が前者に接して走り伽倻山（六七八米）最も高く、これより東方へ向つて數條の小支脈を出す。平野は兩山脈の間に横ばり、西南より東北へ向つて緩傾斜をなす。従つて柳梅川の支流たる金馬川・無限川等は地形に従つて流路を採り、平野を灌溉す。産物は米を主とし、麥・大豆等あり、特用作物たる麻・苧麻・煙草等の栽培も盛なり。また鐵産は金銀を主とし豐産金銀・大衆金銀は産額特に多し。社線京南鐵道南線は中部を東北より西南へと貫き新禮院・禮山・吾可・柳梅等の驛あり、道路は之と略々走向を同じくする天安・洪城間二等道路あり。南部には車嶺を除いて公州・洪城間二等道路あり、外、禮山・徳山・大興等を核として道路網の發達見るべきものあり、交通便利なり。行政上、十二箇面に分ち、郡廳を禮山面に置く。人口約一萬、一方軒密度は二〇三人（昭和十年）にして、道平均一八八人に比して稍稠密なり。本郡は大正三年三月、もと禮山・徳山及び大興の三郡を合併したるものなり。もと禮山郡は百濟朝には烏山郡といひ、新羅に至り孤山と稱し、高麗太祖二年禮山と改め、顯宗王九年天安府に隸し縣監務を置き、李朝太宗王十三年縣監となし、のち郡に改む。徳山郡はもと德豐と伊山の二縣を合せたるもの。大興郡は百濟時代の任存城、一名今州にて、新羅朝に至り任城縣と改め、高麗の初期大興と稱へ、顯宗王

天011

商業は靈光邑・法聖浦・浦川を中心とし、特に靈光・法聖の兩市場は取引活潑なり。靈光邑を核として道路網よく發達し、東北方高敞、北方法聖浦、東南方松行里、南方咸平、西方奉南里へは何れも二等道路を通じバスの便あり。行政上、十二箇面に分ち、郡廳を靈光面に置く。郡の人口約一〇萬、密度は一方軒當り二三六人（昭和十年）にして、道内の第四位にあり。本郡はもと百濟の武尺伊郡にして、新羅時代に武靈郡と改め、高麗朝に靈光郡とし、李朝を経て今に至る。また英城・靜州などと稱せしことあり。

レニコ

靈興

朝鮮京畿道富川郡の一。仁川府の西南方海上約二五軒に位置する靈興島を主島とし、その東の仙才島、西方の紫月島、及び德嶺島の東方に連る大伊作島・小伊作島等を以て構成せらる。靈興島は最大にして東西・南北とも各六軒前後あり、東は靈興水道を経て仙才島並に大阜島（水原郡）と相對し、北に國恩峰、西に銅岩山並ゆるも高峻ならず、島周は干出泥堆によりて圍繞せらるるを以て良泊に乏し。紫月島は大小前者に次ぎ東西約六軒、南北一・二軒にて東端に標高一五九米の峰あり。之等諸島の住民は多く牛農牛漁にして、また牧牛を營む。沿海には蝦・淺網・鰯等の漁獲多し。交通は仁川港との間に發動機船の便あり。

の九年遂州に屬し、明宗王二年咸平を置き、李朝太宗十三年に至り縣監となし、のち郡に改めたるものなり。【禮山面】 朝鮮忠清南道禮山郡の東北部。東境に道高山・徳風山（四七三米）等聳えて、東部は山地を成せども、西半部は無傾斜これを灌溉し潤ゆる柳梅川平野の一部を成し、土地極めて低平且つ肥沃にして、氣候極めて温和、重要な農業地域を形成す。産物は米を主とし、工業之に亞ぐ。産物は米を最とし、小麦・大豆及び特用作物たる麻・苧麻・煙草等の栽培も盛なり。鐵産には金・マンゲスチン等の許可領域あるも、現に採行中のものは大同里附近に金坑一所あるに過ぎず。社線京南鐵道南線は西部を南北に縦貫し新禮院（大正十一年設置）・禮山（大正十二年設置）の兩驛ありて、此地を基點として道路網四通す。殊に禮山驛より東北方天安邑、西南方洪城邑に各三等道路、西方徳山、南方新陽・大興に各三等道路を通じ、何れも坦路にして乗合自動車の便あり。禮山邑は郡中第一の大郡にして郡廳・公州地方法院出張所・公立農學校・興業銀行・金融組合等あり。市街の東方には東山公園あり。

レサン

礪山面

朝鮮全羅北道

道益山郡の東北部。裡里邑の北方約一五軒にあり。東境に天靈山（五〇〇米）の聳ゆる他著しきものなく、殊に西北部一帯は江景平野の一部を成し、沃野拓げ地味肥沃にして、郡中の重要な農業地を成す。住民は農業に従事し、傍ら機械・穀類を爲す者尠ならず。産物の主なるものは米・大豆・小麦・大麻・苧麻等にして、殊に米は品質・量ともに優れ礪山を経て内地に移出せられ、また清酒醸造用として馬山地方に移出せらる。道路は礪山邑を中心として平垣路にして自動車往來頻繁を通じ、北垣路にして自動車の往來頻繁を通じ、礪山は大正三年まで礪山郡廳の置かれし地、金融組合・市場等ありて市況活潑にして、また交通の要衝に位置し、北方江景・礪山、西方成悅、南方益山・裡里等へバスの便あり。

レサン

靈山面

朝鮮慶尙南道

道昌寧郡の南部。郡邑昌寧の南方約一五軒にあり。北境には靈雲山（七四〇米）・宗岩山（五四六米）等聳えて北部は一帯に山地を成せども、南部は數多の湖沼分布し、西隣の文蔚面、東隣の都梁面と共に湖沼地域を形成す。南部は地味肥沃にして良田沃野多く開け、本郡の主要農産地を成す。住民は質朴にして多くは農業に従事し、工業は酒の醸造を除きては見るべきものなし。産物は米・小麦・大豆・大豆・粟を主とし棉花・大麻・煙草等あり。また朝鮮酒・焼酎の産あり。當地は大正三年三月昌寧郡に合併を見るまで、靈山郡の郡廳所在地たりし所にて、靈山を中心として道路網よく發達し、南方馬山・統管方面、北方昌寧・大邱へ通ずる二等道路には乗合自動車を通じ、更に東方釜谷、西方文蔚には三等道路を通じ何

れも坦路にて交通・運輸便に、且つ洛東江の水路は物資の運搬に供せられ交通便なり。邑は嘗ての靈山郡廳の所在地にして北に靈雲山を負ひ、西南一帯に廣野を控へ、水陸交通の要衝に位置して物資の集散活潑なり。陰曆三・八日の市は附近驛に見る股販にして、その取引額は昌寧に亞ぎ第二位にあり。

レジン

靈仁面

朝鮮忠清南道

道牙山郡の北部。郡邑温陽の西北方の約一五軒にあり。車嶺山脈に屬する靈仁山（三六三米）西南境に聳えて西南部は山地を成せども、北部一帯は安城川の沃野を成し、中央に平野の單調を破るが如く高聳峰（二九六米）屹立す。高聳峰はその形富士の如くピュウットの地形を成す。平野は灌溉の利に富み水田甚だ多し。氣候は温暖にして盛夏三四度を越えず嚴冬も零下一〇度を下ること稀にて農業に好適す。住民は専ら農業に従事す、副業として畜産・養蠶業は盛なり。産物は米・小麦・大豆・煙草・棉花・果實・鹽及び魚類等あり。道路は靈仁山北麓の牙山邑を中心として東北方平澤驛、東南方温泉里に各三等道路を通じて鐵道京釜線及び京南鐵道忠南線に連絡し、交通極めて便なり。牙山は大正三年に郡合併に至るまで善牙山郡の首邑たりし所にして商取引は今なほ餘勢を存し、郡内温泉里に亞ぎ取引活潑なり。北岸の白石浦は牙山浦奥に位置する要件にして、對岸京畿道安城郡と西方唐津郡の雲井里・新夜里等との間に渡船

レーサ—レーシ

【嶺脚寮】 臺灣總督府鐵道平溪線の一段（昭和四年設置）。臺北州七尾郡平溪庄にあり。

レサン

礪山面

朝鮮全羅北道

道益山郡の東北部。裡里邑の北方約一五軒にあり。東境に天靈山（五〇〇米）の聳ゆる他著しきものなく、殊に西北部一帯は江景平野の一部を成し、沃野拓げ地味肥沃にして、郡中の重要な農業地を成す。住民は農業に従事し、傍ら機械・穀類を爲す者尠ならず。産物の主なるものは米・大豆・小麦・大麻・苧麻等にして、殊に米は品質・量ともに優れ礪山を経て内地に移出せられ、また清酒醸造用として馬山地方に移出せらる。道路は礪山邑を中心として平垣路にして自動車往來頻繁を通じ、北垣路にして自動車の往來頻繁を通じ、礪山は大正三年まで礪山郡廳の置かれし地、金融組合・市場等ありて市況活潑にして、また交通の要衝に位置し、北方江景・礪山、西方成悅、南方益山・裡里等へバスの便あり。

天011

連絡あり。白石浦及び牙山附近は明治二
十七八年戦役の際、大島混成旅團の一部
これを占領し、成敗方面より敗走し来れ
る敵軍を潰滅せし處なり。附近に文祿・
慶長の役に於ける朝鮮水軍の將として有
名なる李舜臣の墳墓あり。

リースイ 麗水

【麗水金山】 朝鮮京畿道麗州郡金沙面
にある金銀洞山。昭和十年には金二三、
五九二瓦、銀二三、五九一瓦、金銀七
九瓦(この總價約八萬圓)を産出し、同
年六月末の従業員は一五二人なり。

【麗水郡】 朝鮮全羅南道二府二十一部一
島の一。道の南東部に位し、北は順天郡
に連り、他は海に面す。順天の南に突出
する麗水半島を以て主部となし、その南
方の突山島・金鷺島・蓋島・所里島・狼
島等、及び南西方の互文島・草島・翼竹
島等の諸島を含み、面積四八三平方軒あ
り。本郡は小白山脈の南部が沈降の結果
生成せし地域にして、麗水半島部には靈
鷲山(五一〇米)・虎嶽山(五〇〇米)等を
始め無数の丘陵起伏し、概して急傾斜に
して平地に乏し。而して更に深く沈降せ
しものは島嶼となりて半島の南面に分布
す。即ち本郡に属するものみにて有人
島約三〇、無人島は一七〇に餘り、海岸
線延長は九〇〇軒に及ぶ。河川は数條あ
るも、何れも短く舟楫の便を乏しく。農産
物には米・麥・大豆・粟等あり、棉花は
頗る良質のものを出し産額また多し。水
産業は本郡の生命にして、鱈・鯛・鱈・

鰈・石首魚・鱈・太刀魚等の漁獲多
く、牡蠣・海苔の養殖盛にして海苔は内
地へ移出され、水産製造にありては煮乾
鱈を大宗とす。工業は綿布・麻布・織
工・造船等の工業行はる。産産は磁石・
金銀等あり。半島部には鐵道全羅線通じ
北より栗林・新豊・徳陽・双鳳・美坪・
萬壽・麗水の各驛を経て麗水港驛に達
す。順天より来る二等道路は鐵道と並行
して同じく麗水港に至りバスの便あり。
麗水港より下關との間に毎日一往復の
連絡船出で、其他、沿岸航路船の寄泊地
をなし、交通頗る便なり。行政上、一邑
九面に分ち、郡廳を麗水邑に置く。人口
一二萬餘、一方軒密度は二四九人(昭和
十年)を算し、道内に於て光山・羅州の
兩郡に次ぎ稠密なり。本郡は百濟時代の
狼狽縣にして、新羅朝これを海邑縣と改
め、高麗朝に至り麗水郡と改稱す。李朝
太宗十三年水軍節度使を置き左水營と稱
し、宣宗二十六年陸路に忠清・全羅・慶
尙の三道統制使を置き右節度使を兼ね
しめ、後七年を経て統制使を統制に移せ
り。英祖元年都護府と改め府使を設けし
水使を兼ねしめしが、翌年都護府を廢し、
節度使のみを置き、翌年都護府に節
度使を廢し、同三十年麗水郡となし郡守
を置く。大正三年に突山郡の一部を本郡
に合して今日に至る。

【麗水邑】 朝鮮全羅南道麗水郡の首邑。
全羅南道の東南端、麗水半島の突端に位
置し、前面に大嶽島を始め突山島その他
無数の島嶼横ばり風浪を防ぎ、港内水深
頗る大にして天然の良港を成す。釜山・
木浦の中間に位置する最も重要な商港
なり。麗水は李朝太宗の十三年順天都護
府管下に屬し、別に水軍節度使を置き左
水營と稱せし事あり。其後、一六三年を
経て宣宗二十六年十月、我が文祿二年の
朝、豊臣秀吉開白たりし當時、忠清・慶
尙・全羅の三道に於ける水軍の統制營と
なし、統制使を置き節度使を兼ねしむ。
當時の統制使李舜臣は、文祿・慶長の役
(壬辰の亂)に於て龜船を使用し、我が水
軍の北上を撃つて古戰場にして日鮮史
上を永久に飾るものなり。行政上の沿革
は元呂水面と稱へ、建陽元年雙鳳面と改
め、隆熙二年雙鳳面の一部を分轄し以て
以て麗水面と成し、大正三年四月に面の
名稱區域變更に際し麗水面と改め、大正
十二年四月指定面に昇格し、昭和六年四
月に地方制度の改正に伴ひ、麗水邑と成
る。市街は山容秀麗なる日光の男體山に
も比すべき鐘鼓山を中心として山麓より
海岸通まで累々たる巒を連れ、西南部は
舊市街にして、西北に寒山寺、東は海雲臺
に集團して、東町・西町に分れ、棧橋に
は釜山航路・河東・南海航路・下關・大阪・
神戸等の諸航路・濟州航路・木浦航路等
の諸航路網集して頗る股脈を結み、木
浦を遙かに凌ぐ觀あり。東町の鐘鼓山中
腹に郡廳舎あり。其前方の異色ある建築
は郡廳と稱し、慶長四年、統制使李舜

許多く、李舜臣の忠墓祠のある石梁寺を
始め、西町には順天街道に沿ふ小丘上に
李舜臣神廟あり。内港中央に横ばる周圍
〇・六軒の小島は將軍島と稱し、文祿役
に李舜臣の古戰場にして將軍城跡ありて
標樹千餘本を植み、櫻花の名所なり。麗
水港外に麗水燈臺(大正二年設置)あり、
燈質は閃白光にして毎三秒に一閃光を發
す。光達距離一四哩。

【麗水半島】 朝鮮全羅南道の東南部にあ
り。順天邑の東南方に於て約六軒の幅を
以て始まり次第で東南に擴がり、西南部
には更に古突山半島を突出せしむ。半島基
部より古突山半島の突端まで約三〇軒あ
り。東北は光陽湖に臨みて光陽郡との間
に嶺島を始め松島・大勳島・三千島等を
泛べ、東南は麗水海灣を距てて南海島と
相對し、南は望洋洋に、西は汝自湖に臨
む。東南端は狹隘なる麗水海峽を隔てて
突山島・大嶽島・小嶽島あり、海峽に臨
みて麗水港の良港を擁し、同海峽及び望
洋洋の南方には突山島を始め金鷺島・蓋
島・白也島・狼島その他多數の島嶼群を
望む。此の半島は南方諸島と共に小白山
脈の末端が沈降の結果生ぜしものにて、
多くは丘陵地をなすも、耕地よく拓け、
米・棉花等の産多く、沿岸には汝自湖の
鰻を始めとし、魚介の利頗る多く、また
その干潟地を利用して海苔の養殖行は
る。

リースー 禮成江

朝鮮の黄海
京畿の二道を流るる河。黄海道遂安郡の

北部、産山(二二〇米)の南麓に發源
し、南流して支石川を合せ、新溪郡を經
て金川・平山の兩郡の界をなし、東方よ
り九淵川を容れ、西方より瀾川を合せ、
南流して黄海・京畿二道の界をなし、の
ち江華灣に注ぐ。流程一七四軒、流域面
積四〇〇〇方軒に餘り、江口より上流六
五軒の汗浦まで舟楫の便あり。

リースー 醴泉

【醴泉郡】 朝鮮慶尙北道一府二十二郡一
島の一。道の北西部に位し、東北は榮
州郡、東南は安東郡、西は開陽郡、南は
義城・尙州の二郡に接し、北は忠清北道
丹陽郡と界す。面積六六五平方軒餘。北
境に小白山脈走り兜率峰(一三二四米)以
下一千米以上の高峰を連れ、支脈南方に
延びて、北半は山地をなす。また東南部
には大白山脈支脈東方より延び来り義
城郡界に鶴駕山(八八二米)・普門山(六
四三米)等を起すも、中部以南は概れ低
き丘陵地帯にて、東北より西南へ向つて
緩斜す。洛東江本流は東方安東郡より来
り郡の南境を曲流し、支流乃城川は東北
榮州郡より来り、兜率峰に發源する漢川
を容れ、南部を西へ南の方向に流れ、郡
の西南境にて龍宮方面より来る錦江を併
たる後、洛東江に合流す。此等の流域に
は稍々廣き沃野をひらく。耕地面積約二
萬一千ヘクタール、水田と畑は面積に於
て相伯仲し、水田の約三割には二毛作行
はる。主要農産物には米の九萬石を第一
に、大豆五萬石、大豆二萬石、棉花一三

〇餘萬石、楮二萬餘貫等、その他小麥・
粟・黍・燕麥・大麻・苧草等あり、果
實は柿多し。副業の養蠶・牛豚鶏の飼育
は盛にして、産額約三二萬軒、畜産額一
一萬餘圓に達し、工業物としては綿布・
明紗・朝鮮紙、鐵産には金銀等あり。社
線朝鐵道北線中部を西より東へ貫走し龍
宮・醴泉・虎鳴等の驛あり、道路は之と
併し並行する咸昌・安東間の二等道路あ
り。醴泉よりは東北榮州、北方豊基等へ
至る道路を設ち、何れもバスの便あり。
行政上、一邑十一面に分ち郡廳を醴泉邑
に置く。本郡は古く新羅朝には水滸縣と
稱し、景德王現在の名に改め郡となす。
のち高麗朝に肅州と改め、明宗王の時基
陽と改め、李朝太宗王は肅州郡となし、
ついで今の名に改め、大正三年更に龍宮
郡を併せて今日に及ぶ。龍宮郡は新羅朝
の盤山(一名同山)にして、顯宗王の時龍
宮と改め、其後、監務を置きまた縣監に
改めしが、近世は郡に復し大正三年に至
つて醴泉郡に併合さるるに至る。

【醴泉邑】 朝鮮慶尙北道醴泉郡のほぼ中
央。尙州の東北方約四〇軒にあり。醴泉
盆地の略中央を占め、土地低平にして地
味肥沃、加ふるに洛東江支流の漢川これ
を灌溉し、郡中重要な農産地を成す。住
民の多数は農業にて、又機械を營む者多
く、綿及び綿布を産すること郡内は勿論
本道中優位にあり。一般に勤勤、更に副
業能く發達せるを以て富裕にして、生活
程度は他地域に優る。産物は米・小麥・大

豆・大豆・玉蜀黍・棉花・陶磁器等あり。道
路は面邑龍潭里を中心として、東方成川

の建築に係るものにして、間口三十間
奥行八間を有し、結構雄大なる朝鮮隨一
の建築物の稱あり、いま麗水公立小學校
校舍に使用す。本邑は古來南朝鮮の重要
地たりしが一時振はず、昭和五年十二月
南朝鮮鐵道の光復線(いま全羅線と改む)
全通と同時に下關・麗水間の毎日發定期
連絡船の開航を見るに至り、内・鮮・滿最
短距離の途を通じ急に躍進し、釜山・木
浦と相連じて一大貿易港と成るに至る。
鐵道全羅線は麗水港(昭和五年設置)・麗
水(昭和六年設置)・萬聖(昭和九年設置)
美坪(昭和五年設置)の四驛を設く。新市
街は東方約五軒の新港を中心に計畫され
その規模大にして、築港の岸壁は最干潮
時に於て四〇〇噸級の汽船自由に繫留
し、更に築港計畫の第二期・第三期と漸
次完成の際には多年の懸案たる慶全線的全
通と相俟つて東亞の關門たる大麗水港の
出現は近き將來にあり。貿易上の取引先
は大阪・神戸・下關・門司・名古屋・博
多等の西南日本を主とし、移出品は米・
生絲・鮮魚・海産物・乾海苔等の海産物大
部分を占む。移入品は機械・器具を始め
肥料・生金市・綿織物・セメント其他の
諸品あり。工業の主なるものは精米・織
綿・織工・造船・ゴム工業・水産加工等
にして工場數四〇餘、生産額一五〇〇萬
圓に達す。又家内工業として、綿布・麻
布・織工等あり。邑に郡廳・光州地方法
院出張所・税關・水産試験場・公立水産
學校等あり。市街及び其附近には名所舊

リースー 靈仙山

靈仙山(靈
賀縣)の別稱。

邑、西北方順川に二等道路を通じ、西部には肅川、順安間道路を通じて何れもバス

【靈泉寺】 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會

南隣にて、東は老虎潭會に接し、南は黃海に面す。低丘丘陵起伏し、西境に西大山、北境に大佛山・大嶺山等あり、これら丘陵の間と沿海には小低地ありて耕地

【靈泉寺】 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會

に薬用植物研究所あり、昭和十年四月に遺費三萬五千圓を投じて開設したるものにして、園内の面積は一三ヘクタールに

【靈泉寺】 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會

富る。浪花色八卦、雲符、此處はこぼん屋町より這入る門あつて、それより細き

【靈泉寺】 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會 嶺前屯會

レフン 禮文

【禮文郡】 北海道北見國宗谷支庁の西海上、禮文島一島を占む。支庁管内四郡の一。稚内町の西方海上に横ばり、東南は約一〇軒の海を隔て、利尻島に相對す。

レフン—レンセ

【禮文島】 北海道北見國宗谷支庁の西海上、禮文島一島を占む。支庁管内四郡の一。稚内町の西方海上に横ばり、東南は約一〇軒の海を隔て、利尻島に相對す。

レフン—レンセ

【禮文島】 北海道北見國宗谷支庁の西海上、禮文島一島を占む。支庁管内四郡の一。稚内町の西方海上に横ばり、東南は約一〇軒の海を隔て、利尻島に相對す。

レフン—レンセ

【禮文島】 北海道北見國宗谷支庁の西海上、禮文島一島を占む。支庁管内四郡の一。稚内町の西方海上に横ばり、東南は約一〇軒の海を隔て、利尻島に相對す。

レフン—レンセ

【禮文島】 北海道北見國宗谷支庁の西海上、禮文島一島を占む。支庁管内四郡の一。稚内町の西方海上に横ばり、東南は約一〇軒の海を隔て、利尻島に相對す。

レフン—レンセ

【禮文島】 北海道北見國宗谷支庁の西海上、禮文島一島を占む。支庁管内四郡の一。稚内町の西方海上に横ばり、東南は約一〇軒の海を隔て、利尻島に相對す。

せる外は著しきものなきも、城内丘陵起伏し、耕地は丘陵斜面を開拓し、農業よく發達す。産物の主なるものは米・小麦・大豆・棉花・烟草等にして、麻布・明油を家庭工業に於て製行はる。また南部には金銀等の産あり。社稷朝鐵道海線中部を横断し松本温泉驛(昭和十二年設置)あり、道路は西部に二等道路ありて北方松本、南方長岡に、東部には三等道路ありて西南方長岡、東北方水橋里と何れもバスを以て連絡す。中部の温泉水を主邑となし、ここに松本温泉あり。單純泉にして源泉温度四八度、放射能作〇・一二マツペを算し、泉量豊富、且つ道内多数の温泉中、四圍の風光特に佳なるを以て知らる。(衆山嶺山)嶺區は富田と長岡郡樂道間とに跨る。同嶺山の嶺頂は金銀銅鐵礦なるが、昭和十年には金四、五二二元、銀七七、七〇四元、金銀鐵五、五五一元(この地價額は約三九萬圓)を産出し、同年六月末の従業員は五九七人、日本鐵業会社の稼行に係り、現に重要嶺山に列す。

レンセン 連川面

朝鮮咸鏡北道富寧郡の東南部に位置し、清津府の東北方約一〇軒にあり。三面山地を以て圍繞し東南は海灣に面す。即ち東北境には嶺山、西境には散善山(七四六米)、西南境には近嶺嶺(五七一米)等えて餘勢域内に重疊連立し、東南沿海地方は比較的低下にて、海岸は弓狀の砂濱相連なる。産物は農産に粟・稗・大豆・小麦・燕麥等、

レンセン 連川

【連川郡】朝鮮京畿道三府二十郡の一。道の北部に位置し、東は抱川郡、南は楊州郡、坡州郡、西は長湍郡に接し、北は江原道鐵原郡と黃海道金川郡とに界す。面積八三・五平方軒。郡のほぼ中部を竹駕嶺地溝帯が南北に貫貫して、以東は北部に金剛山・寶蓋山の兩山地相連る。寶蓋山境に北に地蔵嶺(八七七米)、南に香

嶺(六一六米)の諸峰あり、山肢南に延びて種子山(六四三米)となり、これら山地の南には漢津川が絶壁を刻みつつ西流す。南部には紺嶺山(六七五米)を中心とする山地あり。之に反し地溝帯の西方は一〇〇—二〇〇米の臺地性丘陵をなすところ多く、その中央に高旺山(三五五米)の孤峰屹立して單調を破る。臨津江は黃海道金川郡より流れ來り、北部にて驛谷川を、中部にて車漣川を容れて水量・河幅を増したる漢津川を容れ、次で西流に轉す。平地には臨津江と車漣川との流域にやや廣きものひらく。産物は米・麥・大豆・雜穀・繭等の農産を主とし、特に大豆は本郡の重要産物にして品質頗る優良、連川大豆の名は内地市場に著る。其他煙草・麻・棉花・果實等、工業には朝鮮紙・明油等あり、全谷驛附近よりは土器を産出す。車漣川に沿うて鐵道京元線は南北に通じ連川・全谷の諸驛あり、議政府より鐵道と並走し來れる平壤街道は連川驛附近にて西北に轉じ臨津江を隔り、其他、前記二驛を核として道路網の發達を見、交通比較的便なり。行政上、十二箇面に分ち、郡廳を郡内面に置く。人口約七萬七千、一方軒密度は九四四人を算す。本郡は大正三年三月、もと連川・麻田・積城の三部と、朝寧郡の大部、及び楊州郡の一部とを併せて一部となし現在に至りしものなり。

レンホ 連浦面

朝鮮咸鏡南道咸州郡の西南端に位置し、郡邑咸興の南方一〇軒餘にあり。城川江及び廣浦江・朱伊川等の下流三角洲上に位置せるを以て土地極めて低平、東部日本海に臨む所は砂濱相連なり、砂丘の發達を見る。生業は農を主とし砂丘地帯には果樹の栽培盛なり。産物は米・大豆・小麦・麥・燕麥等にして、梨及び桃は咸興梨及び咸興桃の名に於て市場に著る。道路は而政の中心連浦を核として北方咸興、南方播春場、北東方西湖津に各三等道路を通じ咸興・西湖津間には乗合自動車の便あり。

レンホ 連芳面

朝鮮咸鏡南道松本郡のほぼ中央に位置し、郡邑松本の東に隣接す。西部には小丘陵起伏すれども、東部一帯は土地頗る低平にして、地味肥沃、農産豊かなり。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に従事する者多からず。産物の主なるものは米・大豆・小麦・粟・棉花・烟草・麻布・麻・燕麥等あり。富田内に温泉金礦あり、鐵礦は金銀銅鉛なるが、昭和十年には金銀鐵五八三萬圓(價額五萬餘圓)を産出し、いま朝鮮興業会社の稼行に係る。社稷朝鐵道海線は南境に走り、その水橋驛より松本(至る三等道路)は中部を貫貫してバスの便あるも、交通未だ便ならず。

レンタイジ 蓮臺寺

年設置あり。郡内面(縣四縣) ↓稻生潭村

□

蘆嶺

朝鮮全羅北道井邑郡笠嶺面と全羅南道長城郡北二面とに跨る嶺。蘆嶺山脈の一段部にして最高點二七六米。古來、重要な交通路にて、今は鐵道湖南本線は蘆嶺を以て之を通過し、その西側に京城・木浦間の一等道路通す。

〇一 蠟島

朝鮮平安北道宣川郡南部海上の小島。東經一二四度四三分、北緯三九度一六分に位置し、行政上、宣川郡南部に屬す。無人の孤島にして、ウミネコ・善知鳥・カラシラサギの類の群棲するを以て名高く、いま天然記念物に指定せらる。

〇一安 老安面

朝鮮全羅南道羅州郡の中央より稍北に位置し、羅州邑の北に隣接す。西境に玉山(三九五米)西南境に錦城山(四五二米)等聳立し、西南部一帯は山地を成せども、中部は梁山江の支流南流して謂ゆる羅州平野の一部を成し、地味肥え農業盛に行はる。産物は米・大豆を主とし其他、大豆・棉花・綿布並に諸種の竹細工品等あり。鐵道湖南本線は面の東部を南北に貫貫すれども城内に詳なく、北の松汀里、南方の羅州に

〇一オン 老隱面

朝鮮忠清北道忠州郡の西部に位置し、郡邑忠州の西方約二〇軒に在り。北境に寶蓮山(七六四米)・國望山(七七〇米)・僧代山(七六四米)・國望山(七七〇米)等相連なり、西南境には車衣山(六七八米)等聳立し、之等山地に發源せる諸流は中央に集りて東西に長き縱谷を造り、東流しての漢江に合流す。沿岸僅かに耕地耕作農業行はる。産物には米・大豆・燕麥、其他の雜穀及び棉花・荏苳あり。また城内數箇所に嶺山ありて金銀を産す。特に仰城面に於る奉昌嶺山は産額多く、昭和十年には金一七三、五五元、銀四、九三一元(この地價額は五萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員四〇九人なり。道路は縱谷に沿ひ東西に幹線を通じ、これより南北に支線を缺つとも、支線は何れも坂路多く且つ境界に時ありて交通便ならず。聚落は何れも縱谷に沿ひて分布す。

〇一ガン 龍岩面

朝鮮慶尙北道開豊郡の西南部。郡邑開豊の西南約二〇軒。小白山脈に屬する道藏山(八二八米)が西南部に噴々たる山骨を露出して北方の青華山(九七七米)に相連りて西境を劃し、餘勢域内に及びて連雲山(八三〇米)・鳥項山(九五二米)等を崛起し、城内山岳重疊し、平地極めて乏し。住民は農を主業とし傍ら採薪・製炭・養蠶等に從事せり。生活程度低く富裕なる者少なし。従つて近時滿洲方面に出稼する

〇一コサン 老虎山會

者多く、逐年人口減少の狀態にあり。産物は大豆・粟・大豆・燕麥等にして特用作物に棉花・烟草等あり。また薪炭・蜂蜜を産す。道路網は面邑龍岩里を中心として四通發達すれども、東方の咸昌、西方の清州邑に通ずる三等道路を除いては、何れも地方的のものに過ぎずして交通・運輸極めて不便なり。

〇一コタン 老姑壇

朝鮮全羅南道求禮郡北部の山。智異山脈の西縁に位置し、最高一五〇七米。附近は海拔一三〇〇—一四〇〇米の斜面地にして、外國人避暑地として知られ、朝鮮の輕井澤と稱せらる。求禮邑の東北約一〇軒にして、求禮より南盤馬山面にある名刹華嚴寺まで自動車を通す。

〇一コサン 老虎山會

關東州金州民政署管區の西北端。南は大魏家屯會に隣り、東は普寧店民政署管下の三十里堡會と境し、西と北とは關東嶺に面す。高さ一五〇米内外の三條の丘陵性山脈あり、その一は南境を西南に走り、その二は中部を東西に走りて西半は海中に突出して牛島をなし、その三は東北部を北西に延びその先端は海岸に迫り、前面に浮ぶ長島に對す。これら丘陵の中間と東境とは平坦地ありて耕地耕作農産を産す。道路東中部に通ずるも西半の牛島部は改修未了交通なほ便ならず。

〇一ジョー 琅城面

朝鮮忠清北道清州郡の東部に位置し、清州邑の東方約五軒の小白山脈に屬する局師峯(五六五米)東南境に屹立し、仙到山(五四五米)西部に聳えて、城内嶺山脈を成し、之等山地は東北方に向つて緩斜し其山麓に連川の溪谷を鑿鑿して東流し、沿岸僅かに小低地を見る。氣候は適順にして、夏季最高三四度、冬季最低零下二三度、京城に比し夏・冬共に凌ぎ易し。住民は農を業とし、副業として養蠶を爲す者多からず。産物の主なるものは大豆・棉花・麻・燕麥・繭等にして麥と米は不足し、移入の狀態にあり。其他、明油・燕麥等の産あり。鎮産には金銀多し。道路は槐山・清州を連ぬる三等道路南部を横断しバスを通すれども、其他は坂路凹凸

甚だしく交通・運輸不便なり。葉落は東北部に多く、倍亭里は其の中心を成し、面事務所あり。(上黨山城址)面の西北隅、四州・北一兩面の境に城壁あり。百濟上黨城の古址にして、周囲約四軒、城壁内に民家約三十戸あり。今の城壁は李朝遺宗の時に重修せられたるなり。

ロート

【ロート】 臺灣花蓮港廳花蓮郡の舊社。中央尖山東南方の山地にあり、標高約一〇〇〇米の地、高砂族部落にして、アマヤル族の中タウサイ等に属す。戸數四一、人口二六三(昭和十二年現在)。臨海道路よりタロコ峠を経て入山するを便利とす。

ローノ

【ローノ】 老濃溪(老濃) 臺灣南部の河川。下淡水溪本流の上流にして源を新高山南麓に發し、高雄州旗山郡の舊地を過ぎ六龜庄に入り、その中央を北より南に貫流し、流域各所に扇状地を形成しつつ大津附近にて屏東郡舊地を流下せる濁口溪と合し、西南流し旗山街傍境附近に至り楠梓仙溪を合し、下淡水溪となりて直ちに南下す。延長八〇餘軒、雨期に五れば増水氾濫して交通を阻害し、流域の田圃に被害を與ふること夥からずとも、獅子頭川を始め、六龜・新成各川の水源となり、流域の田圃を灌漑し、農耕上裨益するところ頗る大なり。

ローフ

【ローフ】 臺灣中部の東勢郡の舊社。大安溪の上流地方にあり、アマヤル族の北勢部に属する高砂部落。戸數五三、人口二二四(昭和十二年現在)。

ローヤビヨ

【ローヤビヨ】 老爺廟會(老爺廟) 關東州青森縣民政署管轄の西部。東は石河郡會、南は三十里會に隣り、西と北は關東郡の一支隊に面す。東境には高き二百米内外の丘陵性山地は南北に連りその北支は西に延びて海岸に近き西台山(二〇八米)を起し、更にその餘脈は再び海中に起りて西岸に近き青島、北岸に近き前・後塔連島、後長島等の小島となる。その他の地域は南隣三十里會に連る平野の一部にて、西流する三十里川によりて境せられ、耕地よく拓く。農産に玉蜀黍・大豆・高粱・落花生・蔬菜等あり。蒲葦造京線の三十里驛(三十里會東北部)に近く、交通不便ならず。

ローリン

【ローリン】 狼林 朝鮮北部の山脈。北朝鮮のほぼ中央を脊梁をなして南北に縱走する山脈にして、蓋馬嶺の北部に起り猛狹山(二二二四米)・大紅山(二二五二米)・小白山(二一八四米)・狼林山(二〇一八米)・東白山(二〇九六米)等何れも二〇〇米以上の高峯を崛起し、咸鏡南道と平安北道の境界をなして漸次南に低夷し、泗水山(一七四七米)となり、江原道北境に於て終る。本地域は牛島中最も高峻なる地域にて交通不便のため、未だ斧鉞の入りざる原生林多し。

標高二〇一四米。北は雄魚山(二〇一九米)を経て咸鏡南道・平安北道境界の小白山(二一八四米)に連り、西南方に向つては妙香山脈を走らしむ。山の南斜面に發する水は大同江の上源をなし、西南斜面よりは支流咸鏡江を出し、また西北斜面の水は清川江上支をなす。

ローカ

【ローカ】 路下 朝鮮平安北道宣川郡東面の洞名。總督府鐵道京義本線路下驛(明治四十一年設置)あり。

ローカ

【ローカ】 蘆花 朝鮮全羅南道莞島郡の西部。道の西南端に突出する海南半島尖端の南方約八軒の海上に基布する所安群島中の蘆花島・甫吉島の二大島及び附近の長蛇島・老鹿島・否島・後長島・西否島・兔島等、その西北海上の竹富島・長久島・魚龍島等、大小三十餘島を以て構成せらる。蘆花島は主島にして一に露見島と稱し、南は蛇島水道によりて甫吉島と分たれ、北は長久水道によりて横看島(所安島に屬す)と隔つ。西南部に於て標高約一五〇米を測るも概低平にて、海岸線は屈曲甚だしく、殊に東方の所安港に對する濱は二大深大淵を成せども、その全面泥堆干出し、魚多し。南部の郡廳里を主邑となす。甫吉島は所安島の西方に位し東西の二部に分る。西部は圓形をなし東西・南北とも各約六軒あり、中央は長長の平地にて二一四米の山これを圍繞し、南には赤紫峰等あり。西部の東端に長さ約三哩、幅は僅かに〇・二五哩の蘆花島あり。

ローカイ

【ローカイ】 蘆海面 朝鮮京畿道楊州郡の西南部に位置し、京城府を距る東北方約一〇軒、議政府の南方約五軒にあり。北境には水落山(六三八米)・道華山(七一七米)等聳え、東境には佛岩山(四二〇米)屹立し、西北部及び北東部は一帶に山地をなせども、中部は漢江の支流漢川の構造谷ありて南北に貫く廣き沃野開け、京城府北部に於ける重要農業地帯を成す。農産物の主なるものは米・小麥・大豆・粟等にして、また蕎麥及び生牛・木炭等あり、木炭は特に京城府を商團として逐年その生産増加の一途にあり。鐵道京元線は中部低地を南北に縱走し、倉洞驛(明治四十四年設置)あり、京元一等街道も之と併走し京城より自來車の便あり交通の便なり。

ローカイ

【ローカイ】 蘆花 蘆花島は主島にして一に露見島と稱し、南は蛇島水道によりて甫吉島と分たれ、北は長久水道によりて横看島(所安島に屬す)と隔つ。西南部に於て標高約一五〇米を測るも概低平にて、海岸線は屈曲甚だしく、殊に東方の所安港に對する濱は二大深大淵を成せども、その全面泥堆干出し、魚多し。南部の郡廳里を主邑となす。甫吉島は所安島の西方に位し東西の二部に分る。西部は圓形をなし東西・南北とも各約六軒あり、中央は長長の平地にて二一四米の山これを圍繞し、南には赤紫峰等あり。西部の東端に長さ約三哩、幅は僅かに〇・二五哩の蘆花島あり。

道・運糧頗る便なり。葉落は殆んど中央低地に分布し、倉洞里はその中心葉落にして交通の要衝に位置し面事務所・警察官駐在所等あり。西北境に聳立する北漢山は山容秀拔にして、その麓に牛耳湖あり、京城近郊に於ける櫻の名所として著はれ、花季には遊客雜沓す。

ロクエ

【ロクエ】 六榮村 無本縣肥後國玉名郡の西南部。小代山の西南麓に位し、西南隅は長洲町の東南隅と接し、約一軒にて有明海岸に出づ。東北部は約三〇米程度の高度を有する山麓部なれども西部と南部は地形低平にて、西境に栗切川が南流す。東部に一湖沼あり。農業を主産業とし米・麥を主とし特産物には煙草・西瓜等あり。當村の地は三池炭田の一部にして、現に當村一帯の地は三池炭田炭礦區の部分をなす(三池炭礦参照)。此外多くの石炭礦區は存すれども現在のところ何れも採掘せず。南部を省轄鹿兒島本線が横斷し、西方の長洲驛(清里村内)に近し。

ロクカ

【ロクカ】 六家庄 臺灣新竹州新竹郡七庄の一。鳳山溪・頭前溪のなす三角洲の中流地帯を占め、新竹市の東部に當る。東は竹東郡竹林庄に接し、西は壽港庄に北は新埔庄に、南は新竹市に、各々隣接す。管内は概平坦地にして、地味肥沃且つ上記兩溪による灌漑の便また良好なるを以て、管内區域の大部分は良質の水田にして、山林・原野等は皆無に近し。従つて本庄下住民の大半は、農を生業とす。

し、米作を主とする純農村にして、當局また熱心に是が指導をなし、品質の改良増産に就て施設を圖りたるを以て近年六家庄の標價大に高まりつゝあり、其の年産約五二萬圓に達す。其他、甘藷・甘蔗・蔬菜・落花生を産し、また柑橘類等の園藝作物若干を出す。本庄下に於ける畜産は主として農家に於て副業的に營るゝものにして、豚・牛・山羊・家禽等を飼育し一年十數萬圓の生産あり。東部原野よりは若干の新炭材を出す。金融機關には一の信用組合を有し庄下農村金融の圓滑を計る。教育施設に於ては公學校一を有し、別に社會教化機關として家長會・主婦會・國語講習會・國語講習所・公民講習所・青年團等の設けあり、時局下本島人の皇民化運動盛にして、國語常用家庭の増加見ゆるべきものあり。交通に其便良好と稱すべからざるも、新竹市を隣に控ふるを以て道路完備し自動車の運行宜しきを以て、管内貨客の搬出入に不便を感ずる事少し。本庄の地は往時山番(アマヤル)の狩獵場にして(大字鹿場は往時山番の鹿を追ひて馳驅せし地なり)、漢民族の當地方に入墾せしば、乾隆三十年代にあり、廣東人によりて開拓せられしも、現大字隘口の地は、同時代住民が隘を設けて、著害に備へたる地と云ふ。清領後、當地方は其の行政區劃なる竹北一堡に屬し、我が領受後其の行政區劃として用ひられ、大正九年十月一日地方制度改正に際し廢止せられ、同時に新竹

ロクカ

【ロクカ】 六合村 千葉縣下總國印旛郡の中部。安食町の南隣にて印旛沼の北岸にあり。南は沼を隔てて佐倉町・酒々井町と相對す。東・南・西の三方を印旛沼に圍まれ半島狀をなし、大部分丘陵地にて森林あり。沼の沿岸には平地ありて、畑地・水田をなし、米・麥を産し蚕・養蠶も盛なり。縣道は安食町及び西北方の木下町に通じ、木下町へはバスの便あり。對岸佐倉町との間に渡船の便あり。

ロクカ

【ロクカ】 六合村 千葉縣下總國印旛郡の中部。安食町の南隣にて印旛沼の北岸にあり。南は沼を隔てて佐倉町・酒々井町と相對す。東・南・西の三方を印旛沼に圍まれ半島狀をなし、大部分丘陵地にて森林あり。沼の沿岸には平地ありて、畑地・水田をなし、米・麥を産し蚕・養蠶も盛なり。縣道は安食町及び西北方の木下町に通じ、木下町へはバスの便あり。對岸佐倉町との間に渡船の便あり。

ロクカ

【ロクカ】 六合村 千葉縣下總國印旛郡の中部。安食町の南隣にて印旛沼の北岸にあり。南は沼を隔てて佐倉町・酒々井町と相對す。東・南・西の三方を印旛沼に圍まれ半島狀をなし、大部分丘陵地にて森林あり。沼の沿岸には平地ありて、畑地・水田をなし、米・麥を産し蚕・養蠶も盛なり。縣道は安食町及び西北方の木下町に通じ、木下町へはバスの便あり。對岸佐倉町との間に渡船の便あり。

北一堡に屬せし鹿場庄以下十一庄(現大字)の地を以て六家庄を建て、新竹州新竹郡の管轄に歸せしめ現在に至る。

ロクカ

【ロクカ】 六箇村 新潟縣越後國中魚沼郡の東部。十日町の東南方約五軒の山村。東境に走る山脈の標高約(六七〇米)の西北斜面を占め、信濃川の一分支流を西北へ源流す。村は略々三角形をなし、東南邊は山嶺を以て南魚沼郡鹽澤町に界す。農産・林業を生業とし、米・蕎麥・粟を主産とす。省線十日町線の十日町驛(約八軒を隔て、標高約五五米)にて上越線鹽澤驛へ約五軒あり。建武年間(新田義貞の臣が築城せりといふ)城址あり。のち羽根川羽根長尾義景これを繼ぐ。中世以來は羽根川郷に屬す。村名は六部落を合せし故に起るといふ。

ロクカ

【ロクカ】 六合村 千葉縣下總國印旛郡の中部。安食町の南隣にて印旛沼の北岸にあり。南は沼を隔てて佐倉町・酒々井町と相對す。東・南・西の三方を印旛沼に圍まれ半島狀をなし、大部分丘陵地にて森林あり。沼の沿岸には平地ありて、畑地・水田をなし、米・麥を産し蚕・養蠶も盛なり。縣道は安食町及び西北方の木下町に通じ、木下町へはバスの便あり。對岸佐倉町との間に渡船の便あり。

ロクカ

【ロクカ】 六合村 千葉縣下總國印旛郡の中部。安食町の南隣にて印旛沼の北岸にあり。南は沼を隔てて佐倉町・酒々井町と相對す。東・南・西の三方を印旛沼に圍まれ半島狀をなし、大部分丘陵地にて森林あり。沼の沿岸には平地ありて、畑地・水田をなし、米・麥を産し蚕・養蠶も盛なり。縣道は安食町及び西北方の木下町に通じ、木下町へはバスの便あり。對岸佐倉町との間に渡船の便あり。

四十五年五月に、外一箇村と共に廢されし小山町を置く。

ロクカ

【ロクカ】 六郷村 青森縣陸奥國北津輕郡の西南部。板柳町の北に接す。津輕平野に屬し全村概平坦にして水田拓け、五所川原堀は村の東部を北方に通ず。灌漑の便よし。村の生業は農業を主とし、米を産しまた苹果の産あり。省線五能線の鴨泊驛(大正七年設置)を設け、明治二十二年町村制施行の際、六部落を以て一村を建てし故に六郷村と名づく。

ロクカ

【ロクカ】 六郷村 青森縣陸奥國北津輕郡の西南部。板柳町の北に接す。津輕平野に屬し全村概平坦にして水田拓け、五所川原堀は村の東部を北方に通ず。灌漑の便よし。村の生業は農業を主とし、米を産しまた苹果の産あり。省線五能線の鴨泊驛(大正七年設置)を設け、明治二十二年町村制施行の際、六部落を以て一村を建てし故に六郷村と名づく。

ロクカ

【ロクカ】 六郷村 青森縣陸奥國北津輕郡の西南部。板柳町の北に接す。津輕平野に屬し全村概平坦にして水田拓け、五所川原堀は村の東部を北方に通ず。灌漑の便よし。村の生業は農業を主とし、米を産しまた苹果の産あり。省線五能線の鴨泊驛(大正七年設置)を設け、明治二十二年町村制施行の際、六部落を以て一村を建てし故に六郷村と名づく。

は津野平野に属して平坦なり。村の生業は農業を主とし、苹果・米の産あり。道路は村の西北部を南北に通じ、省線の便は北方の奥羽本線浪岡驛、西方の同線北常盤驛、西南方の黒石線黒石驛へ各約四軒、交通便利なり。

【六郷村】宮城県陸前国名取郡の東北部。仙臺市の東南方約七軒。東は太平洋に面し、北は宮城郡、東南は開上町に接す。仙臺平野に属し、全村平坦にして、名取川は南境を東南に流れ、太平洋に注ぐ。海岸には貞山嶺が南北に通じ、砂浜をなせり。村の生業は農業を主とし米・麥の産多し。海岸には漁業行はる。道路は村の南部を西北に通じ、省線東北本線仙臺驛へは約八軒。また同線の長町驛へは約六軒あり。

【六郷町】秋田縣羽後国仙北郡の東南部。大曲町の東南に隣りし、東は岩手縣に、東南は平鹿郡に接す。土地東西に長く、東南及び東境には黒森山(七六三米)をはじめ山地連りて西方に傾斜し、西中部は横手盆地に属して平坦なり。村の生業は農・商・工等にして、米・大豆・清酒・清涼飲料水等を産す。羽州街道は村の西部を斜貫し、南方の省線奥羽本線横手驛及び西南方の同線飯詰驛へは各バスの便あり。明治二十四年町制を布く。出羽本庄城主六郷氏は此地に居して名を負へるもの。城内に六郷城址あり。元館といふ。六郷氏居せし、慶長六年兵車頭政来、郡川氏に報復する所ありて常陸國府

中へ移る。明治天皇には明治十四年、山形・秋田と北海道行幸の際この地に御小休遊ばされ、その地はいま明治天皇六郷御小休所附御膳水として指定史蹟たり。〔諏訪神社〕 縣社。祭神、健甕名方命・八坂刀女命外八神。六郷二十数箇村の總鎮守。例祭、七月二十七日。〔臺蓮寺〕 六郷にあり。淨土宗。池中山と號す。開山は圓覺智真。もと藤田派に属し、同派衰滅後は増上寺となす。明治二十九年の大震にて潰滅せしを其後再建す。本尊阿彌陀佛(蓮座の作)。〔善證寺〕 眞宗本願寺派。寛喜年間と號す。親覺門弟是信の遺跡。寛喜年間の草創。當初、本淨寺と稱せしが、のち善證寺と改むといふ。盛岡市三ツ割の本誓寺と縁起相等し。

【六郷村】山形縣羽前南陸郡の東北部。米澤市の北方約五軒。北は東置賜郡に接す。面積五・九方軒。米澤盆地の南部に位置し全村概ね平坦にして、鬼面川は村の東部を北流す。村の生業は農業を主とし、米・蕎麥・果實を産す。道路は村の略中部を南北に通す。西北方の省線米坂線中部驛へは約二軒あり。

【六郷村】茨城県下郷郡北相馬郡の東南部。相馬町の南隣に、西南の取手町に近く、利根川・小貝川の中間區域の一部を占む。全村低地に於て水田多し、一部畑地をなし、農業行はれて米を主産し他に大豆・小麥を産す。陸前濱街道は取手町より來り、村の中央を東北に走りて相馬町に通じ、兩町へ自動車便あり。省

線常磐線また之に沿ふも、村内に驛なく相馬町の藤代驛に近し。

【六郷村】群馬縣上野國邑樂郡の中部。館林町の南隣にあり。南方約三軒の所を利根川東流し、全村平地にて西南隅に近藤沼あり。大部分畑地にて林を交へ、沼の東方には水田あり。農業行はれて麥・米を産す。三條の縣道は館林町に通じ、また社線東武鐵道伊勢崎線は村の中央を北走し、村内に茂林寺前驛(昭和二年設置)を置く。大字青柳の地は戦國時代赤井山城守の居館の地とす。〔富士嶽神社〕 大字小桑原に鎮座。郷社。祭神、木花開耶尼賣命。館林城主榊原・松平氏等歴代崇敬す。例祭、六月一日。〔茂林寺〕 大字堀江にあり。曹洞宗。青龍山と號す。應仁二年赤井正光の開創、開山は大林正通。後柏原天皇より勸願所の輪旨を拜受す。現在茶室は古八箇寺を統ぶ。當寺所有の文庫茶室は古來有名なり。

【六郷村】群馬縣上野國群馬郡の南部。高崎市の西北隣に、西南は碓氷郡と隣す。面積六・一八平方軒の小村なり。西南境を烏川東南に流れ殆ど平地にて、水田・畑地・桑園をなす。農業・養蠶行はれて、米・蕎麥を主産し、麥の産もあり。二條の縣道が高崎市に通じ、省線信越線の北高崎驛に近し。

【六郷川】 ↓多摩川

【六郷】 東京都浦田區の町名。大東京市實現以前は荏原郡に屬せし町にて、八幡塚・小向・高畑・鎌倉・出村・町屋・古

通(鴨方驛(明治二十四年設置)を有す。また縣道は之に並行し、玉島町及び小田郡笠岡町へ自動車便あり。昭和九年町制を布く。古くは和名抄、淺口郡小坂郷の内とす。〔前止戸山神社〕 大字六條院中に鎮座。郷社。祭神、素戔嗚命・吉備津彦命・菅原神等六柱。相殿に稻田命等二柱を祀り。寶龜二年の勸請と傳ふ。本殿・幣殿・拜殿・神庫・神樂所等を具ふ。〔明王院〕 大字六條院中にあり。天台宗。延暦年中、最澄の創建。壽永年中、安徳天皇より御願寺の勅宣を下賜せらる。寛永十九年回禪に罹り、寛文五年上野寛永寺となる。同六年佛舎殿に遺ひし元祿二年再興、幾何もなく炎上せしが同十六年再建す。

【六郷】 鹿草庄 臺灣臺南州東石郡の東南部。八獎溪中流北岸に連る一帯の地を占む。東は嘉義郡水上庄、西は朴子街及び義竹庄、北は太保庄に各々境を接し、南は八獎溪を隔て、新營郡後壁庄に對す。土地概ね平坦にして丘陵なく、田畑廣く展開し純然たる農村を形成す。然れども灌溉の便不十分なる爲め農耕地は看天田及び多し。米・甘蔗・甘藷を主要農産物とし、外に蔬菜・落花生・果物類あるも産額多からず。畜産は農産

地はもと加美郡の一部なり。

【六郷】 愛知縣西春日井郡にありし村。大正十年に名古屋市中に編入す。

【六郷】 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され福地村を置く。

【六郷】 香川縣仲多度郡にありし村。大正六年に丸龜市中に編入す。

【六郷村】 熊本縣肥後國鹿本郡の東北部。山鹿町の東・北約四軒にあり、來民町へは西南約一軒。東は菊池郡に界す。東北隅には東北方に聳ゆる八方ヶ嶽(一〇五二米)より續く約八〇〇米程度の山地が聳え、それより西南方へ續く連嶺は北境を隔りて中部の菊池川上支なる内田川の谷に終り、東部は其の南斜面地をなす。西境には西北より東南に連る丘陵ありて村境をなし、山麓は西南隅にて平野に接す、中央には内田川が南流して沿岸にやや低地あり、殊に南部の平地は廣くして附近の平野に連る。米・麥・蕎麥・木材・薪炭等の産物あり。社線鹿本鐵道の來民驛は、西南方約三軒にあり。村内に猿返城址あり。隈部但馬守親水の築くところといふ。

【六郷】 石川縣能登國珠洲郡の一角。魚網岬ともいふ。燈臺あり。明治十六年設置。明治白光、光達距離一九哩。

【六十里越】 會津若松方面より越後小出町方面に至る交通路。最高點は八六三米を算し、福島縣

南會津郡伊北村と新潟縣北魚沼郡入道村との境上に位す。東降すれば只見川河畔なる伊北村只見に至り、ここにて沼田街道に合し、西降すれば入道村宇穴澤より須原村を経て小出町に達す。この北麓鬼面山(一四六五米)淺草岳(一五八五米)の北方に八十里越の山路(最高點八四五米)同じく東西に通す。

【六所】 鎌倉山とも書く。敦賀縣北東部に近く、福井市の西南方約二〇軒に當り、福井縣丹生郡萩野村の西嶺。標高六九八米。山體は火山岩より成り、山容笠を伏せたる如し。

【六所山】 岡崎市の北東方約一五軒、愛知縣東加茂郡松平村の南嶺。標高六〇六米、山體花崗岩より成る。北東方に砲塔山(六八四米)嶺き、南麓を華母街道東西に通す。足助川は西方を南西流して矢作川に合す。

【六郷】 群馬縣上野國邑樂郡の中部。館林町の南隣にあり。南方約三軒の所を利根川東流し、全村平地にて西南隅に近藤沼あり。大部分畑地にて林を交へ、沼の東方には水田あり。農業行はれて麥・米を産す。三條の縣道は館林町に通じ、また社線東武鐵道伊勢崎線は村の中央を北走し、村内に茂林寺前驛(昭和二年設置)を置く。大字青柳の地は戦國時代赤井山城守の居館の地とす。〔富士嶽神社〕 大字小桑原に鎮座。郷社。祭神、木花開耶尼賣命。館林城主榊原・松平氏等歴代崇敬す。例祭、六月一日。〔茂林寺〕 大字堀江にあり。曹洞宗。青龍山と號す。應仁二年赤井正光の開創、開山は大林正通。後柏原天皇より勸願所の輪旨を拜受す。現在茶室は古來有名なり。

【六郷村】 群馬縣上野國群馬郡の南部。高崎市の西北隣に、西南は碓氷郡と隣す。面積六・一八平方軒の小村なり。西南境を烏川東南に流れ殆ど平地にて、水田・畑地・桑園をなす。農業・養蠶行はれて、米・蕎麥を主産し、麥の産もあり。二條の縣道が高崎市に通じ、省線信越線の北高崎驛に近し。

【六郷川】 ↓多摩川

【六郷】 東京都浦田區の町名。大東京市實現以前は荏原郡に屬せし町にて、八幡塚・小向・高畑・鎌倉・出村・町屋・古

通(鴨方驛(明治二十四年設置)を有す。また縣道は之に並行し、玉島町及び小田郡笠岡町へ自動車便あり。昭和九年町制を布く。古くは和名抄、淺口郡小坂郷の内とす。〔前止戸山神社〕 大字六條院中に鎮座。郷社。祭神、素戔嗚命・吉備津彦命・菅原神等六柱。相殿に稻田命等二柱を祀り。寶龜二年の勸請と傳ふ。本殿・幣殿・拜殿・神庫・神樂所等を具ふ。〔明王院〕 大字六條院中にあり。天台宗。延暦年中、最澄の創建。壽永年中、安徳天皇より御願寺の勅宣を下賜せらる。寛永十九年回禪に罹り、寛文五年上野寛永寺となる。同六年佛舎殿に遺ひし元祿二年再興、幾何もなく炎上せしが同十六年再建す。

【六郷】 鹿草庄 臺灣臺南州東石郡の東南部。八獎溪中流北岸に連る一帯の地を占む。東は嘉義郡水上庄、西は朴子街及び義竹庄、北は太保庄に各々境を接し、南は八獎溪を隔て、新營郡後壁庄に對す。土地概ね平坦にして丘陵なく、田畑廣く展開し純然たる農村を形成す。然れども灌溉の便不十分なる爲め農耕地は看天田及び多し。米・甘蔗・甘藷を主要農産物とし、外に蔬菜・落花生・果物類あるも産額多からず。畜産は農産

【六郷】 石川縣能登國珠洲郡の一角。魚網岬ともいふ。燈臺あり。明治十六年設置。明治白光、光達距離一九哩。

【六十里越】 會津若松方面より越後小出町方面に至る交通路。最高點は八六三米を算し、福島縣

南會津郡伊北村と新潟縣北魚沼郡入道村との境上に位す。東降すれば只見川河畔なる伊北村只見に至り、ここにて沼田街道に合し、西降すれば入道村宇穴澤より須原村を経て小出町に達す。この北麓鬼面山(一四六五米)淺草岳(一五八五米)の北方に八十里越の山路(最高點八四五米)同じく東西に通す。

【六所】 鎌倉山とも書く。敦賀縣北東部に近く、福井市の西南方約二〇軒に當り、福井縣丹生郡萩野村の西嶺。標高六九八米。山體は火山岩より成り、山容笠を伏せたる如し。

【六所山】 岡崎市の北東方約一五軒、愛知縣東加茂郡松平村の南嶺。標高六〇六米、山體花崗岩より成る。北東方に砲塔山(六八四米)嶺き、南麓を華母街道東西に通す。足助川は西方を南西流して矢作川に合す。

【六郷】 石川縣能登國珠洲郡の一角。魚網岬ともいふ。燈臺あり。明治十六年設置。明治白光、光達距離一九哩。

【六十里越】 會津若松方面より越後小出町方面に至る交通路。最高點は八六三米を算し、福島縣

南會津郡伊北村と新潟縣北魚沼郡入道村との境上に位す。東降すれば只見川河畔なる伊北村只見に至り、ここにて沼田街道に合し、西降すれば入道村宇穴澤より須原村を経て小出町に達す。この北麓鬼面山(一四六五米)淺草岳(一五八五米)の北方に八十里越の山路(最高點八四五米)同じく東西に通す。

【六所】 鎌倉山とも書く。敦賀縣北東部に近く、福井市の西南方約二〇軒に當り、福井縣丹生郡萩野村の西嶺。標高六九八米。山體は火山岩より成り、山容笠を伏せたる如し。

【六所山】 岡崎市の北東方約一五軒、愛知縣東加茂郡松平村の南嶺。標高六〇六米、山體花崗岩より成る。北東方に砲塔山(六八四米)嶺き、南麓を華母街道東西に通す。足助川は西方を南西流して矢作川に合す。

【六郷】 石川縣能登國珠洲郡の一角。魚網岬ともいふ。燈臺あり。明治十六年設置。明治白光、光達距離一九哩。

【六十里越】 會津若松方面より越後小出町方面に至る交通路。最高點は八六三米を算し、福島縣

南會津郡伊北村と新潟縣北魚沼郡入道村との境上に位す。東降すれば只見川河畔なる伊北村只見に至り、ここにて沼田街道に合し、西降すれば入道村宇穴澤より須原村を経て小出町に達す。この北麓鬼面山(一四六五米)淺草岳(一五八五米)の北方に八十里越の山路(最高點八四五米)同じく東西に通す。

【六所】 鎌倉山とも書く。敦賀縣北東部に近く、福井市の西南方約二〇軒に當り、福井縣丹生郡萩野村の西嶺。標高六九八米。山體は火山岩より成り、山容笠を伏せたる如し。

【六所山】 岡崎市の北東方約一五軒、愛知縣東加茂郡松平村の南嶺。標高六〇六米、山體花崗岩より成る。北東方に砲塔山(六八四米)嶺き、南麓を華母街道東西に通す。足助川は西方を南西流して矢作川に合す。

【六郷】 石川縣能登國珠洲郡の一角。魚網岬ともいふ。燈臺あり。明治十六年設置。明治白光、光達距離一九哩。

【六十里越】 會津若松方面より越後小出町方面に至る交通路。最高點は八六三米を算し、福島縣

南會津郡伊北村と新潟縣北魚沼郡入道村との境上に位す。東降すれば只見川河畔なる伊北村只見に至り、ここにて沼田街道に合し、西降すれば入道村宇穴澤より須原村を経て小出町に達す。この北麓鬼面山(一四六五米)淺草岳(一五八五米)の北方に八十里越の山路(最高點八四五米)同じく東西に通す。

【六所】 鎌倉山とも書く。敦賀縣北東部に近く、福井市の西南方約二〇軒に當り、福井縣丹生郡萩野村の西嶺。標高六九八米。山體は火山岩より成り、山容笠を伏せたる如し。

【六所山】 岡崎市の北東方約一五軒、愛知縣東加茂郡松平村の南嶺。標高六〇六米、山體花崗岩より成る。北東方に砲塔山(六八四米)嶺き、南麓を華母街道東西に通す。足助川は西方を南西流して矢作川に合す。

【六郷】 石川縣能登國珠洲郡の一角。魚網岬ともいふ。燈臺あり。明治十六年設置。明治白光、光達距離一九哩。

【六十里越】 會津若松方面より越後小出町方面に至る交通路。最高點は八六三米を算し、福島縣

南會津郡伊北村と新潟縣北魚沼郡入道村との境上に位す。東降すれば只見川河畔なる伊北村只見に至り、ここにて沼田街道に合し、西降すれば入道村宇穴澤より須原村を経て小出町に達す。この北麓鬼面山(一四六五米)淺草岳(一五八五米)の北方に八十里越の山路(最高點八四五米)同じく東西に通す。

【六所】 鎌倉山とも書く。敦賀縣北東部に近く、福井市の西南方約二〇軒に當り、福井縣丹生郡萩野村の西嶺。標高六九八米。山體は火山岩より成り、山容笠を伏せたる如し。

【六所山】 岡崎市の北東方約一五軒、愛知縣東加茂郡松平村の南嶺。標高六〇六米、山體花崗岩より成る。北東方に砲塔山(六八四米)嶺き、南麓を華母街道東西に通す。足助川は西方を南西流して矢作川に合す。

【六郷】 石川縣能登國珠洲郡の一角。魚網岬ともいふ。燈臺あり。明治十六年設置。明治白光、光達距離一九哩。

に次いで重要な地位を占め、労役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主とする家畜・家畜多く一般家庭に副業として著しく飼育せらる。公學校二、同分教場一を有し、庄役場を鹿草に置く。朴子・木上間道路は庄の中央を略東西に貫通し、乗合自動車の便を有す。その他、鹿草を中心にして交通運輸に貢献する所からず。管内はもと鹿仔草を中心とし、その東北西三面に接する自體公潭堡・下茄堡北堡・大坵田西堡・大塘部下堡の各一部を合せしものにして、鹿仔草堡は清の雍正十二年に建てられ、諸羅十七莊の一たりし鹿仔草莊(今の鹿草)を中心とするより名づけられ、往時は鹿仔草と稱する樹木繁茂せしといふ。初め康熙二十四年十月、沈和安なる者、官許を得て四里に着手し、季變なる者を管事として招佃拓地の事に當らしめ、鹿仔草を中心として其の歩を進めしが、同四十七年に至り、其の全部の開墾を圓の泉州府同安の人陳允捷・林興孫・陳國幹・陳立勳に譲與し、爾後この四縣首の分割招墾により、雍正の末年には、殆んど全堡の開墾成れり。其他の部分も乾隆年代までに概れ開墾せられ、龜佛山も亦清領當初に於ける諸羅十七莊の一なり。頂潭・下潭は續修臺灣府志に白蠟公潭街といへる地に相當す。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り地方制度の根本的改革と共に清領時代より存

續し來りし堡は總て廢せられ、前記諸堡に屬せし十八庄を十八大字に改め(鹿仔草を鹿草と改稱)之を一括して鹿草庄となり東石郡に編入せらる。
ロクタイ 六堆部落 現臺灣高雄州潮州郡を中心とする地方、即ち下淡水溪中流東岸には、六堆部落と稱する廣東人より成る大部部落あり。初め清の康熙廿年代に廣東人臺灣に渡來し、現臺南附近に拓殖せんとせしに、當時既に當地方には福建人ありて其の餘地なく、僅に東門外一帶の地域に菜園を開きて生計を求めつつありしが、下淡水溪東岸に未墾の大平原あるを聞き、大舉此地に移住し、康熙の末年に至りては遂に廣大なる一部部落を形成す。爾來二百餘年、人口増加し現在に至るも其の餘風を残す。康熙六十年、朱一貴亂を作すや、本部諸民は糾合して隊伍を整へ大に官軍の爲に功を樹てたり。また爾後、英祖生の亂、林爽文の亂等に六堆(先鋒堆・前堆・後堆・中堆・左堆・右堆)なる一種の自警團を組織して、自らを禦ぎ、また軍に隨ひて功あり、清帝の賞賚を賜ること數度に及ぶ。現に當地方には廣東人多し。
ロクチョーリ 六張犁 臺北市の字名。六張犁炭礦あるを以て有名。その礦區は六張犁の外に臺北州の七星郡松山庄三張犁・同内湖庄後山・文山郡深坑庄城內坑などに跨る。主として日東礦業會社の經營に係り、昭和十年には石炭八、〇三一噸の價額四萬四千餘圓を

産出せり。
ロクテン 疎轉面 朝鮮慶尙北道安東郡の北部に位置し、郡邑安東の北方約一五軒に在り。西境に烽煙山(五七〇米)の聳ゆる外は著しきものなきも周縁山地に依り圍繞されし南北に狭長なる山間盆地を形成す。耕地は主として盆地東に發達し、水利乏しきを以て主として農業行はる。住民は農業を主とし傍ら養蠶・機械に従ふ。産物は大豆・大麦を主とし、其他、雜穀・麻布・棉花・煙草・莞草・繭等あり。山間僻遠の地なるを以て道路の改修未だ行はれず境界に各々觀許坂路ありて交通運輸不便なり。聚落は盆地東と山麓との交界線に沿ひて分布す。
ロクノへ 六戸村 青森縣陸奥國上北郡の東南部。三本木町の東約一〇軒。南は三戸郡に接す。面積八七・一方軒。村の北部は三本木臺地に屬して山林原野をなす所多く、南部また丘陵をなし、中南部は平坦にして奥入瀬川に東方に貫流し水田拓く。村の生業は農業を主に米・馬鈴薯・苹果等を産す。また所々に牧場ありて牧馬行はる。道路は村の中北部及び中南部を各東西に通じ、西方の三本木町へハスの便あり。省線東北本線古間本線(明治二十七年設置)あり、社線十和田鐵道これより西方に分岐す。
ロクハラ 六原 省線東北本線の一驛(昭和十二年設置)。岩手縣膽澤郡金ヶ崎町に在り。
ロクハラ 六波羅 ↓京都市(三

〇五頁)
ロクマサン 鹿麻産 臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛(明治四十三年設置。臺南州嘉義郡竹崎庄鹿麻産に在り。
ロクマントイ 六萬臺 江戸時代大阪の岡場所の一。いま天王寺區六萬臺町、四天王寺の北。浪花色八卦・六萬臺、時曼、此所養蠶といふものを立にして、内に呼び物のあるも見へ、又外からもつれてくる尼寺のてうしなれど、折に少まさりたる有り、皆此あたりはしろとめかさす、心いつばい女郎めかし。浪花今八計。六萬臺前に格別相かわらず、平野邊まり南の百姓綿の出来、はつほ夢のめすみだめ、愛にて消行く事也。
ロクワ 六輪 愛知縣中島郡に在りし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され平和村を置く。
ロケツ 蘆月面 朝鮮黃海道信川郡の東北端に位置し、郡邑信川の北方約一〇軒に在り。東北境に月尾山(一六〇米)の聳立せる他は土地極めて低平にて謂ゆる安信平野の一部を成し、載奉江の支流西江これを灌漑し、水田よく發達す。住民の多數は農業者にして比較的自作農多く概して富裕なり。産物は米・大豆を主とし其他、栗・馬鈴薯等あり。また果樹の栽培は近年盛んとなり葡萄・杏等の産あり。道路は信川・安岳街道に中央を縱貫し乗合自動車の便あり。
ロコ 呂湖 朝鮮咸鏡南道咸鏡北道西海の里名。總督府鐵道咸鏡本線の呂湖驛

ロコク 蘆谷面

朝鮮江原道三陟郡の略中央に位置し、郡邑三陟の南方約一〇軒に在り。大白山脈に屬する、鷹岫山(二二六七米)西南境に聳立する他、幾多の峻嶺西境を劃し、城內山岳重疊し平地極めて乏し。産物は米・大豆・栗・棗・蕎麥・蕎麥・蜂蜜等あるに過ぎず。道路は内陸山中に位置せるを以て改修未だ行はれず、加ふるに何れも等外路線にして交通極めて不便なり。聚落は散村型のもの多く戸口稀薄なり。ただ古自里面の北部に位置し交通比較的便にして面事務所を置く。
ロサオ 社 臺灣花蓮港廳花蓮郡の舊社。タツキリ溪の流域に在り、標高一三〇〇米の地、高砂族部落にしてアマヤル族タロコ等に屬す。戸數五四、人口二九一(昭和十二年末現在)。蘇花道路よりタロコ峠を経て至るを便とす。
ロシユー 登洲庄 臺灣臺北州新莊郡の最東部。臺北市の西部に在り。西は五股庄・新莊街に面し、北及び西部は淡水河を隔て、臺北市に對し、南は淡水河の支流たる大嵙崁溪を隔て、板橋街に接す。地は即ち臺北西部平野に位置し管内一帶は肥沃なる平野にして、水田拓く。本庄は純然たる農村にして、住民の生業は農業なり。その主要物産は米・甘藷・大豆・落花生・香花農作物・蔬菜等にして、香花農作物の主なるものには、黃枝・茉莉・秀英あり、主として茶に香

ロクテ

を附するを目的とす。尙ほ本庄下の蔬菜の大部分は烏都臺北市に移出せらる。また柑類類・芭蕉・龍眼・蕃茄類等の果實生産あり。特に本庄下の蜜柑は和尙蜜柑と稱して、全島に著名なり。農家に於ては、副業として、水牛・黄牛・雞・鴨・豚・家鴨・鵝等を飼育する者多く、其の大部分は臺北市に搬出せらる。また本庄は東淡水河に面するを以て、淡水魚の捕獲多く、鱒・鱈・鯉・鰱・鰻・鱧・貝類等數萬圓を漁獲す。工業に於ては、大規模のものなきも、副業としての手工業發達し、竹細工・下駄・藤細工をなす者多し。大臺北市に接する本庄下に於ては商業に於て特に見るべきもの少し。金融機關としては信用組合を有す。教育施設に於ては、初等教育機關として、公學校四設けられ、なほ農村指導者養成のため農業專修學校もまた設置せらる。其の社會教化機關たる教化聯合會・青年團・國語講習所等は殆ど各部落に在りて、本島人の皇民化運動に従ふ。本庄の地は、俗に和尙洲の地にして、清領當時は其の行政區劃たる芝蘭二堡に屬せし地なり。もと淡水河と沙洲より形成せし地にして、菜叢生ぜしを以て蘆洲の名あり。清の雍正初年に、八里坌(八里庄)に在りし漢民族は、觀音山脚を経て新莊に向ひ移殖を企てしが、此地は其の中路として開かれ河上洲の名を以て呼ばれしが、乾隆の頃、いま新竹城隍廟の舊址なる者、官に請ひて、地の産業を以て關渡鎮鎮官の油香

ロクテ

料に充つるの許可を得たり。是に於て地の人、附近の地を和尙厝と稱せしが、和尙厝の音は河上洲の音に近似せしより、彼此混同して和尙洲なる新地名を成すに到れりと云ふ。芝蘭二堡は我が領臺後に其の行政區劃として用ひられしが、大正九年十月一日地方制度改正に際して廢止せられ、同時に與直堡下の二庄(現大字)及び芝蘭二堡下の五庄(現大字)を以て一庄を建て、登洲庄とし、臺北州新莊郡の管下に屬せしめたり。現大字和尙洲樓子厝は舊河頭なりしを以て舊港嘴の土名を存せしが、高麗年代これを聞き水邊に近きを以て樓屋を建て淡水を開き水邊に地名出でたりと云ふ。本庄は臺北橋を以て臺北市と直に連絡し、また庄下に縱貫道路、其他大小道路施設せられ、自動車の運行盛なれば、交通甚だ便利なり。
ロシヨ 魯城面 朝鮮忠清南道論山郡の北部に位置し、郡邑論山の北方約一〇軒に在り。東境に魯城山(三四三米)聳え、東北は山地を成せども、西南部は論山平野の一部を成し、地味肥沃にして農業盛かなり。住民の多數は農業に従事し、また論山邑・群山所等に逐次、其他労働者として出稼する者多し。産物は米・小麦・大豆を主とし、栗・蕎麥等あり、又白菜を始め其他の蔬菜・栗・柿・苹果等の果物を産す。道路は面の東南に在る魯城を核として南は論山、北は公州に各一等道路を通じ定期乗合自動車の便あり、其他の路線も亦此地

ロセ

を起點として城内に通ぜるも、何れも僅に入馬を通ずるに過ぎず。聚落は魯城最も大にして面事務所・郵便所・警察官駐在所及び陸軍二・七の日に開く市場ありて開市日には貨客の來集多く取引活潑なり。此地は大正三年まで魯城郡廳の置かれし地とす。
ロセ 蘆西面 朝鮮咸鏡北道慶興郡の東南端に位置し、郡邑慶興の南方約一五軒に在り。西は雄基邑に接し、南は海に面し、東は豆滿江を隔てて蘇聯沿海州に相對し國際上重要な位置を占む。西部は老年期の丘陵小起伏位位でも中部以東は豆滿江河口の低濕沼澤地帯を形成し衣浦・晚浦・西浦浦・東浦浦等の沼澤横ばり蘆葦叢生し、不毛未開拓地帯からず。また開墾し耕地として有望なるものもあるも住民稀薄にて悉く遺棄し或は農田として僅かに利用するものあり。氣候は夏季日中は炎熱酷しけれども日没後は二〇度内外にして、冬季は寒風激しく闊つて氣温低下し、零下三〇度に降ること珍しからず。河水濁湖多く氷結し人馬其上を往來す。住民は農業または漁業に従事し、尙ほ少數の製鹽業者あり。産物の主なるものは、栗・棗・蕎麥・大豆・芋類等にして米は耕作せられず、蘆は最近バルブとして人相・製紙の原料として移出を見、着床有製紙の原料。海産物には鮭・鱒・鱒・明太魚等の寒海魚及び海參・牡蠣、其他食鹽等あり。鐵道北鮮東部線(舊開門東部線)は西方の雄基

より東に西を北走して岡地群間に連絡し、域内に洪儀・九龍坪の兩群(共に昭和四年設置)あり。また東南端の西水羅は尾基の東方約二八軒の海岸に在りて良泊を成し管林署の貯木場あり、北鮮汽船寄航し交通運輸の便あり。東端は極めて静なく鐵道開通により發達せる洪儀・九龍坪の交通繁盛、龍眼洞の面政の中心町、及び西水羅の明太魚・鯉の養殖地としての漁港繁盛等を数ふるに過ぎず。西水羅はまた北鮮第一の昆布の名産地なり。附近に西水羅嶺あり、慶興郡が都護府に昇格せし際、邊境防備の要塞として築かれたるもの、今は梅の名所となる。(西水羅浦・東水羅浦)面のほぼ中央にあり。西水羅は南北約八軒、東西約三軒に及び、南端の西浦項洞附近に於て僅に造山山と相連じ、その幅約三〇米。水は洪儀川と相連じ、南部に大壘入りて東水羅浦をつく

落浦等と共に造山湖の一支流を成せしが湖口の蘆邱山(五・八米)を核として湖口を閉塞し湖をせしめしものにして、周開凡そ六軒、三面は一〇米内外の丘陵を以て圍まれ、東南部は砂漠にて草地をなす。西岸に唯項あり、住民は朝鮮籍・朝鮮湖漁業を營み、また沿岸にはほつき貝を産す。(湖島)西水羅の西南方約六軒に在りて小島。東北・西南に長く約一軒あり。無人島にして、海鳥群棲し産卵するを以て名づけ、また夏季には屢々屢屢現出するを以て化島とも稱す。島に卵島燈臺(大正四年設置)あり、燈質は閃白光にして毎三秒に一閃光を發す、光達一四哩。
ロセキ 蘆厝 臺灣總督府鐵道阿里山線の一體(昭和八年設置)。臺灣臺南州嘉義郡竹崎庄にあり。
ロチク 蘆池(湖) 朝鮮平安南道平原郡の西に位置し、都邑水柔の西に隣接す。東南端に紫華山(二三〇米)・金剛山(二五三米)等聳立し、山脚域内に展びて南半部は山地を成せども、北半部は中橋江及び其の支流の培養せる沖積平野を成し地味肥沃、灌溉した便にして重要米産地を形成す。農産物の主なるものは米・小麦・粟・小豆・黍等にして其他、蘆葦・草鞋・生牛・朝鮮酒等あり。道路は二等道路の南を横斷し、東方の水柔、西方の漢川に各乘合自動車以て連絡する外は何れも等外路線にして交通・運輸便ならず。粟落は中部に最も多く集積す。

落浦等と共に造山湖の一支流を成せしが湖口の蘆邱山(五・八米)を核として湖口を閉塞し湖をせしめしものにして、周開凡そ六軒、三面は一〇米内外の丘陵を以て圍まれ、東南部は砂漠にて草地をなす。西岸に唯項あり、住民は朝鮮籍・朝鮮湖漁業を營み、また沿岸にはほつき貝を産す。(湖島)西水羅の西南方約六軒に在りて小島。東北・西南に長く約一軒あり。無人島にして、海鳥群棲し産卵するを以て名づけ、また夏季には屢々屢屢現出するを以て化島とも稱す。島に卵島燈臺(大正四年設置)あり、燈質は閃白光にして毎三秒に一閃光を發す、光達一四哩。
ロチク 路竹庄 臺灣高雄州岡山郡の北部。東は阿蓮庄、西は湖内庄、南は岡山街・彌陀庄、北は臺南州新豐郡歸仁庄・仁德庄に各々隣接す。富庄は早くより拓けたる純農村にして、住民の約八割は農業を生業とし、住民の生活程度は郡内の中位に在り。耕作地四千數十甲の中約三分の一は謂ゆる看天田にて水利の便なき爲め屢々旱害を被り居たりしに依り之が対策として、昭和八年度より州の計劃に基き、看天田改良深耕農作事業を實施したる結果、其の大牛改良されたり。現在本庄の農産物は米・甘蔗・甘藷が主なるものにして、その他、茶・胡麻・落花生・果實・蔬菜類を若干産出す。また畜産業は、農家經濟上重要な地位を占むるを以て、専ら畜産の改良、管理の改善に努め豚・水牛・黄牛・山羊・鶏・鴨・鷄・七鳥等の飼育を爲し、甚だ盛んなり。尙ほ薪炭材・木炭・竹材・竹筍等の林産物も産出す。本庄の工業にありては從來煉瓦地を主とし、瓦地・鍛冶・製菓・染布業等を從事す。商業は近時交通に恵まれ取引増加を示し、一般商戸も亦田舎商人の域を脱し、進々組織的に營む傾向を示せり。産業組合は路竹購買販賣利用組合を有し、農村金融の潤滑を計りつゝあり。本庄の教育機關としては公學校一、分教場二を有し、昭和十一年兒童就學率は二九・九なり。尙ほ社會教化機關としては國語講習所六箇所を初めとして、簡易國語講習所・青年團・少年團等

の設置あり、昭和十一年都府振興の促進並にこの種機關の聯絡統制を圖り、住民の國民意識調達の目的を以て、路竹庄民風作興會を設立されたり。交通は縱貫道路及び縱貫鐵道が富庄の中央を貫通し、路竹驛(明治三十五年設置)を有し、縱貫道路には局營バスの便もありて、來往頻繁なり。而して高雄・臺南間の海岸道路は庄内半後部の一部を貫通し、更に庄内は各部落間に幅員大なる短道が四通八達し、富庄の交通状態は極めて便利良好なり。本庄一帯は明末の鄭氏時代及び清領時代の行政區劃たりし長治一團里の管後・一甲・新園・下坑、長治二團里の後郷、及び新里の下社・大社・牛路竹(路竹と改稱)鴨母寮・北嶺寮・三爺埤の十一庄を以て、大正九年十月一日地方制度大改正に際し、十一年より成る現在の路竹庄を建てたり。(舊十一庄中の下社は改正前、既に該庄民殆ど全部大社に移住したるに依り、是等は現在十大字となれり)路竹に庄役場を置き、一時は天后宮廟を以て夫れに充用し居たれども、大正十二年十月一日新築され今日に至る。なほ富庄は古來文人を出すこと多かりしを以て個有文化の影響を受け、住民は概して優養・教養なり。人口一四、三四一人、(昭和十一年末調査)。
ロチク 蘆竹庄 臺灣新竹州桃園郡の北部。南溪溪流域一帯の地を占む。東は龜山庄、西は大園庄及び中壠郡の中壠街、南は桃園街と各々境を接し、北は大

牛臺北山下新莊郡林口庄と隣接して一部臺灣海峡に臨む。地勢は南東より北西に傾斜し、東隣龜山庄より延び來れる坪頂の連丘を除く外は概れ平坦にして水田廣く展開し、南溪溪其他の小溪流を灌溉す。純然たる農村にして田畑面積四千四百餘甲を有し、年農産總額の大部分は米によりて占められ、外に蔬菜・甘藷・茶・落花生・黍・西瓜・果物類の産出もまた夥からず。畜産は農産に次で重きをなし、勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・山羊・鶏・鴨・鷄等の家畜・家禽類多く、一般家庭に於て副業的に多く飼育せらる。特に豚は古くより桃園豚の名を以て聞え、生産力旺盛なり。林業に於ては一般造林及び耕地防風林の造成着々行はれ、薪炭の産出もある産額多からず。農業専修學校一、公學校三を有す。庄役場は大宇南嶺下(普通南嶺と稱するは概れ當地を指す)に置かれ、南隣の桃園街より乘合自動車及び軌道(手押臺車)の便あり。また桃園街より西隣大園庄の大園及び竹園に通ずる軌道又は乘合自動車も庄下の新興・大竹園・蘆竹等の諸大字を通過し、利便を受くること少からず。庄の内、東北邊の一部即ち坑子・坑子口・坑子外の三大字がもと八里堂堡の地たりし外は概れ桃園堡に屬し、當初は平埔蕃族タタカナン部族の一なるナムカム(南崙)社の存在せし所なり。明末の鄭氏時代に南崙(崙)と總稱せらるる地方の一部に開屯を見たるも久しからずして廢墟せしもの如く、清

の康熙・雍正年代まで、到る處に茂林叢樹鬱蒼として樂鹿群をなせりといふ。乾隆二年粵人薛啓隆なる者、塾生數百を率ゐ、庄西端の一部をなす南溪溪の河口即ち南溪港より上陸し、隘を設けて土蕃に壓迫を加へ、開墾に従事せしが、土蕃は拮据の力を失ひ、或は遷徙して遠く退き或は歸順して化に遂ぎ、拓殖の業大に舉り、益々塾生を招きて開拓を進めしが、閩粵兩籍民の來り應ずるもの多く、南嶺福興は主として閩人によりて開かれ、福建人の業を興せし地なるに因みて名づけしものなりといふ。爾後移住者日に多きを加へ、隨所に部落建設せられて今日の基礎となれり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし堡を廢せられ桃園堡より九庄、八里堂堡より三庄を割きて計十二大字に改め(蘆竹厝を蘆竹と改稱)之を一括して蘆竹庄となし、桃園郡に編入せられ、現在に至る。
ロツカ 六嘉村 鹿本縣鹿寮園上益城郡の西部。西北部は僅に鹿本市の東南部に接す。全村地形低平にして一河川が村の中央を北に貫き北隣の秋津村に出でて西流し鹿本市の東南部にある江津湖に注ぐ。主生業は農業にて米・黍を産し、蠶蠶また盛なり。南隣の社線鐵道が掠めて過ぎ六嘉驛(大正四年設置)あり。鹿本市に接し交通の便よし。古くは和名抄、鹿鹿郡上島郷の内か。村名は古く

庄名に呼ばれ、その地域は上益城・鹿鹿の二郡に互れり。(井寺古墳)指定史蹟。字井寺にあり。井寺村落東方の低き丘陵の端に造られたる圓墳にして、石室は千金甲乙に似たる大いさにして、高さは三米三〇釐あり。阿蘇燔岩の大小の切石を巧妙に組み構築せられ、底面は正方形にて上部に到るに従ひ特造り、整然たる穹窿を構成し、頂部には内面を橢圓形に削り抜ける天井石を置く。また壁面は全面を朱塗となし、石の間隙に漆喰を填充す。壁の四周には灰燔岩の板石を以て造られたる高さ四四釐の欄を繞らし、奥・左・右の欄壁面には朱・青・白の三色を以て彩る直氣紋を主軸とせる紋様が編みこまれる。而して各々の直氣紋の間には整に二箇連續する車輪形が刻され、端に梯子形の紋様を刻するも、直氣紋は白色を地色として朱色を帯状に彫出し、主要の刻線は青綠色を以て填めらる。車輪形は車輪以外の地を朱塗とし、上下の輪を連ぬる鐵線の帯を白色にて彩り、車輪周囲のダンダラと梯子形とは三色を交互に彩り別く。欄壁の地紋以外の部分は朱塗とす。この欄壁圖案は鐵幕を張り廻らせる状を模したりと稱せらる。また欄壁を渡道の兩側にも存し、この面に直氣紋及び梯子形が刻される。朱塗は石室と通路の全面に互り、營造當時は三色の配彩室内を照せしことありと思はる。墳丘の外部より埴輪圓筒破片採集され、また玄室内よりは曾て古く劍・鏡等の出土せ

しこと傳へらる。(六嘉神社)大字下六嘉に鎮座。郷社。祭神、健甕能神外十一柱。慶雲元年に阿蘇大宮司勧請す。例祭十月十七日。
ロツカウシ 六角牛山 北上山脈の一峯。釜石市の西方約二〇軒。岩手縣上閉伊郡青壁・上郷の二村境上に峙つ。標高二九四米。山體は砂岩より成る。東方に近く釜石山あり。
ロツカク 六角村 佐賀縣肥前國杵島郡の中部。六角川の南岸に沿ひ武雄町の東約八軒にあり。東南部は白石町の北及び西を圍み、西北部は川を隔てて大町町に界す。村内地形平坦にして地味肥沃なる水田をなし、北端に沿ひて六角川が屈曲しつゝ東流す。産物は米・黍・蕎麥等を出す。重要礦山なる杵島炭礦の礦區は富村及び大町町・江北村・小城郡南多久村に跨る。杵島炭礦會社の經營にて、昭和十年には塊炭一九〇、八四六噸、粉炭三五四、七五〇噸、粗炭六五、九四〇噸、この總價額四九六萬餘圓を産出し、同年六月末の鐵夫數は三、七〇五人、現に重要礦山に列す。縣道東西南北に通じ中央を省線長崎本線貫貫して福治驛(白石町地内)に近し。
ロツカシヨ 六ヶ所村 青森縣陸奥國上北郡の東北部。野邊地町の東北約一〇軒。北は下北部に接し、東は太平洋に面す。面積二五・一三四方軒の大村。下北半島の東斜面に屬し、地勢西部に高く東方に傾斜し、北部に月山(四一九米)、

西北部に御宿山(四九六米)聳ゆ。老部川は西端に發源して村の略中を東南に流れ太平洋に注ぐ。南部は低溫にして湖沼多く、尾沼・蘆沼・布沼・田沼・木沼・内沼等あり。村内は丘陵・山地多く海岸には平地南北に連りて砂浜をなせり。村の生業は農業を主とし、漁業はその副業にして、米・蠶・サヨリ等を産す。また所々に放牧場ありて牧馬行はる。道路は村の南部を東西に通じ、西方省線東北本線野邊地線へは海岸より約二〇軒。西北方省線大湊線陸奥横濱線へは約一二軒。各バスの便あり。東北本線沼津寄り村の南部の字倉内へは小川原沼往復の發動機船の便あり。人口密度は一方軒に付三〇人なり。大字尾沼は古く駒を産し尾沼牧といふ。然しこれには異説ありて一に牡鹿郡の地なりといふ。(田面木沼)小川原沼をその盟主とする沼沼群の一にて、小川原沼の北方に近く、土地の者は平沼と呼ぶ。東西に長く飄軍形を呈し、別に南北に長く横沼と稱するもの西に連る。最深は東部にて七米、横沼にて三・五米、横沼の北端に小波注入り、平沼の東端より波出し平沼部落を横断して小川原沼よりの高瀬川に注入す。洪水湖なるも、時に海上高波の際に湖水の逆流を受けて幾分を含むことあり。(諏訪神社)大字沼に鎮座。郷社。祭神、武身名方命。社傳によれば延暦廿一年の勅諭なりと。例祭、七月十八日。

ロツカホ

社 臺灣新竹州大

湖部の審計。後龍溪上流地方にある高砂族部落にしてアタヤル族に屬す。戸數三〇、人口一六〇(昭和十二年末現在)。**ロツキ 六龜庄** 臺灣高雄州旗山郡一街五庄の一。郡下行政區域内の東北邊に位置し、下淡水溪本流の上流たる老濃溪に跨る一帯の山地を占めて、南北に細長き地形をなす。東及び北を蕃界によりて圍繞せらるる奥地に於て、西は甲仙・杉林・美濃の三庄に隣り、南は老濃溪を隔てて屏東郡の高樹庄に對す。山岳は東西より中央の老濃溪を挟みて各々南北に聳起し、西北に内英山、東北に美地山・頭刺山等の高峰聳ゆ。平野の見るべきものなく、老濃溪沿岸に僅かの平坦地散在するに過ぎず。故に耕地面積は狭隘にして且つ水利の便に乏しく、農産物は米を第一とし、甘藷・甘蔗の類は産物も生産高微々たり。曾て庄内に六龜製糖株式會社あり、廣大なる土地を所有せしが、事業失敗してより庄内耕地の大部分を占むる同會社の所属土地は荒地と化し、庄の産業は一頓挫を來せり。然れども此等の土地は最近臺灣製糖株式會社の買収する所となり、前途に開發の曙光を認むるに至れり。小学校一、公學校一、同分教場二を有し、本島人學齡兒童の就學歩合四一%にて、なほ郡の平均に達せず。庄役場所在地六龜は現制度施行の際に六龜里を改稱せしものにして、庄の中央老濃溪西岸に位置し、旗山を東北に距ること三・一軒、蕃界の咽喉部を扼し、郡警

察課分室を始め、マラリヤ防遏事務所・專賣局出張所・京都帝國大學演習林等あり。蕃界出入の旅客多く、これがため内地人經營の旅館を有し、其他、消費市場並に水道の施設ありて地方の小邑たり。土墾河には發電所あり。庄内の住民は少數の内地人を除けば福建・廣東・平埔の三種族にして三者略ぼ同數なり。老濃溪の支流寶來溪中及び新開の部落にはラサウムの温泉湧出するも、交通不便にして未だ利用せらるるに至らず。交通は地勢の関係上、發達困難にして旗山・六龜間に聯合自動車を通ずと雖も、道路不完全なるため最近まで一部分は溪流中を運行する状態にて、雨期出水の際には運轉不能に陥ること稀ならずし、近年陸道工事完成を告げしより不便を軽減せられたり。また六龜より北端寶來に至る道路は險峻にて従來幸じて自動車を通ずる程度に過ぎざりしが、擴張改修せられ自動車運行し得るに至れり。庄内一般に山水物に富む。管内は南端部の新成がと港西上里に屬せしを除けば餘餘は總て補植仙溪東里の一部にて、當初は高山蕃少オ族の分布區域に係り、次いで鄭氏時代に漢族の爲に曾文溪上流域を逐はれし四社蕃(平埔族)の侵入する所となり、清領後更に漢族の移殖を見たより終に漢蕃居住の基を固けり。明治二十八年帝國領臺以來、該次行政上の變遷を経て大正九年十月に致り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし里を

ロツキヤク

六脚庄 臺灣臺南

廢され、前記二里より五庄を割きて五大字に改め(六龜里を六龜と改稱)之を一括して六龜庄となし、屏東郡に編入せられしが、昭和七年十二月更に旗山郡の管轄に變更せられたり。**ロツキヤク 六脚庄** 臺灣臺南州東石郡一街六庄中の一。郡の北部に位置し、北港・朴子二溪間に介在す。東は太保庄及び嘉義郡新港庄、西は東石庄に接し、南は朴子溪を隔てて朴子街に、北は北港溪を隔てて北港郡下の水林庄及び北港街と相對す。土地概ね平坦にして僅に蘇厝寮・竹子脚方面に季節風によりて形成せられたる小砂丘の點在するに過ぎず。田畑廣く展開し純農村を形成す。然れども灌溉の便尚ほ不十分にて農耕地は看天田及び如多し。甘蔗を主作とし、甘藷・陸稻・水稻これに次ぎ、落花生と共に庄の主要農産物たり。畜産は農産に次ぐ重要な地位を占め、勞役用の水牛・黄牛を管外より輸入するも、豚・鶏を主とす。畜産に著く飼育せられ、管内の需要を充たす外、嘉義方面に搬出せらるるものも尠からず。蒸餾に明治製糖の工場あり、工業は之を除けば總て規模小にして殆ど見るべきものなし。小学校一、公學校三、同分教場一を有し、小役場を蒸餾に置く。交通機關少く、大小の道路縱横に開設せられたるも雨期には交通社絶することあり、交通便ならず。管内はもと總て大嶺郡西側に屬し、初めて折衝の精

に置きしは早く明の末代にありて、鄭氏の據臺後、開屯の時分には大半既に開墾せられしといふ。當初開の泉州府同安の人陳德順・陳士政等が北港溪を測り南岸に今の竹子脚の部落を建てたるを、此地方に於ける漢族の足跡の及びたる最初とし、爾後、鄭氏時代を経て清の雍正年代に至り概ね開墾せられたり。明治二十八年帝國領臺以來、該次行政上の變遷を経て大正九年十月に及び、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存続し來りし里を廢せられ、同係より十七庄を割きて十七大字に改め(六龜里を六龜と改稱)之を一括して六脚庄となし、東石郡に編入せられ現在に至る。

ロツケン

六軒 省線參宮線の一

白村にあり。**ロツケン 六軒** 省線參宮線の一驛(明治二十六年設置)。三重縣一志郡天白村にあり。**ロツケンボリ 六間堀** 江戸時代開墾所の一。今深川區東六間堀町・西六間堀町に分る。小名木川より北に入る六間堀の東西に在る町。婦美車營鹿子・大橋六間堀。此淨土堂のふり衣袋大ていよし、よぶばかり引げらす。淫女皮肉論よした町に入江町、控籠どもに六けんぼり

ロツケンマチ

六軒町 大阪

の町名、江戸時代、島之内にありし猿師屋町の舊名。今南區玉屋町附近。南水浸邊、島之内六軒町といふは、猿師屋町(今の玉屋町)なり。重井筒の載文中の巻に、月は早渡りぞめて中橋や、六軒町の小

ロツケ——ロツコ

夜格子として、組家の二階窓の竹格子をいふ、實曆の頃までは兩三軒ありしが今はなし、此邊を六軒町といふは、元文寛保の頃まで女郎屋六軒ありし心中重井筒、中「月」ははや、わたり初めして中橋や、六軒町の小夜格子、唐の聖の日はく、色の徳にば隣あり、向ひ雨側側かす、軒の燈火目印に、昨日も今日も明日の夜も、重井筒の釣瓶籠。**ロツコ** 六甲 兵衛武庫郡にありし村。昭和四年に本村を廢し、一部を御影町に、他を神戸市に編入す。**ロツコ** 六甲山 兵衛武庫郡にありし村。昭和四年に本村を廢し、一部を御影町に、他を神戸市に編入す。**ロツコ** 六甲 兵衛武庫郡にありし村。昭和四年に本村を廢し、一部を御影町に、他を神戸市に編入す。

【六甲山】 臺灣臺南州曾文郡一街四庄中の一。郡の東北部一帯を占む。東は新化郡補西庄に、西は本郡下の下營庄に、北は新營郡柳營庄に、南は官田庄に各相隣接す。地形は東西に狭長にして、地勢は東中に山を負ひ、西に向ひて傾斜し、西中に農耕地多し。本庄下産業の主なるものは農業・畜産業・水産業等となす。農業に於ては米を主とし、甘蔗・甘藷・落花生等を産し其の價格約七十萬圓に達す。其他、龍眼・柑類・芭蕉・檳榔等若干の果實生産あり。本庄に於ける畜産は農家に於て副業的に營むところのものにして、牛・豚・羊・家禽を主とし、特に豚は其の飼育數多く、牛は主として農耕勞役に使役せらる。海に面するなき本庄下の水産は、庄下各地に設けられたる貯水池に於ける淡水魚の養殖にして、鯉・鮒・

鯉魚等を捕獲し、年約五千圓の漁獲高を有す。工業の重要なものは製糖及び精米・製菓・製粉・製麵・製油等なるも盛なりと云ふを得ず。商業に於ては僅に庄下住民を相手とする小賣商のみ。金融機關には一の信用組合を有するのみなるも、近年農村の活況を呈すると共に、資金の運用甚だ圓滑なり。教育狀況に於て本庄を見るに、庄下に初等機關たる公學校一を有し、また教會教化機關として青年團・婦人會・國語講習所等あり。特に近時は國語常用家庭の習得を目指して當局の活動盛なり。交通に於ては從價線が本庄の西部を南北に貫通し、庄下に林風管線を設け、また縱貫道路は是と並行し、是を輻輳とする大小道路四通八達するを以て交通の便甚だ良好なり。從つて管内貨客の搬出入に不便を感ずる事殆どなし。本庄の地は明末に鄭氏據臺せし時、建てられし開化里に屬し、清初是を襲ぎしが、東方に赤山なる一峯崛起せるを以て堡名となしたり。明末鄭氏の時代既に拓殖の緒に就き、永曆二十年(清康熙五年)鄭氏の部將林鳳なる者、現大字林風營の地を根據地として堡營を設け、周圍なる現大字龜子港・港子頭・中社・青埔等の地に開屯したりと云ふ。清領後福建泉州の人黃捷高は林鳳の開屯せし地域に於て、魁首として招徠拓成し、殆ど同時に、漳州人蔡五常、蔡玉崑は現大字水添林・二甲・七甲に拓成を告げたり。爾來漢人の渡來定住する者多く、農を營

みて、古くより農業地として名聲を博せり。我が領臺後も赤山堡は其の行政區劃として用ひられたるも、大正九年十一月一日地方制度改正に際し、本堡下の十三庄(現大字)と善化里東堡下の二庄(現大字)の地を以て新制による六甲庄を立て、臺南州曾文郡の管下に歸せしめたり。**ロツコ** 鹿港街 臺灣臺南州彰化郡一街六庄中の一。郡の西部中央に位置して西は臺灣海峡に臨み、北は線西庄、東は和美・秀水二庄、南は福興庄にそれぞれ境を接す。土地總て平坦、丘陵なく、地味肥沃なるに加へて灌溉水利の便に恵まれ、西南隅の市街地及び沿路帯を除けば、その他は總て純然たる農村を形成し、海岸浮置地の鹽分地改良に伴ひ農耕地面積は著しく擴大せられ農産豐富なり。米・甘蔗・甘藷を主要なる農作物とし、他に落花生・落花生等あり、何れも生産額多し。畜産は農産に次ぐ重要な地位を占め、勞役用の水牛・黄牛を除き豚・鶏を主とす。畜産に著く飼育せられ、管内の需要を充たす外、嘉義方面に搬出せらるるものも尠からず。蒸餾に明治製糖の工場あり、工業は之を除けば總て規模小にして殆ど見るべきものなし。小学校一、公學校三、同分教場一を有し、小役場を蒸餾に置く。交通機關少く、大小の道路縱横に開設せられたるも雨期には交通社絶することあり、交通便ならず。管内はもと總て大嶺郡西側に屬し、初めて折衝の精

産たる綿香・蜜餞の製造は有名にて全島に其の名を知らる。市街は最近まで純支那式市街の典型として史的價値に富み、その特異の存在を誇りしが、今や市街の大改正成りて全く面目を一新し、諸種産業の發達に伴ひ、且つ漁港設置の特長と共に更生の意氣鬱勃たるものあり。小學校一、公學校五、同分教場一あり、夙に文化の發達せし關係上、教育の普及状態比較的良好なり。市街には各種商店軒を並べ商業は活況を呈す。郡警察課分室、街役場、福興庄役場、郵便局、税關支署、水上警察派出所等の官公舎のほか、小公學校、彰化銀行支店、信用組合、消費市場、公會堂等あり。東方の秀水庄を経て彰化市との間に大日本製糖の社線及び指定道路あり、後者には乗合自動車の便を有す。また東南福興・埔鹽・漢湖・坡心等の街庄を經由して員林に達する明治製糖の社線を通ず。北方は和美を経て練西に至る重要道路を有し、乗合自動車の便あり。管内はもと總て馬芝堡に屬し、鹿港の港口は早く明末鄭氏の時代より漢族の寄港上陸地として開かれ、清領となりたる後各地漸次開拓せられ、對岸との貿易頻繁を加ふると共に港としての鹿港は、中部臺灣の吞吐港として、また臺灣三大港口の一として殷盛を極め、之に伴ひて市街の隆昌を來せり。最初市街の形成せられたるは土名、北橋頭邊にして當初は鹿仔港街と呼び規模未だ大ならざりしが、雍正九年港口が島内貿易港に指定せらるる

と同時に、新に巡檢を設け(嘉慶十四年大甲に移す)たる結果、漸く市區を擴大せられ、乾隆初年頃には通稱米市街を中心として街肆の増建を見、同廿九年に成りし臺灣府志(續修)には「鹿仔港街、水陸輻湊、米穀兼處」といへり。同四十九年、對岸泉州(蚶江)との通商を開かるるに至り商賈の移住益々多く、船舶の出入愈々繁く、同五十三年には彰化縣城を當地に移すべしとの議を有司により建てらるるに至れり。此議は遂に行はれずして止みしと雖も、鹿港海防同知を彰化より此の地に移駐し(鹿港海防同知は四十九年の開港と共に設け、北路理番同知これを兼れ彰化に駐せり)且つ水師遊擊の在營をも安平より移せり。蓋し鹿港街の全盛は、此の時代以後、道光年間に至りしが如く、道光十二年に成りし彰化縣志に「街衢縱橫、皆有大街、泉廈商賈多、舟車輻湊、百貨充溢、臺自郡城(今の臺南)而外、各處貨市、當以鹿港爲最、港中街名甚多、總以鹿港概之」と見ゆ。而して街名を鹿港(仔の字を省く)と呼ぶるに至りしも此頃在るもの如く、此の全盛の時代に於ける人口の總數十萬を算へしといふ。然れども爾後、濁水溪より搬出せらるる土砂は漸次堆積し移り港口を全く埋没して大船の出入不能に陥り、街勢漸く衰微して昔日の面影を留めざるに至れり。明治二十八年帝國領事後敷次行政上の變遷を経て現制度施行前までは鹿港支廳の所在地たりしが、大正九年十月

制度改正に依り、清領時代より存続し來りし馬芝堡を廢せられ、同條に屬せし一街十庄を計十一大字に改め、之を一括して鹿港街となし彰化郡に編入せられ、同時に支廳を廢せられ新に郡警察課を設置せり。(鹿港)鹿港街西南部にあり。もと漢族によりて鹿仔港と呼ばれ、和蘭宣教師ツァンツァインは Githam of Nani Doyne と記せり。而して乾隆四十九年に於ける水師遊擊軍の請設鹿港正口疏には鹿港と記し、同五十五年に於ける勅建天后宮碑記には鹿仔港とあるに徴すれば、此頃には鹿仔港及び仔字を省ける鹿港の地名の兩存せしもの如く、道光十二年に成りし彰化縣志には、港名として鹿仔港、街名として鹿港と見え、爾後港名・街名共に鹿港に一定せり。本港は明末鄭氏時代に既に漢族の上陸地となり、彰化(初め牛寮と稱す)地方との交通ありしもの如く、降りて清領の後、雍正九年には島内貿易港として開かれ、乾隆四十九年には更に對岸泉州との間に通商を開けり。當時は市街を隔つること僅か數町の處にあり、港底また淺からず、巨大なる支那形船舶の出入自在にして臺灣三大港口の一に算へられ、一府(臺灣府の臺江)・二廳(即ち鹿港)・三廳(淡水港内の鹿港)の稱ありき。然るに爾後、濁水溪の氾濫により其の淺砂沖積し、成年代より港底漸次埋没せられ、現時に於ては全く港灣たるの形質を失ひ、僅に小型或克船により對岸との間に青果・乾魚・燻

寸・砂糖の輸出、苧麻布・石材・陶磁器の輸入が微々として行はるるに過ぎず。されば本港は今後漁港として更生すべく期待せらる。

ロッコ—ロトー 六甲越有

馬鐵道 六甲越有 六甲山越有 馬鐵道より清水驛を経て六甲山驛に至る一・七軒にして清水驛—六甲山驛は鋼索鐵道なり。省線とは非連帯にして動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

ロッコ—ロトー 六甲道 省線 東海道本線の一驛(昭和九年設置)。神戸市灘區深田町にあり。

ツビヤク 六甲山 日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。上高地の東嶺にして、長野縣南安曇郡安曇村に屬す。標高二四五〇米。梓川は北方より南に、北麓より西麓に廻流して南流す。南麓には霞澤岳連峰し、北方には梓川を隔てて明神岳を始めとして穂高連峰對峙し、西方は梓川の彼岸に穂高の噴煙を仰ぐ。秋日には紅葉美しく、上高地の美を增すこと大なり。亦上高地

ロッポンスキ 六本杉山 九州山脈の一峯。熊本縣八代郡八代町の東方約二〇軒に當り、同郡栗木村・河俣村と球磨郡五木村との境上に峙つ。標高一四九米、山體炭酸カルシウムより成る。

ロトー 蘆洞 朝鮮總督府鐵道成鏡本線の一驛(大正十三年設置)。成鏡北道吉州郡徳山面にあり。

ロレ 蘆嶺山脈 朝鮮南西部の山脈。西南朝鮮の諸山脈の走向の特色を代表せる山脈にて、全羅北道の東北境より南西に向ひ道の南部を斜走し、末は全羅南北道の境界山地となり、靈光・咸平郡に達し海に没す。本山脈は大部分花崗岩より成り、削剝の結果、準平原化されて老年期の地貌を呈し、脈中高峻なる山峯乏しく、母岳山(七九四米)等がやや顯著なる殘丘なり。全羅南北道界にある蘆嶺(二七六米)は古來重要な交通路をなし、國道木浦街道を通じ、鐵道湖南本線もまた本峠を隧道により通過す。蘆嶺を境とし最も特色づくるものは嶺南の地理的景觀の變化にて、溫暖なる氣候と肥沃なる地味とは水豊富なる稻田の景、嶺北に見えざる竹叢、樹木に圍まれし農家等、全く内地農村の景觀なり。

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

ロヨコ 論山 朝鮮慶尙北道遂城郡の西南部に位置し、大邱府の西南方約二〇軒にあり。洛東江の中流左岸に位し、東南部に琵琶山の裾延び來り、東北境に金鷄山(四八八米)聳え、城内に小丘陵起伏すれども、其の傾斜度は耕地化に適し耕地よく發達す。住民の多數は農業に従ひ、また養蠶・果樹・煙草等の栽培に従事する者尠からず。産物に米・大豆・大麥・落花生・棉花・煙草等にして其他、栗・柿・葡萄等あり、また蘆席を産す。道路は二等道路を東北方大邱、南方昌寧に通じ、西方高靈へは洛東江を渡りて三等道路を通じ、何れもパスありて

【蘆洞面】 朝鮮平安北道龜城郡の略中央に位置し、郡邑龜城の西南方約一〇軒にあり。西部は山地を成せども東部は極めて低平にして南市盆地の大部を占め、地味肥沃にして水利の便よく郡中屈指の米産地を成す。住民の大部分は農業に従事し、また蘆山日稼労働に従事する者尠からず。産物に米を第一とし實・粟共に市場に著はれ、その他栗・柿・大小豆・玉蜀黍・蕎麥・大麻等あり。西部の蘆洞附近は金鑛多く、郡内の天摩面・沙器面等と共に龜城金山鑛區を成し其の面積二四〇五萬坪、古河鑛業會社の經營に屬する著名の金鑛山にて、事變下の生産額に増加し活況を呈す。棄落は散村型のもの多く、集村としては雲溪洞・靑龍洞・白石洞(鶴汀)等を數ふるに過ぎず。面事務所を鶴汀に置く。

【蘆洞面】 朝鮮全羅南道寶城郡の西端に位置し、郡邑寶城の西に隣接す。西境に碧玉山(四七九米)聳ゆるも、其他は著しきものなく、東部には南北に狭長なる低地帯あり、また中部は丘陵面並に其の斜面よく開拓されて畑作農業卓越す。氣候また概ね溫暖にて農産豊かなり。住民は農業を主とし、傍ら養蠶業をなす者近年増加の傾向にあり。産物に米・大豆を主とし、棉花・煙草・蕎麥・蜂蜜及び諸種の竹細工品・綿布・蘆席あり、また鳴鳳金山その他より金銀を出すこと多し。鐵道慶全西部線は城内の東部を南北に縱貫し、鳴鳳驛(昭和五年設置)及び廣谷驛

(昭和七年設置)ありて之等の兩驛より二等道路により城内は勿論、西方は右水營、北方は光州等に連絡し、交通強固とも比較的便なり。

ロフサン 社 臺灣花蓮港廳玉里郡の蕃社。三笠村西北方の山地にあり、標高約八〇—七五〇米に至る。アマニ族にして、丹毒に屬する高砂族の住地なり。戸數二七、人口一七九(昭和十二年末現在)。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ロリヨシ 露梁津 朝鮮慶尙南道東郡金南面の南岸に位する一邑。南は露梁水道を隔てて南海島と相對す。南海島に到る渡津にて、また北方辰橋及び河東に通ずる要衝の地とす。征韓役に於ける古戰場として著はる。即ち、慶長三年豐太閤死するや、在野の諸將みな軍をまとめて歸國せんとす。時に李舜臣等、順天に屯せる小西行長の軍の歸路を要して之を全滅せんとし、島津義弘父子の事ある水軍と此處に遭遇戦を演じ、島津軍大いに兵を損せしが、また李舜臣飛驒に中りて歸る。

ち、郡を論山面旭町に置く。聚落の發達著しく、人口約一五萬、一方軒人口密度は二五三人(昭和十年)にして、各郡中稠密なること第一なり。湖南糧豆漢洋より約八割の鶴龍山は峻峯にして密谷深く老樹に富み、山中に甲寺・東鶴寺、その他古刹あり。山南の新都内は李朝太宗松都(開城)より遷都せんとして工事を起せしが、舟運の不利の一事を以て中止せし地と傳へられ、今なほ四大門の遺蹟あり。論山邑を距る東南三・五軒の恩津には般若山灌燭寺あり、境内の石佛彌勒は今を去る約一千年前、高麗高宗十九年に高僧慧明の建立にかかり、身丈一七米弱、脚圍一四米弱、耳長二・七米強の大佛にて湖南五物の一と稱さる。本郡は李朝時代の恩津郡の各一部と大正三年三月に合併して論山郡と名づけ、今日に至りしものとす。

【論山面】朝鮮忠清南道論山郡の略中央に位置し、大田府の西南方約四〇軒にあり。論山平野の一部を成し、沃野相連り郡中に於ける代表的米穀生産地帯を形成す。北部には論山川西流し頗る灌溉水利の便に富む。農産物は米及び大麥を主とし、其他雜穀・蔬菜・茶・柿・栗等あり。鐵道湖南本線は略中央を横斷し、西北部に論山驛(明治四十四年設置)あり、論山邑の關門を成し、道路は論山を基點として北は公州、南は木浦に各一等道路、東方大田、西方蔚山、江原に各三等道路、其

他の路線放射狀に出で、既に四通八達の要衝にして、商業發展を極む。なほ論山川により江景を眺む郡山まで舟楫の便あり。市場は邑内には二箇所ありて、陰曆三・八の日に開き、その取引額甚だ多く、湖南に於ける有数の米穀集散地なり。郡廳・米穀検査所・殖産銀行支店等あり。また精米所・酒造工場等あり、特に清酒は量に於ては馬山・平壤に及ばざれど品質優秀を以て聞ゆ。

【論地】省線古江西線の一驛(大正九年設置)。鹿兒島縣肝屬郡高山村にあり。

【山】臺灣花蓮港廳花蓮支廳の山。臺灣中央山脈の東側、馬太鞍溪の上流にあり、標高二九四七・五米を有す。

【崙背庄】臺灣臺南州虎尾郡二街四庄中の一にて郡の西北部に位置す。東は二崙庄に接し、西は臺灣海峡に面し、北は臺中州下の北斗郡大城庄に、南は郡下の海口・土庫兩庄にそれぞれ隣接す。管内は概ね平坦なるも、西部海岸に面する地方には臺灣特有の砂丘多し。庄下諸種産業の大宗をなすは農業にて、庄下住民の約七割強は新業に従事す。往昔、本庄地方は北部庄境を流る濁水溪の氾濫に依りて水害を被る事多く、不毛の地多かりし我が領臺後、治水工事の進捗と、嘉南大圳の完全により灌溉・排水の便良好となり、良田を多く有するに至り農業著しく發達せり。主産とするは

に扶まり、鹿本郡米民町の東々南方五軒餘にあり、東北は小丘陵をなし、西南は地形低平にして附近の平野に連る。東境より東南境にかけては濁水川が、西北境より西境にかけては追間川がそれぞれ村境に沿ひて西南流す。西部に市街地發達するも附近は皆農家にして、商賣は農村向きの物品を取扱ふ。主産物は米にして特産物には名茶松風・椎茸等あり。道路よく發達し東北より西南に走る鐵道あり、之より東南方及び西南方(鹿本市へ至る)へ分岐する縣道ありて自動車の便よく、また社線南池電氣軌道東北走して本町の西南部に入り來り懸崖附驛あり。古くは和名抄、菊池郡日理郷の地に於て、大字頁はその遺稱とす。舊名限部といひしが、正平の末年、菊池武政は此處に限部城を置き、爾來、天文十九年即ち義武の時に至るまで累代の居城なりしより、限部府と稱し、のち限部と改めたり。城内には史蹟多く征西將軍(康良、良成兩親王)御在所址なる内裏尾を始るとし、同將軍御手紙の將軍木、同將軍の月見殿址等あり。(限部城)一に守山城といふ。いま本丸・天主臺・二ノ丸等の址を存し、また城址の東・南・西三面に半月狀に配置せられたる菊池十八外城と稱せられ十八箇所の出城址あり。(菊池神社)限部に鎮座。別格官幣社。祭神、菊池武時・同武重・同武光以下殉難將士之靈。朝廷、菊池氏累代の精忠を慕ひ、その祭祀を命ぜらる。依りて明治三年に菊池城

ワ

ワイカン 倭館面

北道遼谷郡の西南部に位置し、大邱府の西北約二五軒にあり。洛東江の左岸に沿ひ南北に長き地を占め、東南に錦州(二六八米)を擁する外著しきものなく、小丘陵起伏す。耕地は河岸の低地及び丘陵の緩斜面に拓け、農産豊かなり。住民は概ね淳朴にして勤勉、農を主業とす。農産物には米・大麥・大豆・粟草及び若干の人蔘等あり。製紙・陶器の製造も行はれまた無煙炭を出す。鐵道京釜本線は面の略中央を横斷し倭館驛(明治三十八年設置)あり。洛東江通航の終點として發達せる河港にして、水陸交通の要衝を占め、道路も亦此地を起點として、東南大邱府、西北金泉邑へ各一等道路を通ずる外、北方仁同、東方多富院及び西南方星州に各三等道路を通じ車馬の往來、貨物の集散處にして市況頗る活氣を呈す。邑内には洛谷郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。舊倭館驛の北方約二軒を距る洛東江岸にあり、江邊に突出せる山を崩城山と呼び、文祿の役に小西行長が星州の敵軍と對陣し一時駐屯せりと傳へよりに世人これを倭館と名づく。

ワイフ 限府町

熊本縣肥後國菊池郡の中央西偏。菊池川と其支流迫間川と

ワイカ—ワイヨ

こゝは米にて、其他、甘蔗・甘蔗は重要なものなり。また海岸砂質地には落花生を多産す。また豆類・蔬菜類を若干出すも其の額大ならず。棧柑・文具・斗桶等の園藝作物も重要産物をなす。畜産は主として農家に於て副業的に營まれるものにして、牛・黄牛・豚・家禽の飼育多く特に豚は本島住民の最も好むところにして、農家に於ける副業中最有利なる事業なり。東に西嶺街、南に虎尾街の郡下商業都市を控ふる本庄下の商工業は、其盛を上記二街に奪はるるを以て、特に摘記すべきものなきも、近年農村の状況を呈すると共に、煉瓦・瓦・製糖工業の如きは漸次好況に向ひつつあり。金融機關は一の信用組合を有するのみなり。教育状況をみると、初等教育機關に公學校を有し、また社會教化機關として青年團・婦人會・國語講習所等設けられ、その活動盛なり。本庄管轄地域は、高麗當時康熙六十年代に建てられたる布喇堡(ゴースト)及び海豊港堡の一部を合したる地域にして、布喇堡地方一帯は、平埔蕃族ロツア部族に屬するゲラツカン(鶴兒干)社即ち南社の所在地にして、該蕃人に依り地名がゴーストと稱せられしに基きて堡名出で、布喇堡に之に宛てたる近音譯字なりと云ふ。本堡は乾隆年間際字を削りて布喇と改め、東西の二堡に分ちしが、我が領臺後、合して布喇の一堡となす。乾隆九年の巡察御史六十七の臺灣蕃社采風圖考に「南社、鶴兒干二社其疆

ワイヨ 淮陽

朝鮮江原道二十一郡の一。道の北部に位置し、東北は通川郡、東は高城郡、西は平康郡、南は楊口郡・金化郡等に接し、北は咸鏡南道安邊郡と界す。東西に長く六〇軒に餘り、南北は平均三〇軒前後あり、面積一九〇〇方軒にして、實に大阪府の面積の一・〇五倍に當るも、總人口八萬餘に過ぎず、道中に於て麟蹄郡に次ぎ人煙稀薄なり。東北境に大白山脈の主脈走りて南嶺山(二〇三六米)・聖山(二二二一米)・錦嶺(一一一三米)等連り東境に至りて金剛山となり、ここに東海の絶頂をつくる。西北境には風流山(二〇二四米)・鐵嶺(最高點六八五米)、南境には馬佩嶺(最高點六九七米)・秀斷巒(二二四一米)・白易山(一一〇九米)、西境には白岩山(一一〇米)等聳え、中

部にも鐵馬嶺(一〇四七米)・白鹿山(二二四一米)等連る。北漢江は東北部山地に發源し始め山脈に並行して北西に蛇曲流したる後、南流に轉じ、金化郡・楊口郡の境にて金剛山に發する支流を容る。鐵嶺西南方一帯の高原地帯は、本郡の産業の主體たる農業の中心をなし、科學的經營による大農場拓かれ、また牧馬・牧牛行はる。農産物は粟その他の雜穀最も多く、また米・麥・馬鈴薯・大小豆・大麻・粟草等あり、養蠶・牧羊・養蜂行はれ、工業には麻布多し。また金銀・マンガステン等の礦産あり、安豊金山・鐵嶺金山は著る。東部の内金剛探勝のために社線金剛山電鐵通じ末羅里・内金剛等の驛設けられ、この兩驛は何れも金剛山探勝の根據地をなす。道路は中部を京城・元山間の一等道路南北に貫き、途中南部の新安上里より東北方の歇地嶺を越えて日本海岸の通川邑に至る二等道路を敷き、國道に沿ひ淮陽よりは西方の京元線洗浦驛へ道路通じ、之等に何れもバス通ずるを以て、交通・運輸は近年漸く便を加ふるに至れり。

つて緩傾斜し、北西部は稍低平と成り耕地能く發達す。北漢江は西境に沿うて南流す。産物は小麦を主とし、大豆これに次ぐ。其他麻及び蜂蜜等あり。礦物には亞鉛・マンガン・硫黄等あり。道路は西北部の淮陽を中心として北方元山、南方金城・金化に一等道路を通じ、南部の新安よりは東北方の通用に二等道路を通じ、また西方の京元・韓洗浦等へも道路を通じ、何れもバスの便ありて交通は比較的便なり。兼落は北部に密に南部に疎なり。淮陽は漢江左岸に位し、郡廳・地方法院出張所・金融組合等あり。

ワカ 和歌浦

【和賀郡】 岩手縣十三郡の一。陸中國の西部。西は秋田縣に、北は岩手郡・神宮郡、東は上閉伊郡、南は江刺郡・鹿角郡に隣接す。面積一、一八三・三〇方町。郡の西部は奥羽山脈の東斜面に、中部は北上平野、東部は北上山地に屬し、西部には北より和賀嶺(一四四〇米)・藥師嶺(一一二四米)・甲山(一〇二〇米)・鹿ノ子山(九三八米)・眞妻嶺(一〇六〇米)・女神山(九五六米)・刺倉山(七七一米)・白木峠(六〇二米)・三森山(一〇二二米)等連りて東方に傾斜し、西南境には三界山(一三八一米)・細塚山(一三三三米)・駒ヶ嶺(一一三〇米)連る。和賀川は西北境に發源して郡の西部を南流し、ついで流路を東に變じ、北方より本内川・尻平川、南方より夏川等を合して東流し、北上川

に合す。北上川は平野の東縁を南流す。東境には北より鷹巣ノ山(四二七米)・三郡山(六六八米)・砥森山(六七〇米)等あり、西方北上川との間には丘陵起伏し、巖ヶ石川は東南方より來りて丘陵の間を屈曲しつつ西北に流れ、北上川に合す。中部平野及び河川の沿岸には耕地拓け、米・麥・大豆・粟・稗・小豆等を産し、東部山地には木炭・木材・馬等を産す。西部山地には銅鐵等の埋藏多く、土知銅山、仙人嶺山等はその代表鐵山たり。陸羽街道は平野の東部を南北に通じ、黒澤尻町よりは西方横手町(秋田縣)へ平和街道分岐す。陸羽街道に略並行して省線東北本線通じ、黒澤尻驛あり。國道より西方横手町に省線横濱線分岐す。日本後紀、弘仁二年紀に和賀郡名始めて見ゆ。延喜式・和名抄には郡名見えず、東鑑にまた郡名あり。或は和賀に作り、また誤りて知我とも作る。明治十三年四月分ちて東西二郡とせしが、明治三十年再び舊に復す。

ワカ 和賀

【和賀川】 岩手縣の中央を東流する北上川の一支流。秋田縣境和賀嶺の東側に發源し、眞妻山脈の東方に沿うて南流し、大葛附近より急に東流し峡谷を穿ちつつ曲流し、黒澤尻附近にて北上川に入る。流域一〇三町。その上流に曾て川舟斷層を生じ、眞妻山脈西麓の千屋斷層と共に明治二十九年の陸羽大地震を起せり。

ワカイズミ 若泉村

武蔵國兒玉郡の西南隅。神流川の東岸に

ワカコー 若郷村

年設置)を置く。

ワカサ 若狹

【若狹國】 北陸道七箇國の一。略して若州ともいふ。國內を三方・越前・大飯の三郡に分ち、福井縣の管轄に屬す。若狹國名の國史に現はれたるは書紀、垂仁天皇紀にして、歸化人天日槍が住所を求むる爲、天皇の允許を蒙り近江國よりこの國を経て但馬國に至れる記事を最初となす。國造本紀には允恭天皇の時、北陸道經營の先驅者四道將軍の一人なる大津命の高佐伯自來命の子荒磯命を若狹國造に定め給ふとあり。蓋し若狹は越の入口に當り、大津命の子孫のこの國を治むること當然といふべし。之より先、書紀、履中紀に、膳臣余磯に稚櫻の嘉名を賜ふと見ゆ。これは後の若狹にして國名の起原なりといふ。而してこの余磯は荒磯命と同一人にして、磯は磯の誤記なるべしといはる。國郡制定の時この國は越前・三方の二郡を管せしが平安時代の初に五里大飯郡を置きて三郡となる。國府は遠敷郡遠敷郡にあり、いま今富村の大宇府中の邊に置かる。鎌倉時代の初め惟宗忠季を國守とせしが、將軍藤原頼經は寛喜年中に惟宗氏の封を奪ひて之を北條經時に

ワカクサ 嫩草山・若草山

ワカクニ 吾國山

はては西松浦郡に接す。四周山岳を以て圍まれ中央へ傾斜す。東南部には徳連山あり。東北境には八幡山(七六四米)の秀峰聳え、北境の中央には眉山(五一八米)屹立す。中央西偏には東南に發して西北流する一河川あり、西隅を掠めて屈曲しつつ北流する松浦川に合し、流域は小平野をなす。田畑よく拓け米・麥・蕎麥を産す。縣道は河川に沿ひて走りて武雄町と西方の伊萬里町へ通ずるバスの便あり。途中にて一縣道が分岐し、東走し小城町方面に至る。(川古の大樽)指定天然記念物。大字川古にあり。日通約二一、高さ二四米半、佐賀縣唯一の巨樹と稱せらる。

ワカク 若栗村

ワカク 吾國山

ワカク 若栗村

富山縣越中國下新川郡の西北部。黒部川の左岸。三日市町の東方約三町に位す。西南境に僅の丘陵ある外概ね平坦なる黒部川扇狀地にて東北境を黒部川割流しつつ西北に流る。村内殆んど水田にして米を主産し、黒部西瓜の特産もあり。南部山麓に沿ひて東西に並走する縣道及び社線黒部鐵道ありて後者の若栗驛・吾國驛(共に大正十一

て、南は秩父郡に、西は川を隔てて群馬縣多野郡鬼石町等と隣す。全村山地にて東境は約五九〇米あり。西方に傾斜して西境を北流する神流川の谷に臨む。山地一帯森林多し。中部及び北部の川沿ひに精平地ありて養蠶・農業行はれ、麥を産す。縣道は中部を西走して鬼石町に通じ、また東隣本泉村を経て東北方の兒玉町に通す。山地は一般に交通不便なり。此地に武蔵七黨兒玉黨の一なる若泉氏の起りし地とす。延元二年北畠顯家卿鎌倉を攻落して上洛する事となり、白川關を立ちて利根川左岸に至る。此時、長井齋藤別當實永及び其弟豊後次郎は顯家卿に従ひ來りしが、實永、敵に先んじて渡河すべきを大將に進言す。大將これを容れたるが何時も先陣を遣へる部非十郎・高木三郎が既に先陣せる後なり。長井兄弟これを見て人の渡りたる所にては高名ならすと二三町ばかり上なる瀬を渡りけるが、徳巻く波に逐に溺れて行方知れずなれり。されど人々は流石に奮勇別當實盛がとそその男々として賞讃せし由、太平記に見ゆ。かの長井實永は本村の附近の人に於て、其子孫、長井豊後守政實及び長井右衛門尉信實など、また此附近に住せし如く傳へらる。

ワカエ 若江

【若江(郡)】 河内國(大阪府)の古郡名。續紀、養老四年紀に郡名見ゆ。和名抄は和加衣と註し弓削・羽野・新治・巨麻・川俣・錦部の六郷及び餘戸一を管す。明

治二十九年に河内國を南・北・中の三郡に分ちし時、中河内郡に入る。【若江村】 大阪府河内國中河内郡の中央西北偏。布施市の東隣なり。地形低平にして一望沃野をなし西部に東南流する河川あり。米・麥・野菜其他の農産多く、また工業頗多し。縣道は中央を縱走して八尾町へ通じ、布施市・大阪市へはバスを通す。古くは和名抄、若江郡錦部郷の内とす。姓氏錄にも若江造と見え、若江郡の舊邑たるを知る。足利氏の時、守護富山義深、其家臣遊佐氏を守護代として此地に城を築らしむ。寛正元年、富山政長・義就家督を争ふ時、義就當城に入りて、遊佐國助に倚る。のち政長は當城を攻めて陷る。文明元年九月、義就入京するに及び城その有に歸す。天文の末、三好長慶の子義長この城に居る。永祿四年松永久秀、義長を殺して義繼を立つ。爾來三好氏この城に在り。天正元年七月、足利義昭、織田信長に放たれて此地に遁はれ、のち毛利氏に倚る。同五年十月、元久秀、信長に滅ばされ、城また廢す。元和元年、大阪夏の役、この地の若江堤に於て西軍の木村重成、東軍の井伊直孝と戦ひて遂に此地に戦死す。(若江鐵道社)大字若江南に鎮座。郷社。祭神、足仲誓命・息長帯姫命。式内社。例祭、十月十一日。

ワカキ 若木村

佐賀縣肥前國杵島郡の西北部。武雄町の北方約一軒餘にあり、東は小城郡に界し、北より西北にか

ワカキ 若木村

若狹國一國及び敦賀郡はこれを敦賀縣の管下とす。既にして明治十四年二月には福井縣を福井に置き若狹國及び越前國を併して以て今日に至る。【若狹灣】 日本海の若狹の國に面する灣。灣口は三八海里、奥行二〇海里、奥には小灣の出入多し。深さ一五〇米以内にて五〇―一〇〇米位の所多し。陸水注入のため鹽分は日本海の三三・七%に比し約三一―三二%に過ぎず、水色は四號以下にて透明度一〇米内外。水温は冬季は一〇度位に冷却す。灣口を對馬海流が東流し、灣内はそのため大環流を形成し灣口にては東、灣奥にては西に流れ、灣口にては流速一時間一・五―二哩、灣奥にては時速〇・五―一哩程度なり。灣奥は著しく植物性浮遊生物に富み、底質は泥砂質にして細砂の區域には銅類、粗砂區域には金頭・鐵、深度一〇―一五〇米内外の砂泥混合の海底には蟹・鰻多く、二〇〇―三〇〇米の冷泥乃玉泥砂の海底には鰻・蟹多し。その他鰻・鰻・柔魚等の遊魚多し。灣奥は出入多く良港に富み、しかも日本海岸より京阪地方への物資輸送に最も近く便利なる位置にあるため、敦賀は昔より回送米を揚下する商港として榮え、現在ソベリヤ・北鮮・滿洲等の交通盛なり。また小濱・宮津等は漁港にして近年その重要さは減少せるも、舞鶴は今なほ要港として主なる東日本の保護なり。なほ小濱その他は京阪人の海水浴場として賑ひ、宮津灣奥の天橋立は日本三

生産額年比較(價額單位千圓)
昭和十四年 昭和十五年 昭和十六年
農産物 49,238 28,745 34,358
畜産物 1,917 1,736 1,927
林産物 23,806 9,352 16,095
漁業 922 1,022 1,730
工業 13,640 7,978 7,178
計 173,333 118,389 173,015

戸数は専ら副業を合して約七八、四〇〇戸、一戸當りの耕地は田三反九畝歩、畑二反四畝歩、計六畝三畝歩にして全国平均の一町七畝歩に比すれば、頗る狭小なり。農産物には米(一七〇〇萬圓)・小麦(四八三萬圓)・粟(三四九萬圓)・麥(二五六萬圓)・除蟲菊(八二萬圓)・大豆(六五萬圓)・甘藷(五六萬圓)等を主たるものとす。計三四三五萬圓に達するも、主食物の米も自給自足の域に達せず、たゞ柑橘は古く栽培され「神の暗いのに白帆が見ゆるおれば紀の國蜜柑船」の俗語と共に夙く江戸市民の歡迎をうけ來れるものにて、有田郡を主とし海草郡加茂谷、那賀郡の紀ノ川沿岸に多く産出され米に次ぐ重要農産なり。また除蟲菊は縣の特産にて明治二十年有田郡保田村に栽培したるを嚆矢とし有田・日高兩郡を主要産地とし、縣の産額は全国中の第四位を占む。山林産物。古來木の國とよばれ、全面積の

七〇%に當る廣大の林地を擁し、杉・檜は東西本妻・日高・有田・伊都の諸郡に産し、薪炭用の赤松は伊都・那賀・海草三郡の大部、有田・日高・東西本妻の各部の山地に、建築材・薪炭材となる黒松は海草・有田・日高・東西本妻の諸郡の沿海に自生するもの多く、外に棕櫚皮・棕櫚葉等もあるも交通なほ不便にして、運搬の便開けざるため産額は縣下生産額の七%に過ぎざるは遺憾なり。(3)水産業。海岸線四九七軒の長きに達すると海岸に近く黒潮の流れて魚族に富むと、時勢の進運に伴ふ漁具・漁法の改良と、養殖の普及により沿岸漁業は榮え、また遠洋漁業に出漁するもの増加し年と共に盛況を呈す。(4)工業。工業は縣下第一の生産にしてその産額は實に一七、三〇〇萬圓の巨額に達し、綿糸・綿織物・染物・メリヤス・指物・酒・製革・除蟲菊製品等を主要工業とす。これ等の大部分は和歌山・新宮・海南の三市にて生産せらるるものにかかり、特に紀州ネルの稱呼を以て全國に名聲を馳せたる綿糸の生産は我國第一に位し、綿織物全體として第十一位を占む。また染物(捺染)は京都府に次

主要工業品 (單位千圓) 昭和十年調査
綿糸 47,253
綿織物 34,862
染物(捺染) 15,389
メリヤス 14,618
指物 6,812
酒 6,219
製革品 5,654
除蟲菊製品 5,286
箱篋類 3,610
菓子類 2,910
紙器類 2,834
洋漆 2,730
機械類 2,559

市と第二位にあり、漆器は海南・新宮二市と有田郡湯淺町にて生産せられ、特に海南市に多く黒江塗の名を以て著され、産額は静岡・愛知・京都・石川・福島に次ぎ全國中第六位に居る。(交通)山地多く陸上交通は一般になほ便利ならず。和歌山市を中心と大阪・大和・淡路・高野・熊野等の六街道あり。この外縣内主要地よりは自動車を通ずるを程度とし道路幅員の擴張を行ひつゝあり、乗合自動車營業これに従ひて勃興し次第に交通の便を益しつつあり。鐵道省線は和歌山より起る紀勢西線は南岸周參見に達し、紀勢中線は新宮・串本間を運轉し遠からずして紀勢線の全通を見んとす。また和歌山線は紀ノ川筋を東に走り野河・橋本・岡田等を経て奈良縣に出で、社線と和歌山線は和歌山より那賀郡貴志に達し、有田輕便鐵道は湯淺町より御靈村に至り、その外電車には和歌山と大阪を繋ぐものに南海鐵道本線と阪和電線あり、和歌山・加太間に加太電線、海南市・那賀郡小川村間に野上電線、和歌山・海南市及び新和歌浦間に合同電線の電車運轉し、また南海鐵道高野線は大阪市より紀

ひ股阪なる商業區をなし、その北方紀ノ川邊の宇治、城東の新町は工場地帯、城西の橋は紀ノ川に沿ひ吉野高野より紀ノ川によりて下る木材の集散地にしてまた製材行はれ、城南の吹上・雄賀は土地やや高燥に學校等多く、その西の砂山には兵營置かる。官公衙には縣廳・地方裁判所・大阪地方專賣局販賣所・歩兵第三十二旅團司令部・歩兵第六十一聯隊等、また高等商業學校をはじめ、男女の各種中等學校設けらる。市は縣下交通上の要衝にして大阪・大和・淡路・高野・熊野・熊野六街道の起點をなし、鐵道には省線と和歌山線(明治三十一年設置)を起點とし、紀勢西線これより被れて、市内に東和歌山線(大正十三年設置)を設け、また社線には大阪市に繋がる南海鐵道本線・阪和電線、加太町に至る加太電線、貴志に達する和歌山鐵道等ありて、みな本市にその起終端驛を置き、合同電線は市内を貫きて南方海南市に通ず。市は縣下第一の工業都市にして明治初年全國都市に對して製造を開始し、謂ゆる紀州ネルの名を博せる綿糸(三一〇〇萬圓)を第一に、染物(一五〇〇萬圓)・メリヤス(一、〇〇〇萬圓)・製革(五六〇萬圓)・建具(四四〇萬圓)・漆器(二三〇萬圓)・藥品(二三〇萬圓)・菓子類(二二〇萬圓)・機械類(二〇〇萬圓)等の生産あり、また木材の本場にして挽角・貫・樺木・板・樽丸等の製材盛に行はれ、その産額また二三〇萬圓に達す(以上昭和

十年の統計による)。農産に米・麥・大豆・甘藷・野菜等(一、二〇〇萬圓)あるも工業産額に比すれば云ふに足らず。この地は古く若山と稱する寒村なりしが、天正十三年、豊臣秀吉紀伊兩國を攻略し其父弟秀長に與ふ。秀長よりて築城を始め和歌山城と稱す。のち淺野氏を経て元和五年徳川家康の第十子頼宣入國し都市の面目完備するに至る。明治維新後、一時衰へしも市民の努力により舊態に復し工業の勃興と共に較々として發展し、大正十年藩村の一部を、昭和二年に雄賀村・宮村を、同八年に鳴神・宮前・岡町・中之島・四箇郡・雄賀時・和歌浦町の七ヶ町村を併合、今の市域に擴大す。此間、紀ノ川改修の功略と成り築港の實現も近き將來に期待せらる。(和歌山城)指定史蹟。市の略中央部、虎伏山上にあり一に竹垣城といふ。天正十三年豊臣秀吉が羽柴秀長を紀伊和泉に封ぜし時、藤堂高虎は羽田一庵を普請奉行として吹上の峯に築城せしめ、翌十四年秀長の城代桑山修理亮重晴により和歌山城と稱せり。のち淺野幸長と徳川頼宣相繼いで入城、元和七年と寛永六年兩度の大改修により規模漸く整ふ。弘化三年藩政して天守再興は許さざりしが、特に講うて翌四年九月再興に着手十一月新初の式を行ひ、嘉永二年十一月上棟、同三年六月一日御家堅御清祿の儀を行ふ即ち現在のものなり。斯く再建年代比較的新しきも概れ舊形によりし

ものにて、天守多門櫓の一部を存存するものとして城郭建築の規模見るべき好個の資料なり。上層より和歌山平野一帯より、西に四國・淡路の山々、沼島・神の島を、北に和歌山山脈、南に長嶽山脈を望み、展望曠濶。城址はいま和歌山公園の一部となり、藩二ノ丸址には商品陳列所・工業試験所・圖書館あり、藩三ノ丸址はグラウンドとなる。(鳴神具塚)指定史蹟。鳴神町にあり。給・牡蠣等の貝殻の外、多数の土器・石器・獸骨類が含まれ近畿地方の縄文式土器出土の貝塚として屈指の遺跡。(西濱の根上り松)指定天然記念物。西濱にあり。海濱の砂丘に生ずる黒松の根の高く現はれたるもの、幹の大なるもの数株あり。根上りの松として代表的なり。(日前・國懸神社)秋月町に鎮座。官幣大社。祭神は日前太神・國懸大神。例祭、九月二十六日。垂仁天皇御代に毛見村濱ノ宮より遷祀す。今の社殿は大正十四年の造営。(剗田比古神社)片岡町岡山の東麓に鎮座。縣社。俗に岡宮といふ。社寶の徳川吉宗寄進の絲巻拵太刀は國寶。(東照宮)和歌浦に鎮座。縣社。徳川家康を祭る。元和七年藩祖徳川頼宣の創建。大正四年頼宣を祭りし南龍神社をも合祀せり。例祭、五月十七日、和歌祭と稱る。現存社殿は慶長年間淺野幸長の再建にかゝる。本殿は桁行五間梁間二間、單層、屋根入母屋造檜皮葺、正面向拜上に千鳥破風を設け、

伊見峠を経て、高野山下の九度山町に達し、こゝに高野山電線に連絡して高野町に至る。海上は大阪・神戸・名古屋間の定期船の縣内沿岸各港に寄航するあり、また和歌浦港と徳島縣小松島港間を神戸・大阪を經由して連絡する汽船の便あり。(沿革)紀伊國の和歌山には徳川親藩の一あり、新宮・田邊には國老居りしが、明治維新後は新宮・田邊が藩屏に列し藩と稱せしが、明治四年七月、一般に廢藩置縣の際、和歌山・新宮・田邊の三縣となる。尋いで同年十一月、以上の三縣を廢し更に和歌山縣を和歌山に置き、紀伊國の大部を管して今日に至る。(和歌山市)和歌山縣の首都邑。縣の北西部、紀ノ川下流左岸のアルマに位し、北は川を隔てて海草郡の淡野・野崎・橋見・有功・直川の諸村に對し、東南に西和佐・岡崎・三田・紀三井寺の町村を繞らし、西は紀淡海峽、南西はその支瀾和歌浦灣に臨む。東西約七・八軒、南北約九・四軒、面積三二・六方軒餘、人口約一八萬。和歌山城址のある虎伏山より南方の岡山・愛宕山・秋葉山に連る砂丘の丘阜ある外は一般に平坦にして北半はや、南東より西北に傾斜す。東方和佐村より來る深層川(和歌川)は北部に於て一部は城深によりて西方紀ノ川に通じ、一部は市の中部を南下して和歌浦に注ぐ。元和五年に徳川頼宣入國以來、五十五萬五千石、御三家の一城下として繁榮せし處。市街はその城下を中心として發展し、城北は内町とい

ワカヤ—ワキカ

群に發し高田群・吉野口群・橋本群・和歌山群等を経て和歌山市群に終る。全長八九・三軒。外に大和二見群より分岐し川編群に終る一・五軒の貨物専用線あり。途中、高田群にて省線櫻井線・社線大阪電氣に、吉野口群にて社線大阪電氣に、橋本群にて社線南海線に、紀伊中ノ島群にて社線阪和電氣に、和歌山市群にて省線紀勢西線に、和歌山市群にて社線南海線に、同加太電氣に各々接続す。

【和歌山鐵道】私設鐵道。和歌山縣の北部にあり。省線紀勢西線の東和歌山群より分岐し、日南宮群・吉野・西山口群等を経て貴志群に至る。省線と連帯運輸し、動力は蒸氣・ガソリン、軌間は一・〇六七米とす。

ワカヤマト 若俊

能登國(石川縣)の古地名。和名抄に珠洲郡若俊郷見ゆ。中世には誤りてワカヤマトといひ若山莊と稱す。其地いま若山村・飯田町・直村・正院村の邊に當る。

ワカラ 輪韓河・和河羅河

↓木津川(山城國)

ワキ 脇町

徳島縣阿波國美馬郡の東部。吉野川左岸の地を占め、穴吹町の北に位し、東は江原町に、西は岩倉村に界す。面積五・九四方軒。北は一〇〇米餘の丘陵並びて南に低下し、その先に河成段丘を作り、更に南は吉野川北岸の沖積平地を占む。北部山地を切つて淡路南下し空谷をなして吉野川に合す。平地は農産盛にて米・繭・桑を産す。殊に繭の産

天龍

を産し、また養蠶も行はる。山陽本線及び縣道は村の東部を南北に走り、バスは岩國町に通ず。古くは和名抄、玖珂郡石國郷の内に當る。明治三十二年に小瀬川村の大字和木・瀬田・關ヶ原を以て本村を建つ。

ワキカタ 脇方

省線京橋線の一駅(大正九年設置)。北海道釧路支庁釧路郡東俱知安村にあり。

ワキガハタ 脇ヶ畑村

滋賀縣近江國犬上郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し彦根市の南部より約七軒東にあり。東部は山脈を距て岐阜縣養老郡と界す。東部には鈴鹿山脈が西北より東南の方向に連り、南境より西境にかけては、之より西方へ並び更に西北方へ連る山嶺ありて村境を限り、中部は南境の高室山より北へ山地が廣がり、北境に瀧尻山を起し一帯に高地にして低地乏し。主産業は木炭焼が行はれ薪炭材多し。米作行はる、山村内の需要をみたすに足らず。山中の僻村なるため交通不便なり。古くは丹谷村と共に丹谷地と稱せらる。美濃に通ずる間道ありて鳥津越といふ。即ち關ヶ原役に鳥津義弘の脱出してこの峠を越えし故に起ると云ふ。

ワキガミ 掖上

【掖上村】奈良縣大和國南葛城郡の東北部。御所町の東南に隣り北と東は高市郡に接す。南境に國見山(二一九米)がそびえ北隅にも小丘あり。其他は地形低平にして東境に沿ひて曾我川が北流す。田畑

ワキミサキ 脇御村

長崎縣肥前國西彼杵郡の南部。長崎港外の野母半島の先端近く橋脚に面す。全村殆ど結晶片岩より成る丘陵地、海岸は臨海の砂嘴と其の先端の島とを見、他は、平直にして山脚に迫るの地形せる階層層の存在により隔れ半島に併行せる階層層の存在により隔れせしもの、斷崖海岸なり。脇御は一のトンボロ内の小嶺地、對岸の小島半島は沿岸汽船の寄港地、其間に通船の往來あり。半島との間の海峡には小島・中島あり、また半島中ノ瀬・平瀬等の散在し強風に際しては航路自由ならず。殊に野母岬より半島近海に至る間は平時も波浪高く航海の難所なり。西方野母は野母岬奥に位する自然の嶺地にて長崎との間に毎日定期船を通ず。長崎へは陸路野母に出で、野母より乗船するが、又半島より海路による。陸路は縣道の他見るべきものなし。産業は牛養牛油、特に漁業は樺島・野母と共に沿岸漁業行はれ多く長崎に送らる。臨海の集落は砂嘴上に建てられしもの、其の發生は漁村または交通的要所として起りし所ならん。また集落の附近に僧行基の開基による肥の御前圓通山觀音禪寺あり、元亨釋書・體源抄等に記載す。遠近よりの參詣多く、村は之によつて世に著る。太宰管内志に云「風土記の浮穴郷は長崎以西の野母半島の地ならん」と其の沿革明かならず。(觀音寺)曹洞宗。圓通山と號す。和銅二年に行基の草創と傳ふ。弘安四年に高麗兵の對馬

ワキモト 脇本村

秋田縣羽後國南秋田郡の西部。男鹿半島の南部に位し、東は船越町に、西は船川港町に接し、南は日本部に面す。西北境に寒風山(三五五米)聳え、東方に傾斜し、村の西部は山地をなすも、東部は平坦にして水田拓く。村の産業は農を主とし、米を産す。他に石村(安山岩)・天草などの特産物あり。船川街道は村の南部を東南に通じ、男鹿街道はこれより分岐して村の東部を北に向ふ。省線船川線脇本群(大正三年設置)を置く。本村附近に露出する砂質頁岩を脇本層と呼ぶ。上部は殆んど砂層を挟まぬ塊状砂質頁岩より成り、下部には薄き砂層を挟む。厚さ六〇〇米、下位は北浦層に、上位は船川層に接す。また

を徒すや、當山より光を發して賊軍の近づきを防ぎたりといふ。のち僧徒倫倫、菩提寺三世の一翁芳徳を請じて現宗に改む。本群、千手十一面觀音。

ワキモト 脇元村

青森縣陸奥國北津輕郡の北部。津輕半島の西北部に位し東北は東津輕郡に接し、西は日本海に面す。東北境に四ツ瀧山(六七〇米)聳えて西南に傾斜し、北境には板割山(一七八米)聳ゆ。全村概ね山地をなし、磯松川は東北部に發源し、村の中部を西南に流る。海岸は平直にして砂灘をなす。米・木材・水産物を産す。道路は海岸を南北に通じ、南方の五所川原町(約三四軒)に接し、津輕鐵道津輕中里驛(約一八軒)各バスの便あり。

ワキモト 脇本村

秋田縣羽後國南秋田郡の西部。男鹿半島の南部に位し、東は船越町に、西は船川港町に接し、南は日本部に面す。西北境に寒風山(三五五米)聳え、東方に傾斜し、村の西部は山地をなすも、東部は平坦にして水田拓く。村の産業は農を主とし、米を産す。他に石村(安山岩)・天草などの特産物あり。船川街道は村の南部を東南に通じ、男鹿街道はこれより分岐して村の東部を北に向ふ。省線船川線脇本群(大正三年設置)を置く。本村附近に露出する砂質頁岩を脇本層と呼ぶ。上部は殆んど砂層を挟まぬ塊状砂質頁岩より成り、下部には薄き砂層を挟む。厚さ六〇〇米、下位は北浦層に、上位は船川層に接す。また

ワキガミノムロ 掖上室山

大和國(奈良縣)の古地名。書紀、履中天皇の三年冬十一月、天皇勢余市磯池に船を泛べて遊宴し給ふ。時に櫻花御臺に落つ。往しみて此の時不時の花の所在を憶さしめ之を掖上室山に得たり。天皇喜び給ひて宮名となし、勢余權權宮といふ。この山はいま葛城郡秋津村大字室にあり。

ワキサワ 和木澤村

福島縣岩代國安達郡の南部。本宮町の東に隣り、南は田村郡に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、東北部に岩角山(三三七米)聳え、村内概ね丘陵をなす。阿武隈川は村の西境を北流す。米・繭・養蠶草・薪炭を産す。道路には村の中部を東西に通ずるもの、及び南部を東南に通ずるものあり。西方の省線東北本線本宮群、東北方の小瀬町及び東南方の田村郡三春町へは各バスの便あり。大字和木は古名岩津野といふ。天正十三年伊達政宗の、仙道の大家と本宮高倉に對陣の際、此地より河を跨ぐて本宮に入りしこと成實記に見ゆ。

ワキノサワ 脇野澤村

青森縣陸奥國下北郡の西南端。下北半島の西南端に位し、西は平館海峽、南は陸奥灣に面す。村内概ね丘陵をなし、脇野澤川は西北境に發源し、村の略中部を南東南に流る。海岸には山地迫り斷崖をなす所多く、西北に大崎、西南に北海岬・牛頭崎等の突出あり。村の産業は水産業・農業・林業等にして、鱒・鱈・干・同校箱等の水産物、米・木材を産す。道路は村の南部を東方に通じ、東方大崎町へは約三四軒、自動車と定期船の便あり。南方青森市へは頻りに定期船通す。

ワキノタ 脇野田

新潟縣中頸城郡和田村の大字。省線信越本線の脇野田驛(大正十年設置)あり。

ワキカ—ワキモ

は多し、山地は木炭を産しまた牧牛を營む。市街は段丘上に開かれ、これを通りて東西に横街街道通す。市街には酒の製造業もまた繭の集散地なり。省線徳島本線は對岸穴吹町を通過し各方面にバスを通す。古くは和名抄、美馬郡大島郷の内とす。古くは和名抄、和名抄、和名抄の内に於て警て郡役所を置かれたり。幕末の勤王家工藤剛太郎(無從五位)は此地の人とす。(脇城)大治四年十二月、藤原家茂は讃岐守となり、其子章隆ここに據り子孫土家となる。文明中、其裔仲房は伊豫に去り、後三好長慶の屬黨となる。弘治二年、武田顯信此處に居り、天正中、長曾我部元親の屬黨となる。同十二年、秀吉の四國を伐たんとするや、此處に長曾我部新右衛門尉を置きて守らしむ。既にして四月、羽柴秀長・宇喜多秀次等の兵來り諸城を抜くに及び脇城また風を望んで退散す。同十三年、蜂須賀家政は阿波に討せらるるや、船田航元をして守らしむ。(阿波九城の一たり、寛永年中に廢す。(八幡神社)大字猪尻に御座。郷社。祭神、息長足親命外二神。式内社。〔最明寺〕猪尻にあり。古義讀音宗。毘沙門天立像(木造)一軀は藤原期作にて國寶なり。

ワキノサワ 脇野澤村

青森縣陸奥國下北郡の西南端。下北半島の西南端に位し、西は平館海峽、南は陸奥灣に面す。村内概ね丘陵をなし、脇野澤川は西北境に發源し、村の略中部を南東南に流る。海岸には山地迫り斷崖をなす所多く、西北に大崎、西南に北海岬・牛頭崎等の突出あり。村の産業は水産業・農業・林業等にして、鱒・鱈・干・同校箱等の水産物、米・木材を産す。道路は村の南部を東方に通じ、東方大崎町へは約三四軒、自動車と定期船の便あり。南方青森市へは頻りに定期船通す。

ワキノタ 脇野田

新潟縣中頸城郡和田村の大字。省線信越本線の脇野田驛(大正十年設置)あり。

天龍

この附近より寒風石を出す。黒色緻密の安山岩にて、寒風火山の熔岩と其岩塊なり。土木用、墓石として用ひらる。村内に藤本城址あり。一に太平城といふ。元龜・天正の比、安東五郎備前守の居城す。天正年間、城介實季これを攻略す。城址は承應二年の海濤、文化七年の大震等に海中に没せり。

ワキヤマ 脇山村

福岡縣筑前國早良郡の東南隅。北隅は福岡市の西南部に接し、東は筑紫郡に、南は佐賀縣神埼郡に界す。南境には春振山脈が西北より東に連りて縣界をなし、其中央に春振山(一〇五五米)聳ゆ。春振山より東北へ連る山嶺は東境に達し、更にこゝより東南に連りて郡界をなす山脈は西北部一帯と東南隅との分水嶺をなし、那賀川はこゝに發して東南流し約三軒先にて北折し福岡市を流れて博多灣に注ぐ。北隅に油山(五九二米)一帯の山地ありて西南へ傾斜す。中央北隅には平野開け西隅の内野村の低地に續く。産物には米・麥・蕎麥・木村・薪炭等あり。福岡市へバスを通ず。古くは和名抄、早良郡曾我郷の内とす。もと地名と呼ばれ、脇山村と稱したり。近くは大正天皇、大嘗會の主基齋田と定められし地なり。

ワク 和久

丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡和久郷あり、中世には和久莊といふ。其地いま福知山市の南部に當り、同市の大字に和久寺・和久市等の和久は地名の遺稱を語るものなり。

ワケ 和具村

三重縣志摩國志摩郡の南部。御座半島の中央に位し北は英虞灣に南は太平洋に面す。地形は臺地狀の丘陵地にて南岸は單調にして岩礁多く北岸は稍々屈曲多し。主郡落は南岸にあり。漁業を主産業とし沿岸漁業最も盛にて遠洋漁業これに次ぎまた養殖漁業(七萬圓)も行はる。産物は鮫・鰻・鰯・鰱・鰪・海産類等にして年額十六萬四千圓を産し、特産物に眞珠玉ありて六十七萬五千圓を出す。英虞灣北岸なる社線志摩電氣鐵道の賢島驛へ船航の便あり。

ワクツ 涌津村

岩手縣陸中國西磐井郡の南部。若柳町(宮城縣)の東北約七軒。西南は宮城縣に接す。陸前平野の北部なる追川低地帯の北邊をなし、村の中部に雷神森ありて丘陵南北に連り、追川一支の夏川は西境を南流し、北上川一支の金流川は東境を東南に流れ、各沿岸に耕地拓く。米・麥・大豆を産す。道路は東部を東南に通じ、西北方の東北本線花泉驛へバスの便あり。古くは和名抄、磐井郡仲村郷の内なり。

ワクヤ 涌谷町

宮城縣陸前國遠田郡の略中部。小牛田町の東に隣り、東南は桃生郷に接す。陸前平野の中部なる大崎平野の東部に位し、東南部に花野山の聳ゆるほか全村概ね平坦にて江合川は北部を東南に流る。米・麥・蕎麥等の産あり。道路は北部を東南より西北に通ず。省線石巻線の涌谷驛(大正元年設置)を設く。古くは和名抄、小田郡牛甘郷の内とす。

ワケ 和氣

伊豫國(愛媛縣)の古地名。日本書紀には伊豫郡とあり、天平十九年法隆寺資財帳に和氣郡名見ゆ。中世また和介部にも作る。和名抄は和計と註し、高尾・吉原・船原・大内の四郷を管す。明治三十三年に附近の數郡と共に温泉郷に入る。

ワケ 和氣村

愛媛縣伊豫國温泉郡の西部。松山市の西北方約五軒に位し、南西は三津濱町に、東は堀江・潮見二村に界し、北は堀江灣に面す。西部には一〇〇米餘の丘陵南北に起伏して中央に傾斜し、東は松山平野の北部を占め低平肥沃なる平地をなす。北岸は單調なる砂濱海岸をなし中央に入江あり。平地は耕地よく拓けて農業盛なり、米作を第一とし麥を産す。堀江村より縣道來りて中央を東北より西南に貫通して三津濱町に至る。省線豫讃本線は中央を南北に縱貫し、伊豫和氣驛(昭和二年設置)を設く。三津濱町へバスを通ず。古くは或は和名抄、和氣郡吉原郷の内か。(勝國八幡神社)大字大山寺に鎮座。神社、祭神、小子御子外四神。例祭、十月五日。(大山寺)大字大山寺にあり。新義真言宗智山派。護持院と號す。當寺は四國通路第五十二番の札所にして、用明天皇の御宇、豊後の眞野長者が觀音の靈驗を得て創立し、天平勝寶元年、行基菩薩、聖武天皇の勅を奉じ、十一面觀世音立像・四天王像を彫刻して納む。のち後三條・堀川・鳥羽・崇徳・近衛・後白河の帝みな同形の十一面觀世音

ワケ 和氣

もと馬場谷地村と稱す。天正十九年伊達氏の一門眞理元宗、眞理郡よりこの地に移り、慶長十九年その子安藤定宗、姓伊達氏を賜はり、其孫、安藤重宗に至り二萬二千餘石を食む。爾來子孫相繼ぐ。

ワケラ 和倉町

石川縣能登國鹿島郡の中部。七尾灣西側に臨む。七尾町の北西約一〇軒にして七尾灣西・南兩灣を分つ石崎半島の西中を占め、尖端に和倉温泉あり。背後に低き丘陵を負ひ前面に能登島の翠巒を望み静波寄する處、風光明媚を以て知らる。西南部灣頭には低地も開け水田あり。米を主産し、建具の特産あり。省線七尾線は略中央を東西に貫き和倉驛(大正十四年設置)を石崎村の地籍に、田鶴濱驛(昭和三年設置)を町内に置く。また七尾町・鳥屋村より縣道來り更に灣岸を北走して穴水・宇出津等へ通ず。七尾町よりはバスの便あり。海上舟運の便多し。昭和九年に端村・田鶴濱村・赤蔵村を合して和倉町を建つ。(和倉温泉)無色透明の食鹽泉にして療養並に行樂向。もと涌浦と呼び約千二百年前、平城天皇の御代、圓山、藥師嶽の西溪湯谷より湯が湧き、これが天正年間、地震のため閉塞されて海中に轉じ、のち海を埋め温泉場の面目を呈するに至る。

ワクリ 若菜

尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に葉栗郡若菜郷見ゆ。調を關くもワクリと調むべし。その地評かならざるも、いま葉栗郡淺井町・葉栗村の邊なるべし。

ワケ 和氣

岡山縣十九郡の一。備前國の東南隅。瀬戸内海に南面し、前面海上の鹿久居島・鴻島その他の小島を含み、東は兵庫縣、北は美作國に界す。西は吉井川を以て赤磐郡に、西南は邑久郡に隣接す。面積三七三・八八方軒。人口四八二・二八。香登・伊部・片上・日生・三石・和氣の六町及び十二箇村より成る。吉井川西境を南流し、一支流は郡中を西に貫流して之に合し、沿岸に廣潤なる平地を有す。南部また海岸平野を存し、共に耕地多し。北部に山脈東西に連りて妙見山(五一九米)等聳えて地勢高く、東境にまた山地縱走す。船板峠を以て古來兵庫縣との唯一の交通路となせり。地勢東北部より西南方に傾斜す。和氣町は西境吉井川の本支流流域に發達し、三石町は船板峠の西麓に存す。共に古來美作・播磨・備前・備中國間の交通路として榮えし地なり。片上・伊部・日生・香登町は何れも海岸に相連れり。片上町は片上灣に臨み、片上線を以て山陽本線との連絡を有し、物資集散の要港たり。一般に農業盛んにして米・麥・蕎麥・梨・薄荷及び酒類等の産多し。東北山地は山林地に屬し、木炭を産す。山田村には辨柄製造會社あり。三石町は煉瓦・磁石製造、伊部町は伊部糖(備前糖)の産地として知らる。省線山陽本線は船板峠より郡の中央を東西に貫通し、三石・吉永・和氣驛を設き、また社線片上線は片上驛・清水

ワケ 和氣

平野面には農業盛にて、米・麥・菜種・紫雲英・柿を産す。交通路は北部に中仙道が東西に通じ、東呂久の渡より此地を通り西赤坂宿に至る。本村は鎌倉時代は津布良開發御厨と云はれ、神風抄にその名見ゆ。此の地域は河川に挟まれ低湿地たりしが漸次開發されし事を知るべく、開發とはこの干拓による開發を意味するものなるべし。開發は上開發と下開發に分れ各々新田を持ち、下開發はもと二木庄に屬す。曆應四年八月七日攝津掃部頭親秀の議狀に「後家分美濃國開發御厨云々」と見ゆ。大島は島地名にて開發當時に川島をなせしものと見え、郡村記には柳瀬庄とあり、攝津掃部頭親秀議狀には「惣領能直分美濃國島柳瀬庄云々(築瀬大島)」と記す。大字の津は古くは津不良または津布良とも書き、神風抄にも「美濃國津布良開發御厨内」但建久以後神領」と記し、東鑑にも「建久三年十二月十四日壬子一條前實門書狀參看、云々、美濃國小泉御厨能津不良領云々」と見ゆ。江戸時代は何れも大垣藩領たり。(八幡神社)大字上開發に鎮座。神社、祭神、應神天皇。例祭、十月十五日。

ワケ 和佐村

和歌山縣紀伊國海草郡の東部。和歌山市の東約一軒にあり、東部は那賀郡に界す。南部には小丘あり、東南隅は城ヶ峯(二五五米)の山地なり。中部・北部は平野にして北堀み紀ノ川が西流す。低地は耕地よく拓け柑橘の産多く、米等も出し林産・工産もあり。中

【和氣】 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に那賀郡和氣郷あり、和氣清麻呂は本郷の人。中世には和氣莊といひ熊野領たり。其地いま赤磐郡豊田村なるべし。

部・北部には東西に縣道が走り之等と交又して南北に通過する縣道ありてパスの便あり。省線東山線は北部を横断し布施屋驛(明治三十二年設置)あり。和佐は古く庄名に呼ばれたり。南山部狩野に正平六年、紀伊國布庭屋郷地頭職を二見太左衛門太夫に下し賜ふと見ゆる布庭屋郷は大字布庭屋にして、書紀、安閑天皇二年の條に「置紀國經國屯倉」とある經國もこの地とす。(編定嶺山)大字編定に本據を有す。嶺山は富村と東山東村とに跨りて三六萬餘坪、嶺種は洞窟化して、昭和十年には嶺渡四三七延(價額一萬四千餘圓)を産出し、同年六月末の嶺夫数は四一人、現に重要嶺山に列し、編定嶺業會社の稼行に係る。

ワサ 和射 阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に那賀郡和射郷あり、諸本調を缺くも高山寺本に射讀んで左の如しとあるによりワサと訓す。いま立江町・羽ノ浦町・坂野村の地に當る。

ワサ 和佐 和歌山縣日高郡丹生村の大字。省線紀勢西線の和佐驛(昭和五年設置)を置く。

ワサ 植田村 大分縣豊後國大分郡の中部。大分川の南岸に沿ひ、大分市の西南に接す。南部の中央は細く南へ突出して東植田村と野津原村との間に侵入す。西部は山地の東北斜面地をなし、高燥地なり。南部の侵入地には中央に靈山(五九六米)が聳ゆ。東北部にも嶺ヶ丘陵あり。北境に沿ひて大分川が屈曲しつゝ、

東々北流し、沿岸に平野開け殊に東中に廣し。その一支流は南部を貫きて東北流し東境に出て之に沿ひ更に屈曲しつゝ、東北して大分川に合す。沿岸平野よく發達す。田畑よく拓けて米・麥・蕎麥を産しまた木炭を出す。大分市より直入郡竹田町方面に至る縣道が本村を貫き、中部にて之より分れて西走し以珠郡玖珠町方面へ至るものあり。省線久大本線南大分驛・貫來驛・向之原驛は共に遠からず。古くは和名抄、大分郡植田郷の地なり。中世は植田庄と稱す。

ワサミ 和麩・和射見・和射美 美濃國(岐阜縣)の古地名。書紀、天武紀に和麩の地名見え、高市皇子不破關に至りて此の地に屯して軍を置すとあり。其の地詳かならず。不破關國々原町の中なるべし。和射原原・和射見野は此の地を云ひしものにて、萬葉・一「わさみ」が笠の借手の和射見野に書は入りぬと妹に告げこそ」とあり。

ワシ 鷺 一に伊地知山・伊地知山とも云ふ。福井市の北東方約一六軒、福井縣大野郡北郷村と吉田郡淨法寺村との境上に時つ、標高七六九米。北西方に淨法寺山(一〇五三米)を仰ぐ。九頭龍川は南麓を西流し、これに沿ひ時山街道と京都電燈越前電氣線と並び通す。川を隔てて南方に大佛寺山(八〇八米)對峙す。この地は個時節の櫻り所と傳ふ。

ワシノス 鷺巢 阿蘇火山帯の一峯。國東半島の北端、大分縣國東郡上伊美村と竹田津町との境上に時つ。標高四三七米、山體火山岩より成る。南方に黒木山(五〇八米)・伊美山(四九七米)に連なり。

ワシノミヤ 鷺宮町 埼玉縣武蔵國南埼玉郡の北隅。南は久喜町に接し、東は北葛飾郡、北は北埼玉郡と隣す。東は全町平地にして古利根川は東境を南流し水田・畑地拓け、農業盛にして米を主産し、蕎麥の産多し。その他、清酒の醸造も行はる。縣道よく發達し南は久喜町、西北は北埼玉郡加須町、東南は北葛飾郡幸手町、東北は同郡橋本町等に通す。社線東武鐵道伊勢崎線は中央を西北に走り、鷺宮驛(明治三十五年設置)を置く。昭和八年町制を布く。古くは和名抄、埼玉郡太田郷の内なるべし。明治天皇、明治二十九年幸手行幸の際この地に御小休遊ばさる。(鷺宮神社)大字鷺宮に鎮座。縣社。祭神天穗日命・武甕槌命。古傳に洪水ありとも水鳥居より内に入らざるにより一に浮島明神と稱す。後陽成天皇朱印四百石を授けらる。太刀一に國寶なり。例祭三月二十八日。尙十二月初四日をおぼとり祭と云ふ。蓋し大鳥の義なり。舊稱を土師の宮と云ひ、四月及び十月の十日に土師一流の熊馬神樂十二座を執行す。

ワシノス 鷺巢 阿蘇火山帯の一峯。國東半島の北端、大分縣國東郡上伊美村と竹田津町との境上に時つ。標高四三七米、山體火山岩より成る。南方に黒木山(五〇八米)・伊美山(四九七米)に連なり。

ワシノミヤ 鷺宮町 埼玉縣武蔵國南埼玉郡の北隅。南は久喜町に接し、東は北葛飾郡、北は北埼玉郡と隣す。東は全町平地にして古利根川は東境を南流し水田・畑地拓け、農業盛にして米を主産し、蕎麥の産多し。その他、清酒の醸造も行はる。縣道よく發達し南は久喜町、西北は北埼玉郡加須町、東南は北葛飾郡幸手町、東北は同郡橋本町等に通す。社線東武鐵道伊勢崎線は中央を西北に走り、鷺宮驛(明治三十五年設置)を置く。昭和八年町制を布く。古くは和名抄、埼玉郡太田郷の内なるべし。明治天皇、明治二十九年幸手行幸の際この地に御小休遊ばさる。(鷺宮神社)大字鷺宮に鎮座。縣社。祭神天穗日命・武甕槌命。古傳に洪水ありとも水鳥居より内に入らざるにより一に浮島明神と稱す。後陽成天皇朱印四百石を授けらる。太刀一に國寶なり。例祭三月二十八日。尙十二月初四日をおぼとり祭と云ふ。蓋し大鳥の義なり。舊稱を土師の宮と云ひ、四月及び十月の十日に土師一流の熊馬神樂十二座を執行す。

ワシマ 輪島町 石川縣能登國鳳至郡の北海岸。能登半島北部に於ける首邑にして背後に丘陵を負ひ河原田・鳳凰兩河の合して海に注ぐ。西側には輪島灣海上に突出し小海を抱く。町は商工業盛なる地域と漁業を營む郡落とに分れ、古來堅牢を以て世に名高き輪島産の産地にして其の産額は年三百萬圓に達す。原料の漆はもとこの地方に産せしが、今日加賀・越前・大阪・奥羽或は支那等より求め勝れたる製法のみ尙傳へらる。之に次いで水産類多く町内海士町は北方海上の輪島(輪島町に屬す)に渡る海士の郡落なり。また養蠶・牧畜・林業も行はれ、素麵・柿餅等の名物もあり。省線七尾線(終點輪島驛(昭和七年設置)あり、七尾・富津・飯田各町より縣道來り穴水・門前その他へパスの便あり。海上舟航の便あるも冬季は北西風に妨げらるる事多し。近年港に築港工事が施され第二期工事を終り、第三期の工事の着手に努力しつゝあれば完成の晩は益々隆盛を見るべし。此地は古くは和名抄、鳳至郡小原郷の内

特殊あり。省線東海道本線町内を走り、鷺津驛(明治二十一年設置)を置く。風土記傳に據れば、永祿十年今川氏直この地に城を築くと。その址は今の妙立寺境内とす。もと吉津村と稱せしが、昭和四年鷺津町と改稱す。(熱田神社)大字吉見に鎮座。祭神、日本武尊・武甕槌命。地方の古社にして、慶長十七年再建す。江戸時代を通じて朱印領八石を寄せらる。(二宮神社)字中ノ郷に鎮座。縣社。祭神、大物主神。中ノ郷神社神の地に發達せる神社にして、延喜の制、國幣の小社に列せらる。當時は大神神社と云ひ、のち大和大明神(二宮大明神)と云ふ。大和大明神・二宮大明神とも云へり。江戸時代朱印領四石五斗を有せり。例祭、十月七日。(本明寺)法華宗本山。永徳三年、眞言僧日乘開創し、のち本宗に改む。江戸時代、十萬石格を以て選せらる。書院に文見の大雄堂あり、俗に文見寺と呼ぶ。本堂その他は國寶。

ワシツカ 鷺塚 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村外二村を廢して旭村を置く。

ワシトリ 鷺取 參河國(愛知縣)の古地名。和名抄に碧海郡鷺取郷あり、和之止利と註す。延喜兵部省式に參河國鳥捕驛々馬十疋、傳馬五疋と見ゆるは此の地にして郷にして驛を兼ねるものなり。兩意義たるべし。その地いま三河國碧海郡矢作町より上郷村に互る地をいふか。兩

諏訪湖の北東方約一〇軒、長野縣諏訪郡下諏訪町と、小縣郡和田村との境上に時つ。北西方に和時(最高點一五三一米)嶺き南東方に霧ヶ峰連り、霧ヶ峰との中間に霧ヶ池あり。南東斜面一帯は冬季スキー・サレンドとして名高し。和田時より霧ヶ峰・霧ヶ峯を経て上諏訪町に下るか或はこの反對コースは冬季のスキートライ・春秋のハイキングコースとして好適なり。

ワシ 和地 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年外二箇村と共に廢され、伊良湖村を置く。

ワシアイモリ 鷺合森 湯田村(岩手縣)の岩手縣。國山縣兒島郡下津井町の東に、南方海上に突出する半島狀臺地にして、全山花崗岩より成り、風化水蝕作用により山骨露出し赤褐色を呈し奇岩峯々として屹立す。巨岩に老松を配せる雄秀時を以て最高となすが、山上一帯は四圍の展望廣大にて、南方遙に讃岐富士を始め四國の連山を望み、海上に瀬房島・與島・岩島・釜島を收むる景觀は屋島・新洲山の展望に比肩すべく、新興の勝地として近年時々探勝者を迎ふるに至る。いま一帯は指定名勝たり。鷺羽山の東南に延びる久須美岬に抱かれたる大澳・小澳の兩海岸は好海水浴場として賑ふ。鷺羽山麓には旅館あり。下津井鐵道・自動車または下津井港より船にて達す。

ワシガス 鷺ヶ集山 越後山系朝日山塊の一峯。主峯朝日岳の南西方廿三軒前後に當り、新潟縣岩船郡村上町の東方約一六軒、同郡三面村と館原村との境上に時つ。山形富士に似るを以て一に越の富士と云ふ。山頂に鷺ヶ集権現を祀る。南東方に鷹ノ巣山(九一一米)へ續き、西方に前ノ岳(八二五米)連る。北麓を三河川西流し、南麓を長津川が北西流して三河川に落つ。

ワシキ 和食村 高知縣土佐國安藝郡の西南部。安藝町の西方約一〇軒にあり、西は四分、男ノ上の二村に界し、北は香美郡に隣接し、南は土佐郡に面す。東北には高取百米の山脈南北に走りて西南に傾斜して低下し、その西部に南流する和食川下流の沖積平野開く。平野は肥沃にして平坦なれば農業盛に行はれ、米・蕎麥の産多し、また麥・蔬菜の栽培も行はる。水産業も行はれ鱈・鯨等の漁獲多し。男ノ上嶺山の麓は富村及び男ノ上村・赤野村に跨る。同嶺山の麓は金銀銅なるが、現在のところ採ばず。海岸に並行して縣道と社線高知鐵道が東西に貫通し、西南隅に和食驛(昭和六年設置)あり。また分れて北に走る縣道あり。海は土佐灣沿岸汽船の寄碇地なり。和名抄に安藝郡和食郷あり、和之岐と註す。元祿檢田帳には和食社とあり。その地いま本村を初め四分・赤野・男ノ上諸村に互り、本村はその本庄たり。長官我部元親の安藝國虎征伐の時はこの地に勢揃せり。

小。海嶽・一〇・六五五右田村八太夫の云へらく、今用ふる神樂の十二座など云へる舞は、土師の舞と大分百五十年計も南方に出て來にけるなり、と云へり。土師といへるは、武州幸手宿のわきに、土師の宮あり、そこにて始めたる也。

ワシベツ 鷺別 北海道釧路國釧路郡釧路村の大字。省線釧路本線の鷺別驛(明治三十四年設置)あり。

ふ。海嶽・一〇・六五五右田村八太夫の云へらく、今用ふる神樂の十二座など云へる舞は、土師の舞と大分百五十年計も南方に出て來にけるなり、と云へり。土師といへるは、武州幸手宿のわきに、土師の宮あり、そこにて始めたる也。

ワシマ 輪島町 石川縣能登國鳳至郡の北海岸。能登半島北部に於ける首邑にして背後に丘陵を負ひ河原田・鳳凰兩河の合して海に注ぐ。西側には輪島灣海上に突出し小海を抱く。町は商工業盛なる地域と漁業を營む郡落とに分れ、古來堅牢を以て世に名高き輪島産の産地にして其の産額は年三百萬圓に達す。原料の漆はもとこの地方に産せしが、今日加賀・越前・大阪・奥羽或は支那等より求め勝れたる製法のみ尙傳へらる。之に次いで水産類多く町内海士町は北方海上の輪島(輪島町に屬す)に渡る海士の郡落なり。また養蠶・牧畜・林業も行はれ、素麵・柿餅等の名物もあり。省線七尾線(終點輪島驛(昭和七年設置)あり、七尾・富津・飯田各町より縣道來り穴水・門前その他へパスの便あり。海上舟航の便あるも冬季は北西風に妨げらるる事多し。近年港に築港工事が施され第二期工事を終り、第三期の工事の着手に努力しつゝあれば完成の晩は益々隆盛を見るべし。此地は古くは和名抄、鳳至郡小原郷の内

特殊あり。省線東海道本線町内を走り、鷺津驛(明治二十一年設置)を置く。風土記傳に據れば、永祿十年今川氏直この地に城を築くと。その址は今の妙立寺境内とす。もと吉津村と稱せしが、昭和四年鷺津町と改稱す。(熱田神社)大字吉見に鎮座。祭神、日本武尊・武甕槌命。地方の古社にして、慶長十七年再建す。江戸時代を通じて朱印領八石を寄せらる。(二宮神社)字中ノ郷に鎮座。縣社。祭神、大物主神。中ノ郷神社神の地に發達せる神社にして、延喜の制、國幣の小社に列せらる。當時は大神神社と云ひ、のち大和大明神(二宮大明神)と云ふ。大和大明神・二宮大明神とも云へり。江戸時代朱印領四石五斗を有せり。例祭、十月七日。(本明寺)法華宗本山。永徳三年、眞言僧日乘開創し、のち本宗に改む。江戸時代、十萬石格を以て選せらる。書院に文見の大雄堂あり、俗に文見寺と呼ぶ。本堂その他は國寶。

ワシツカ 鷺塚 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村外二村を廢して旭村を置く。

ワシトリ 鷺取 參河國(愛知縣)の古地名。和名抄に碧海郡鷺取郷あり、和之止利と註す。延喜兵部省式に參河國鳥捕驛々馬十疋、傳馬五疋と見ゆるは此の地にして郷にして驛を兼ねるものなり。兩意義たるべし。その地いま三河國碧海郡矢作町より上郷村に互る地をいふか。兩

諏訪湖の北東方約一〇軒、長野縣諏訪郡下諏訪町と、小縣郡和田村との境上に時つ。北西方に和時(最高點一五三一米)嶺き南東方に霧ヶ峰連り、霧ヶ峰との中間に霧ヶ池あり。南東斜面一帯は冬季スキー・サレンドとして名高し。和田時より霧ヶ峰・霧ヶ峯を経て上諏訪町に下るか或はこの反對コースは冬季のスキートライ・春秋のハイキングコースとして好適なり。

ワシ 和地 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年外二箇村と共に廢され、伊良湖村を置く。

ワシアイモリ 鷺合森 湯田村(岩手縣)の岩手縣。國山縣兒島郡下津井町の東に、南方海上に突出する半島狀臺地にして、全山花崗岩より成り、風化水蝕作用により山骨露出し赤褐色を呈し奇岩峯々として屹立す。巨岩に老松を配せる雄秀時を以て最高となすが、山上一帯は四圍の展望廣大にて、南方遙に讃岐富士を始め四國の連山を望み、海上に瀬房島・與島・岩島・釜島を收むる景觀は屋島・新洲山の展望に比肩すべく、新興の勝地として近年時々探勝者を迎ふるに至る。いま一帯は指定名勝たり。鷺羽山の東南に延びる久須美岬に抱かれたる大澳・小澳の兩海岸は好海水浴場として賑ふ。鷺羽山麓には旅館あり。下津井鐵道・自動車または下津井港より船にて達す。

ワシガス 鷺ヶ集山 越後山系朝日山塊の一峯。主峯朝日岳の南西方廿三軒前後に當り、新潟縣岩船郡村上町の東方約一六軒、同郡三面村と館原村との境上に時つ。山形富士に似るを以て一に越の富士と云ふ。山頂に鷺ヶ集権現を祀る。南東方に鷹ノ巣山(九一一米)へ續き、西方に前ノ岳(八二五米)連る。北麓を三河川西流し、南麓を長津川が北西流して三河川に落つ。

ワシキ 和食村 高知縣土佐國安藝郡の西南部。安藝町の西方約一〇軒にあり、西は四分、男ノ上の二村に界し、北は香美郡に隣接し、南は土佐郡に面す。東北には高取百米の山脈南北に走りて西南に傾斜して低下し、その西部に南流する和食川下流の沖積平野開く。平野は肥沃にして平坦なれば農業盛に行はれ、米・蕎麥の産多し、また麥・蔬菜の栽培も行はる。水産業も行はれ鱈・鯨等の漁獲多し。男ノ上嶺山の麓は富村及び男ノ上村・赤野村に跨る。同嶺山の麓は金銀銅なるが、現在のところ採ばず。海岸に並行して縣道と社線高知鐵道が東西に貫通し、西南隅に和食驛(昭和六年設置)あり。また分れて北に走る縣道あり。海は土佐灣沿岸汽船の寄碇地なり。和名抄に安藝郡和食郷あり、和之岐と註す。元祿檢田帳には和食社とあり。その地いま本村を初め四分・赤野・男ノ上諸村に互り、本村はその本庄たり。長官我部元親の安藝國虎征伐の時はこの地に勢揃せり。

小。海嶽・一〇・六五五右田村八太夫の云へらく、今用ふる神樂の十二座など云へる舞は、土師の舞と大分百五十年計も南方に出て來にけるなり、と云へり。土師といへるは、武州幸手宿のわきに、土師の宮あり、そこにて始めたる也。

ワシベツ 鷺別 北海道釧路國釧路郡釧路村の大字。省線釧路本線の鷺別驛(明治三十四年設置)あり。

ふ。海嶽・一〇・六五五右田村八太夫の云へらく、今用ふる神樂の十二座など云へる舞は、土師の舞と大分百五十年計も南方に出て來にけるなり、と云へり。土師といへるは、武州幸手宿のわきに、土師の宮あり、そこにて始めたる也。

ワシマ 輪島町 石川縣能登國鳳至郡の北海岸。能登半島北部に於ける首邑にして背後に丘陵を負ひ河原田・鳳凰兩河の合して海に注ぐ。西側には輪島灣海上に突出し小海を抱く。町は商工業盛なる地域と漁業を營む郡落とに分れ、古來堅牢を以て世に名高き輪島産の産地にして其の産額は年三百萬圓に達す。原料の漆はもとこの地方に産せしが、今日加賀・越前・大阪・奥羽或は支那等より求め勝れたる製法のみ尙傳へらる。之に次いで水産類多く町内海士町は北方海上の輪島(輪島町に屬す)に渡る海士の郡落なり。また養蠶・牧畜・林業も行はれ、素麵・柿餅等の名物もあり。省線七尾線(終點輪島驛(昭和七年設置)あり、七尾・富津・飯田各町より縣道來り穴水・門前その他へパスの便あり。海上舟航の便あるも冬季は北西風に妨げらるる事多し。近年港に築港工事が施され第二期工事を終り、第三期の工事の着手に努力しつゝあれば完成の晩は益々隆盛を見るべし。此地は古くは和名抄、鳳至郡小原郷の内

ワシキ—ワシマ

とす。中世、大屋庄小屋ノ湯といひ長谷部信連この庄を賜はる由、東鑑・盛衰記に見ゆ。舊郡役所のありし所。(船倉島)本町の屬島。周圍僅に六軒、輝石安山岩より成る孤島にて地は頗る平坦、最高丘も海抜僅に二米に過ぎず、しかし一箇の火口狀の窪地ありて不思議にも洪水に惠まる。島の附近一帯の淺瀬には海藻繁茂し魚類も豊富なれども、冬季は氣候酷烈にて漁業不可能なり。その爲夏季のみ海士が半島より渡り、ここに始めて葉落世界が始り、冬季はまた無人島となり恐る界の眞つ中に放棄せらる。春も終りに近づき北海の波やや襲まる頃、海士の男女約七百人は輪島町の海士町を文字通り空虛にし、其家族は勿論、財産・警察・學校・僧侶諸共同舟島に移住す。從來八十八夜の頃島渡り行はれ、二十十日を過ぎれば歸來せるものなるが、近年蠶の漁獲盛になりし關係上、その漁期の終る六月上旬渡海し十月下旬に引上ぐ。(重蔵神社)縣社。祭神、天冬衣命・大國命。一説に式内風玉比古神社に充つ。舊稱、重蔵大權現・重蔵宮。例祭、八月二十三。(住吉神社)大字風玉町に鎮座。祭神、祭神、底筒男神外二神。式内社。文徳天皇仁壽年度、正六位上叙位以來、後醍醐天皇永徳に至るまで叙位叙位、從三位に進む。例祭、八月廿四日。

ワシマキ

鷺巻村 新潟縣越後國中蒲原郡の西部。白根島の北端を占め、中ノ口川・信濃川の合流點に面す。南北に細

ワシヨ—ワタ

長く東西を大郷村・根岸村に挟まれ、數條の分流村内を北流す。土地一般に低濕にして米を主産する外、果樹の栽培盛にして越後梨の特産地なり。また花卉の栽培も行はる。信濃川の舟楫により新潟市へ通ずる外村道にて白根町へ通じ、また對岸の西蒲原郡黒崎村よりは新潟市へハスの便あり。

ワシヨ

【和順郡】朝鮮全羅南道一府二十一郡一島の一。道のほぼ中央に位し、北は潭陽郡・光州郡、東は谷城郡・順天郡、西は羅州郡、南は寶城郡・長興郡に接す。面積七八八方軒餘、道内第四位の大都なり。東北部一帯は山地にして白鶴山(八〇四米)・樂城山(五七三米)・無等山(一一六七米)等あり、一肢東端を南に走りて順天郡界に母后山(九一九米)を起し、樂城山・無等山また南方に支脈を連ぬ。南部にも廣き山地を南端に斗峰山(六三〇米)・鳳尾山(五〇六米)あり、その北西方に華鶴山(六一四米)等あり。これ等兩山地は中央部に於て相連り樂城山(五四五米)・天雲山(六〇二米)など屹立す。之に反して西北部は概ね低く、中部以西の水を聚めて砥不江が西流する處にやや廣き平地がみらる。また東北部の諸水は同福川となり山地間を侵入蛇曲して南流し、城外に出て東城江となり末は總津江に入る。砥不江流域には水田よく拓けて米を多産する外、農産物に大豆・豆類・棉花・大麻・薄荷等あり。其他橡草・麥類・蜂蜜・竹器

ワシヨ

麻布等を出し、鑛産には石炭・金銀等あり。殊に石炭は同福山・東面等に於て採掘さる無煙炭にして近時の開發にかかると。砥不江に沿ひて鐵道慶全西部線通じ北より鷺南・和順・萬水・綾州・春陽・笠橋・梨陽・道林の諸驛あり。和順・寶城間の二等道路ほぼ之に並走する外、北部には光州より來り和順・同福を連れて順天に至る二等道路通す。行政上、十三箇面に分ち、郡廳を和順面に置く。本郡は大正三年、もと綾州・同福の二郡を併合して新設せらる。

ワシヨ

【和順面】朝鮮全羅南道和順郡の西北部。光州府の東南凡そ一二軒。東は東面に、南は樂泉面・道谷面に、北は光山郡孝池面、西は羅州郡南面に接す。東西に長く約一〇軒、南北は東部に約八軒、西部にて約五軒あり。昭和七年十一月、もと和順面と西面とを合併したるものにして、西面即ちもと西面は約三百米臺の山地をなし、北端に粉嶺山(三二五米)、南端に鍾掛山(三七五米)、東には龍峰(三三三米)、西に鷺鳴山(三三二米)等あり、南北兩山地の間に東西に狭長なる谷がみらる。東半部には北境に萬湖山(六〇九米)あり、山腹西と南に延び、南部の徳陰山(四〇四米)との間に盆地をつくる。この盆地南邊を和順川東より西へ曲流し、流域に田畑ひろく拓く。農産物には米・大豆・大小豆・棉花・烟草等あり、工業は麻布・竹器等にて、其他麥類・蜂蜜等を出す。鐵道慶全西部線西方より來り鷺南

ワセタ

早稲田 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の南部。江戸川の西岸にて、吉川町の東南隅にあり。東は川を隔てて千葉縣葛飾郡流山町と相對す。全村低地に於て殆ど沼田をなす。農業行はれて米を主産し、麥の産も多少あり。鐵道縱横に通じ、吉川町及び西方凡そ六軒の北足立郡草加町等に通す。また對岸流山町との間には渡船の便あり。大字中房は松浦久左衛門中房の開發に係るを以てこの名ありといふ。

ワタ

和太 參河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郡あり、その地いま石巻村邊に當るか。

ワタ

和太 參河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郡あり、その地いま石巻村邊に當るか。

ワシヨ

【早稲田】東京市牛込區の地名。早稲田大學にて知られし如く、この大學附近一帶の地名なり。もと牛込村の一部なりしが、いつしか獨立せる村となり、延享年間よりやや町並をなせり。然し明治初年頃はなほ田圃多く、また若荷の産多ければ、早稲田若荷とて有名なりき。大隈郡がこの地に出来、また大學設けらるるに及び急激に發達し、現在はその面影更になし。太抵御堂「見わたせば、むかふに目白、早稲田村、ながるる水は猪のかしら、末せきかれし關口の瀧のしら赤苔たえず、ここに養の子を汲たてのひやつこく吹涼風に、はつたり暑を忘るる也」

ワセタ

早稲谷村 福島縣岩代國耶麻郡の西部。喜多方町の西北約一軒。越後山脈の東斜面に屬し、西北境は海抜約八〇〇米にして東南方に傾斜し、西南境に大平山(七五三米)聳ゆ。全村概ね山地をなし、一ノ戸川の一支流早稲谷川北方より來り村の中部を東方に流れ、沿岸に耕地稍拓く。米・麥・大豆・蕎麥・木炭等を産す。省線磐越西線山都驛へは南方約七軒。一般に交通便ならず。相川村・朝倉村・一ノ木村と共に組合村を成し、相川村に役場を置く。

ワタ

和太 參河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡和太郡あり、その地いま石巻村邊に當るか。

ワタ—ワタ

海岸は平直なる砂浜をなして松林疎...

【和田村】 鳥取縣伯耆國西伯郡の西部...

【和田村】 鳥取縣石見國那賀郡の東端...

なり。米・麥・蕎麥・木炭・酒類等を産す。省...

【和田村】 山口縣周防國佐波郡の東端...

【和田村】 山口縣周防國大島郡の東部...

等七柱を祀る。當地方の守護職構四郎の...

【和田村】 山口縣周防國佐波郡の東端...

【和田村】 香川縣讚岐國三豊郡の最西南...

の地を占め土地平坦にして肥沃なり。海...

【和田村】 高知縣土佐國幡豆郡の西南部...

【和田村】 高知縣土佐國幡豆郡の西南部...

十一日、十月廿一日。【八坂神社】 大字...

【和田村】 大分縣豊前國下毛郡の東北...

【和田村】 長野縣信濃國上...

落あり。千曲川沿岸は其の砂礫層の氾濫...

【和田村】 群馬縣上野國新...

【和田村】 群馬縣上野國新...

青根郡、長榮寺領」とあり、青根は大字...

【和田村】 静岡縣遠...

【和田村】 山梨縣甲斐...

田村にあり。

【和田村】 鳥取縣石見國那賀...

【和田村】 鳥取縣石見國那賀...

ワタ—ワタナ

ワタナ——ワタラ

〔中釜戸のツダレモミヤ〕 指定天然記念物。大字中釜戸字釜田にあり。地上一米の幹圍約三米、枝條屈曲し傘状を呈す。ヤマモミヤの枝葉となるものにて植物時態學上有益なるものなり。〔諏訪神社〕 大字中釜戸に鎮座。社名、祭神、健甕那方命。本殿・幣殿・拜殿・神輿庫・社務所等を具ふ。

【渡邊橋】 昔、藤波の渡邊にありし橋。渡邊は即ちいま大坂市内を流る大川の天満・天神二橋の間の南岸、八軒屋邊を稱せしもの。橋は此處より對岸に架けらる。いま堂島川にも同名の橋あるも、之は近世の架橋にしてただ名稱を襲へるに過ぎず。この橋は楠木正成が六波羅將を破り、また正行が山名・細川將を破りし事にて名高し。廢橋の期不詳。

ワタノハ 渡波町 宮城縣陸前國牡鹿郡の西部。石巻市の東に接し、西南は石巻灣、東北は萬石浦に面す。石巻灣・萬石浦間は細き水路によりて通じ、町は西北部と東南部に分たる。前者の北部には丘陵ありて南方に傾斜し、南部は平坦にして石巻灣と萬石浦の沿岸に砂濱をなす。東南部は緩む丘陵地をなして西北部に傾斜し、西部の石巻灣岸は山地迫りて車崎・尾崎等の突出あり。町の生産は水産業・農業を主とし、水産物と米・麥・蕎麥を産す。また東北部に鹽田あり、北日本唯一のものとして稱せらる。名産に萬石浦の牡蠣あり。道路は町の略中部を東西に通じ、東南は牡蠣半島の先端部に至る。

ワタボリ

社線全平山軌道の渡波詳あり。ワタボリ 和田堀 東京府豊多摩郡にありし町。昭和七年に東京市に編入し外三町と共に杉並區を建つ。ワタマエ 渡前村 山形縣羽前國東田川郡の略中部。西南は赤川を隔て鶴岡市に、東は藤島町に隣接す。庄内平野に屬し、全村概ね平坦にして、水田耕作、赤川は西南流を、都島川は東流を各北流す。村の生産は農業を主とし米の産多く、また蕎麥を出す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、鶴岡市と藤島町へは各自動車の便あり。省線羽越本線藤島驛(大正七年設置)を置く。出羽國分寺は或は此地にありしか。(六所神社) 大字上藤島字六所畑に鎮座。社名、祭神、大己貴命外二神。延暦年中の創建ならん。例祭、五月一日。

ワタムキ 綿向山 鈴鹿山脈西方支脈の一峯。日野岳とも稱す。滋賀縣甲賀郡越前村と蒲生郡市原・西大路の三村境上に峙つ。標高一〇一〇米。東麓は南岳(二二三八米)を経て主脈峯の御在所山(二二〇〇米)に連る。昔は吹へ、靈仙・比良と共に江州四高山の一と數へられ、近隣の修験者は山上夕岳に擬してこの山に信仰登山をなす。山上に綿向大明神あり、天穂日命を祀り、明神初詣の地として尊崇せられ、毎年四月の例祭には迎へ詣りと稱し、氏子大集して登山する風あり。山頂附近に銀明水湧く。山頂よりは全江州を一眸に収め、風光絶麗第一と稱

にあり、河日は五十鈴川河口と相接して共に幾多の分流をつくりデルタの發達著し。伊勢平野及び何川流域の低地は田畑よく拓けて米・蕎麥・麥・茶等の農産物あり。また農家に鶏を飼養し鶏卵の産あり。海岸は水産物に富み水産養殖も行はる。山地は森林資源豊かにして木材・木炭を産しまた畜産・工業・礦産あり。郡内に神社町・大湊町・田丸町・二見町・小俣町の五町外二十八箇村を含み、郡の平均人口密度は一三六二人、最も多きは大湊町の一〇五二人。東北部は宇治山田市を中心とする交通よく發達し參宮道を初め和歌山より来る別街道、鳥羽町より来る街道等の集中點をなし、省線參宮線及び社線參宮急行電線(桑名・大神宮前間、櫻井・宇治山田間)等集り、前者は更に延びて鳥羽町に至る。他に宇治山田市の山田町と宇治町とを結ぶ國道及び電車が東北部を通過し途中朝熊山へ登山電車を分つ。西南部には大内山川の河谷に沿ひて省線紀勢東線が通過す。伊勢海岸及び熊野海岸には近海便船あり。もと渡邊・度邊・度合等に作る。皇大神宮・豐受大神宮鎮座の地。續紀文武紀に度合・度會と二様に見ゆ。和名抄は度會に作り和多名比と註し、宇治・田部・城田・湯田・伊蘇・高向・箕曲・沼木・櫻橋・二見・伊氣・陽田・舞家の十三郷を管す。度會は書紀垂仁紀の渡邊宮の所在地にて同書神功紀に度邊縣と見ゆ。國郡制定の時度會・多氣二郡となり、後に多氣郡より更

ワタムツ

度津 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に寶飯郡度津郷あり、和多氣郡と調す。今の寶飯郡小坂井町・御津町の邊に當る。延喜式の渡津郡とは此地にして然るの流を言へるなり。ワタヤマ 和田山町 兵庫縣但馬國朝來郡の東北部。朝來川に跨り竹田町の東北に接し、東南部は豊津町に界す。西部は養父郡に隣る。西隅には大藏郡山(約六〇〇米)聳えて東方へ山岡を下す。南部には三五二米の孤丘あり。東北部には五〇〇米程度の丘陵あり。朝來川は西部山地の麓に沿ひて中部を東北流し、中央にて東南方より西北流し来る支流を合し西北折して養父郡に入る。沿岸には平野發達せり。産物は米・蕎麥・麥類、及び醬油・肥料・蠶絲・木製品・藁製品・瓦物・瓦及び鶏卵等なり。山陰道及び省線山陰本線が東部を通過し、和田山驛(明治三十九年設置)は大藏村にあり、これより分岐する省線播磨但馬線は縣道と共に西南走す。もと牧田村と稱せしが、昭和五年和山町と改む。農林省獸疫調査所中國支所の所在地たり。和名抄に朝來郡牧田郷とあるは蓋しこの地とす。大田文には牧田郷四十三町八反、地頭牧田又太郎光盛と見ゆ。(赤瀨神社) 社名、祭神、赤瀨足尾命。式内社なり。例祭、九月十五日。

ワタラ 渡良村 長崎縣壹岐國壹岐郡の西部。渡良半島を主體とし、附近に散在する大島・長島・原島の三島と、若干の小島とを其の區域とす。地形は壹岐島中、水平段階の最も發達せる部分にて、全城玄武岩より成り臺地状を呈するも、海岸は沈降性にして、灣澳深く入込み、岬・半島交錯し地形複雑なり。然し良島地少く南部の渡良浦や著る。渡良半島と大島との間は嵯峨瀬戸にして、之を出づれば風浪旺なる玄海灘なり。附近の海岸は沈降と波浪蝕とにより斷崖をなす所多く、戸屋崎・奈良崎等その例なり。特に北方及び西方面に多きは同方向の季節風の卓越するに因る。玄武岩の臺地は開析されたる準平原状をなして持され、如地を見らるも、地形の關係上水田少し。交通路は十分ならず、郡の首邑式生水より渡良浦に至るものを其の主道とす。海路の往來比較的自便なり。安岐にても漁業盛なる地方にて芦邊・勝本等に次ぐ本島の漁舟的繁落なり。鮑・雲丹の罐詰製造所を有する事は注目すべく、村全體としては農漁村なり。本村は石田郡物部郷の地、延喜式物部郡神社鎮座す。其の間發古きを物語る。海東諸國記に限多羅浦百餘戸とある限多羅浦は此地ならん。

ワタライ 度會 三重縣一五郡の一。伊勢國の南部。縣の東南部に位し東北偏に宇治山田市の北・西・南の三面を圍み、東は志摩國志摩郡に隣る。東北部は宮川及び五

ワタラ

渡良川 利根川の一支流。栃木縣上都賀郡足尾山中に發し、群馬縣勢多・山田の兩郡を経て栃木縣足利郡に入り、栃木・群馬の兩縣界及び埼玉・茨城の兩縣界を経て利根川に注ぐ。流域一〇九軒。上流より大間間附近迄は峽谷にて殊に高津川は勝景を以て名高し平野に出でては大間間に大扇状地をつくり、更に足尾山塊と金山分蘆丘陵との間の斷層線に沿ひ利生・足利兩市を過ぎ、藤岡町附近にて赤瀨沼に注ぎ、利根中流の小湖群地方に達す。足尾の礦毒が農作物に有害なるを認めて田中正造が農民救済のため奮起せる足尾瀆毒事件はこの渡良瀨川下流域なり。この川のうち、足尾山塊より發して利生・足利・佐野地方を通る支流及び本流の分流は紫色・酒布・摺鉢用水車等に利用さる。省線足尾線は渡良瀨川の谷を通り足尾山と平野地方を連れ、上流の分水點尾崎には日光清瀨へ、また半月峠には中禪寺湖畔への連絡路あり。

ワタリ 和多里 愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年他の一町三箇村を廢し小牧町を置く。ワタリ 日理 陸奥國(磐城・宮城縣)の古地名。和名抄に日理郡日理郷あり、郡家の所在地とす。日理は即ち濟または波にて渡津の義なり。佳名を用ひ、二字となして日理といふ。されば附近に河川または湖沼

十鈴川の中流以下を含み伊勢平野の南端を占めて伊勢海に臨む。南部一帯は幅を擴げて熊野灘に臨む。西南方より蜿蜒と連り来る大臺ヶ原の連嶺は西南東より東部の中央を斷續しつつ東北に延び、東端は志摩郡に入りて志摩半島となる。宇治山田市の東北境には本郡との間に朝熊山(四七八米)一帯の山脈あり。該脈は各方に横りて南に海に没し屈曲多きリヤス式海岸型を呈しその東にある五ヶ所湖、中央の饑餓湖・奈屋浦・吉ヶ津浦・方座浦等を初め入江・湖・岬等頗る複雑に出入し附近には鳥嶼・岩礁等散在し斷崖をなす海岸もあり、東北部は伊勢平野南端の地にして、東に宇治山田市を圍み、宮川及び五十鈴川の流域なり。所々に小丘あれど、概して地形平坦なり。海岸は砂濱をなし、謂ゆる白砂青松の景勝地をなす所多く、海岸平野の東南端のまきに紀伊山地が海に没せんとする所に接して二見浦の勝地あり。五十鈴川は宇治山田市の東南部に發して北流し、本郡の東北隅を流れ、下流にて二條に分れ、一は西北に向ひて宮川の河口と相接し、一は東北に流れて二見町より伊勢海に注ぐ。宮川は多氣郡内の高高山脈に發して東東北流し、本郡の西南部に發して東北に流る。大内山川の水と合して北流の中央に沿ひて東北に流れ、下流に至りて本郡内に流れ入りて山脈の末梢の丘陵の間を屈曲しつつ東流し、附近の支流を集めて伊勢平野に出て宇治山田市の西境を極めて東北

ワタラ——ワタリ

にあり、河日は五十鈴川河口と相接して共に幾多の分流をつくりデルタの發達著し。伊勢平野及び何川流域の低地は田畑よく拓けて米・蕎麥・麥・茶等の農産物あり。また農家に鶏を飼養し鶏卵の産あり。海岸は水産物に富み水産養殖も行はる。山地は森林資源豊かにして木材・木炭を産しまた畜産・工業・礦産あり。郡内に神社町・大湊町・田丸町・二見町・小俣町の五町外二十八箇村を含み、郡の平均人口密度は一三六二人、最も多きは大湊町の一〇五二人。東北部は宇治山田市を中心とする交通よく發達し參宮道を初め和歌山より来る別街道、鳥羽町より来る街道等の集中點をなし、省線參宮線及び社線參宮急行電線(桑名・大神宮前間、櫻井・宇治山田間)等集り、前者は更に延びて鳥羽町に至る。他に宇治山田市の山田町と宇治町とを結ぶ國道及び電車が東北部を通過し途中朝熊山へ登山電車を分つ。西南部には大内山川の河谷に沿ひて省線紀勢東線が通過す。伊勢海岸及び熊野海岸には近海便船あり。もと渡邊・度邊・度合等に作る。皇大神宮・豐受大神宮鎮座の地。續紀文武紀に度合・度會と二様に見ゆ。和名抄は度會に作り和多名比と註し、宇治・田部・城田・湯田・伊蘇・高向・箕曲・沼木・櫻橋・二見・伊氣・陽田・舞家の十三郷を管す。度會は書紀垂仁紀の渡邊宮の所在地にて同書神功紀に度邊縣と見ゆ。國郡制定の時度會・多氣二郡となり、後に多氣郡より更

に渡南郡を分つ。【度會縣】 明治の初め伊勢に置きし縣。明治元年七月度會府を伊勢に置き、翌二年これを度會縣と改む。四年十一月伊勢國の久居縣、志摩國の鳥羽縣と共に廢して更に度會を山田に置き、志摩一國と伊勢國南部の五郡及び紀伊の牟婁郡の一部を管す。明治九年四月三重縣に併合す。【度會】 伊勢國(三重縣)の古地名。延喜兵部省式に、伊勢國度會縣馬八疋と見ゆ。和名抄には度會郡縣家郷あり、これ等を以て縣を號するものなり。その址いまだ度會郡小俣町なるべし。※縣家郷(三重縣)【度會川】 ↓宮川

ワタラセ 渡瀬村 群馬縣上野國邑樂郡の北部。館林町の北隣にて渡良瀨川の南岸にあり。北は栃木縣足利郡・安藝郡と相對す。面積六・九六平方軒の小村なり。全村平地にて中部以南は水田、渡良瀨川沿岸は畑地をなす。農業・養蠶行はれて米を主産し、蕎麥の産も多し。縣道は館林町と東北方の栃木縣佐野町に通じ、また社線東武鐵道佐野線は館林町より來りて村の東南部を東北に走り、渡瀬驛(昭和二年設置)を置く。大字傍示塚は傍示塚の誤にして、古く國郡界の傍示のありし地なるべし。(赤城神社) 大字足次に鎮座。社名、祭神、大穴牟遲神・豊木入日子命。建仁二年新田義重の勢多郡赤城神社より勧請せる所といふ。爾來新田氏累代の守護神として篤く崇敬せら

る。例祭、三月十五日。ワタラセ 渡良瀨川 利根川の一支流。栃木縣上都賀郡足尾山中に發し、群馬縣勢多・山田の兩郡を経て栃木縣足利郡に入り、栃木・群馬の兩縣界及び埼玉・茨城の兩縣界を経て利根川に注ぐ。流域一〇九軒。上流より大間間附近迄は峽谷にて殊に高津川は勝景を以て名高し平野に出でては大間間に大扇状地をつくり、更に足尾山塊と金山分蘆丘陵との間の斷層線に沿ひ利生・足利兩市を過ぎ、藤岡町附近にて赤瀨沼に注ぎ、利根中流の小湖群地方に達す。足尾の礦毒が農作物に有害なるを認めて田中正造が農民救済のため奮起せる足尾瀆毒事件はこの渡良瀨川下流域なり。この川のうち、足尾山塊より發して利生・足利・佐野地方を通る支流及び本流の分流は紫色・酒布・摺鉢用水車等に利用さる。省線足尾線は渡良瀨川の谷を通り足尾山と平野地方を連れ、上流の分水點尾崎には日光清瀨へ、また半月峠には中禪寺湖畔への連絡路あり。

ワツコ—ワトマ

勇知郡・後海群(共到大正十三年設置)・和內郡(大正十一年設置)・和內港群(昭和三年設置)を置き、省轄北見縣も通じて曲淵・沼川・樽川・幕別・摩間の五群(共到大正十一年設置)を置き、宗谷本線の和內港群に終る。町名の和內はアイヌ語 Yami wakka nai より轉訛せるもの、原語は即ちヤム(冷き)ワツカ(水)ナイ(澤)の意なり。また、ノツキツツはアイヌ語 Notsutsutsu より轉訛せるもの、原義は下流にて、下流の如き所の意なりといふ。此地は宗谷場所の勢力範圍にて、宗谷には天明三年場所が開かれ、場所請負人は村山傳兵衛たり。されど當時和人の居住許されず、而して此地に和人が住居するに至りしは恐らく安政年間を遡るこゝとなるべし。明治二十一年に郡役所・警察署・戸長役場等を宗谷村より此地に移し、同三十三年戸長役場を廢して宗谷村と分村し、同時に一般町村制を施行す。樺太と相對し交通の要衝地として發展し、今や都市的形態を帯ぶるに至る。いま宗谷支廳・區裁判所・稅務署・運輸事務所・警務署及び農事試験場等置かる。(摩間貝塚)摩間の東半軒、和內町大字和內村字摩間にあり。鐵道線路に近く、摩間川沿岸堤防敷地に貝層露出。貝塚と共に堅穴址も若干あり人骨・土器破片等出土す。(マサンと堅穴群)和內郡の東南約二軒、和內町大字和內村字マサンナイにあり。牧場内の丸山丘陵上に在り、堅穴址二十餘箇所を算し、土器破片・

ワツサム 和寒村

北海道天鹽國上川支廳上川郡の中部。天鹽國の南端に位置し、土別町の南に連る。西北は釧路村、東は上士別村、西は空知支廳と界す。面積二二三・九方軒。三周を山脈に圍繞せられ村内概ね四百米内外の山地をなして中央に傾斜し、和寒川北流す。沿岸に和寒原野あり。諸川の上流山間低地と和寒原野の南部地方に耕地大に拓く。米・馬鈴薯・除蟲菊・亞麻・大豆・燕麥等を産し、また製粉・製酪業行はる。天鹽・石狩國境邊發祥温泉場はまた好適なるスキー場なり。省線宗谷本線は温泉場附近より和寒市街地を北走し、鹽狩(大正十三年設置)和寒(明治三十二年設置)の二駅を有す。大正四年釧路村より分村し、二級町村制を施行す。(鹽狩温泉)鹽狩郡附近にあり。泉質酸性の冷温泉。加熱浴用。

ワツコト 和琴

↓弟子屈村(北海道釧路國) 石琴等多数散布す。(北門神社)大字和內村に鎮座。神社。祭神、天照皇大神・武甕槌神・事代主神。天明五年能登の山村山傳兵衛の創祀に係り、明治二十九年現今の地に奉遷す。

ワツク 和徳

青森縣陸奥國津輕郡の東部。弘前市の東北に隣り、東北は平川を隔てて津輕郡に接す。津輕平野の南部に位置し、西境には岩木川北流し、平川は東境及び北境をなして西北に流れ、岩木川に

ワツタケスキ 和珥武藏坂

大和國(奈良縣)の古地名。書紀、崇神天皇の十年武藏安彦坂。天皇大彦及び彦國尊を遣はしてこれを討たしめ給ひし時、忌部を此の坂の上に置くと見ゆ。その地

ワニ 和珥

【和珥池】書紀、仁德天皇の十三年に見ゆる池。其の位置詳かならざるも、いま大阪府河内國南河内郡喜志村の邊にありしものならんといふ。

ワニ 和邇村

滋賀縣近江國滋賀郡の中部。堅田町の北方約一軒にありて東は琵琶湖に臨み、東南より西北に稍長し。西北境に比良山脈の權現山(九九五米)・龍仙山(七五一米)聳えて東南方へ傾斜し山麓は臺地状をなす。和邇川は南部を東流し、河口附近は湖中へ三角形の尖塔状に突出す。湖岸は平直にして平野あり。産物には米・麥・蕎麥・糠肥用作物・桑葉・茶種・茶等の農産物及び鳥・林産・林産製造物を産したる水産あり。鐵道及び社線江若鐵道は東部を縱走し後者の和邇群(大正十三年設置)あり。和邇庄と呼ばれし地とす。和邇郡小野原の居邑にして、いま大字に小野あり。また延喜兵部省式に和邇馬五疋とあるもの蓋しこの地と

ワニウラ 鰐浦

北海道釧路支廳室蘭郡にありし村。大正七年に室蘭市に入り、その町名となる。省線室蘭本線の輪西驛(昭和三年設置)を置く。

ワニツカ 鰐ノ塚山

九州山縣の東部。都城市の北東方約二軒、宮崎縣北諸郡三股村・南郡那珂北郷村・宮崎郡田野村の境上に峙つ。標高一一九米。山上部には調査場・風洞多く、北東方に宮崎市と太平洋を望み、南西方は雪ヶ峯(八五三米)・柳岳(九五二米)を見下望み、眺望廣闊なり。登山は北麓の日登本線田野驛より田野村字築地原・黒草等を經て行ふ。

ワニナチ 鰐淵村

鳥根縣出雲國蘇州郡の北端。大社町の東北に連り、日本海に北面す。東は西田村、西は鷗鷺村、南は蓋塚村と接す。面積二〇・七九平方軒。鼻高山(七三六米)東南境に聳え、南境に山地連りて高峻なるも稍北方海岸に降る。小川は東部と西部に北流して河岸に小耕地存す。河口と流域に聚落あり、漁業また行はる。村内の大部は山林に蔽はる。米・麥・蕎麥・用材・木炭・銅・鐵・茶等の産あり。大社町へは自動車通ず。古くは和名抄、出雲郡宇賀郡の地とす。(鰐淵山)本村の大字河下を流るる河下川の河口を過ること凡そ二軒半の地點にあり。鐵道七萬餘坪、その地質は泥板岩・砂岩・凝灰岩と之を貫く安山岩とより成り、鎮床は黒鐵床にして黒鐵・磁鐵ともに大地にして泥板岩の層理面に

ワニナ 和爾良

愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年他の一箇村と共に廢し鳥居松村を置く。

ワニノ 和納村

新潟縣越後國西蒲原郡の中央南部。吉田町の北、巻町の南にて兩町の中間を占む。西境を北流する西川を初め數條の分流により灌溉の便よく全村肥沃なる水田開く。米産額多く酒造業も行はれ酒杜氏に出稼ぐ者多き地方なり。省線越後線は村内を南北に貫走し和納驛(大正元年設置)を置く。鐵道は東西・南北に通じ村内に交錯し、間瀬港・巻・吉田兩町へハスの便あり。一説にこの地は古事記重仁命の條に見ゆる和那美之水門ならんといふ。(榜嚴寺)曹洞

天邑

首位にあり。道路は京城より来る二等道路の略中部を横斷して、東北方加平を経て春川に通じ乗合自動車もある他、江岸の丸岩里は河港を成し土流は春川、下流は京城府と舟楫の便ありて交通・運輸極めて便なり。

ワトマリ 和泊村

鹿児島縣大隅國大島郡の南部。奄美大島の南西に位置す。西南諸島の一島をなす神永島部の東部を占め、西は知名村に接す。三方は東支那海に面す。東部は半島状に突出し、割合低山性にて西部の島の中心に近き程高度を増し、中部には越山(一八八米)ありて此の地に凹窪地多し。半島部東北端は國頭崎と呼ばれ、北岸及び半島部は斷崖を以つて海に臨み、半島部は緩やかな傾斜をなすも、その斜面には池多し。半島部海岸には松樹林見られ、低丘陵地は殆ど畑にして主として、甘蔗・甘藷が栽培され一部分は水田耕作も見らる。村民は漁業に従事する者も多く、粟作は海岸より少し内陸に發達し、集村をなす。交通路は首邑和泊より放射狀に發達し低夷なる丘陵面を走る。海上交通は大島及び沖繩より和泊港と連絡さる。本島は久島の永良部に對しては沖の稱を用ひ、明人の書には野刺書に作れり。和泊は本島の首邑にて南東岸に位置し、小港をなし、主警察署・郵便局等を置く。(高千穂神社)大字和泊に鎮座。神社。祭神、天津日高日子火通彥神。例祭、十月十九日。

ワト 和土村

埼玉縣武藏國南埼玉郡の西部。岩槻町の南隣にて、被瀬川と元足立郡と相對す。西南境を被瀬川、東北境を元足立川に流れ、全村平地にして被瀬川附近には水田あり。他は畑地をなす。農業行はれて米を主産し、甘蔗・麥の産も多し。鐵道は岩槻町及び東南方越ヶ谷町に通じハスの便あり。社線東武鐵道の武州線は東方約三軒にあり。もと社線武州鐵道の懷久保驛ありしが營業廢止。

ワト 和道

朝鮮京城道楊州郡の東南部。北漢江の右岸に位置し、京城府の東方約二五軒にあり。西境には天摩山(八一二米)・稻峰(六〇〇米)等聳えて西境を劃し、漸次東方北漢江に向ひて傾斜す。之等山地に發源せる諸流は城内を灌溉し、東流して合流す。耕地は之等溪谷の間に點在するに過ぎず。農産物の主なるものは米・小麥・大豆・落花生・粟等にして、副業として養蠶・飼畜等あり。林産は木炭・薪炭等に過ぎざれども粟の産額は年額一〇〇〇石を超え郡中の

ワニツカ 鰐ノ塚山

いま詳かならざるも、古事記崇神天皇の段には丸淵坂とあるを以て見れば和珥坂と同じ所か。※和珥坂

ワニツカ 鰐ノ塚山

九州山縣の東部。都城市の北東方約二軒、宮崎縣北諸郡三股村・南郡那珂北郷村・宮崎郡田野村の境上に峙つ。標高一一九米。山上部には調査場・風洞多く、北東方に宮崎市と太平洋を望み、南西方は雪ヶ峯(八五三米)・柳岳(九五二米)を見下望み、眺望廣闊なり。登山は北麓の日登本線田野驛より田野村字築地原・黒草等を經て行ふ。

ワニナチ 鰐淵村

鳥根縣出雲國蘇州郡の北端。大社町の東北に連り、日本海に北面す。東は西田村、西は鷗鷺村、南は蓋塚村と接す。面積二〇・七九平方軒。鼻高山(七三六米)東南境に聳え、南境に山地連りて高峻なるも稍北方海岸に降る。小川は東部と西部に北流して河岸に小耕地存す。河口と流域に聚落あり、漁業また行はる。村内の大部は山林に蔽はる。米・麥・蕎麥・用材・木炭・銅・鐵・茶等の産あり。大社町へは自動車通ず。古くは和名抄、出雲郡宇賀郡の地とす。(鰐淵山)本村の大字河下を流るる河下川の河口を過ること凡そ二軒半の地點にあり。鐵道七萬餘坪、その地質は泥板岩・砂岩・凝灰岩と之を貫く安山岩とより成り、鎮床は黒鐵床にして黒鐵・磁鐵ともに大地にして泥板岩の層理面に

ワニナ 和爾良

愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年他の一箇村と共に廢し鳥居松村を置く。

ワニノ 和納村

新潟縣越後國西蒲原郡の中央南部。吉田町の北、巻町の南にて兩町の中間を占む。西境を北流する西川を初め數條の分流により灌溉の便よく全村肥沃なる水田開く。米産額多く酒造業も行はれ酒杜氏に出稼ぐ者多き地方なり。省線越後線は村内を南北に貫走し和納驛(大正元年設置)を置く。鐵道は東西・南北に通じ村内に交錯し、間瀬港・巻・吉田兩町へハスの便あり。一説にこの地は古事記重仁命の條に見ゆる和那美之水門ならんといふ。(榜嚴寺)曹洞

ワン—ワンリ

西方なる莞川中岳(三〇八三米)・莞川南岳(約三〇六〇米)に連る山は南アルプスに参しき鐘尾根をなし、起伏凹凸甚し。登山は南東麓の奥西河内谷の溪水と、大井川との合流點に近き橋より行はれ、奥西河内谷の左岸高地なる小石下(一六八六米)・巖段(二〇七三米)を經、千枚小屋に至り、千枚岳を越えて建頂す。頂上の北東直下には万助小屋あり。莞川南岳の北方の鹽見岳方面乃至南方の赤石岳方面へ縱走するも亦興味深きものとす。
*莞川岳

ワン 莞島 朝鮮全羅南道莞島郡の主島。古今島及び新智島の西方にある長さ約一五軒の大島にして、その東側に長直路の西港ありて北方の馬島海に通じ、南西側は横看水道を隔てて所安群島と相對す。島内樹木茂生し、中央に象鼻峰(六四四米)聳ゆ。島周は特に南半に於て扇曲に富み、その南東側、即ち長直路西港に入るべき水道口の西側に莞島港あり、沿岸航路船寄港す。道路は莞島港より東岸に沿うて西北端の院洞里に至る三等道路あり、バスを通じ、院洞里より渡船にて建島を經、對岸の本陸部なる海南半島に至る。島民は多く牛養牛漁にて、漁業に従事する者比較的少きも、沿海には海苔の養殖盛に行はれ、製品は本浦を經て内地へ移出せらる。
ワンキョー 灣橋 台湾總督府鐵道阿里山驛の一驛(明治四十三年設置)。臺南府嘉義郡竹崎庄灣橋にあり。

ワントー 莞島

【莞島郡】 朝鮮全羅南道二府三十一郡一島の一。道の西南海上に基布する莞島。古今島・新智島・助島・生日島・平日島・金塔島・青山島・所安群島等を以て構成せられ、面積四〇一・七方軒あり。莞島は最大にて面積六二方軒に及ぶ。これ等の諸島中、古今・助島・平日の諸島は東西に並列し、北は馬島海及び狭き馬島水道を隔てて本陸部の康津郡・長興郡と相對し、その南側に並ぶ莞島・新智島等の間は謂ゆる長直路の水道をなす。郡の島民の大部分は農業に従事する者最も多く、漁業者は比較的少し。主要農産物は黍・粟・大豆にして、灌溉用水に乏しきため水田はなく、殆ど畑作なり。漁業は多く内地よりの出漁者によりて行はれ、鱈・鱒・鯖・石首魚・太刀魚・海鼠・天草・海苔・和布等の漁獲あり。各島中汽船の寄航するものは莞島・所安島にして莞島は釜山を起點とする沿海航路線・所安島は木浦・濟州線とす。行政上、莞島・郡外・新智・古今・金日・青山・所安・蘆花の八面に分ち、郡廳は莞島面に置く。人口約九萬、一方軒密度二一九人(昭和十年)にして道平均(一八一人)に比し可なり稠密せり。
【莞島面】 朝鮮全羅南道莞島郡の一。郡の主島莞島の南半部を占む。北境に象鼻峰(六四四米)聳え、丘陵に富み、海岸は扇曲頗る多く、その東側なる一灣入内は莞島の泊港あり、新智島を前面に控へ

良耕地をなし、沿海航路船寄港す。莞島邑は郡の政治的中心にして、郡廳・警察署・漁業組合聯合會出張所・九州地方法院出張所あり。
ワンリ 灣裡 ↓善化庄(臺灣臺中州)

凡 例

- 一、現在の府縣市町村及び國郡は全部見出しとして出し、古地名及び山川岬灣浦島海洋湖沼も主なるものは見出しに出してある。
- 一、大字・字・温泉・鑛山等は著名なものだけ見出しに出し、他は城砦・社寺・名勝史蹟・人物等々と共に當該市町村の項下に記述するを原則とした。但し鑛山の如き、其鑛區二村以上に亙るものは、見出しを獨立させて記述したものもある。
- 一、見出しは之を二部に分つ。即ち地名の發音その儘を片假名で表はして之を上部に置き、地名に當てられる漢字を下部に置く。若し見出しの片假名と歴史的假名遣との異るときは、漢字の下に歴史的假名遣を附した。

- 例 アイチ 愛知
アイカワ 相川
イチノミヤ 一宮
【一宮町】 千葉縣……………
【一宮村】 石川縣……………

一、同音同字の項目が二つ以上ある場合、その配列は北東に存在するものを先とし、順次南西へと並べた。

- 〔二宮村〕 山梨縣……………
- 〔二宮村〕 静岡縣……………
- 〔二宮市〕 愛知縣……………
- 〔二宮村〕 島根縣……………
- 〔二宮村〕 岡山縣……………

一、見出しの片假名の部分には語幹の部分だけを掲げた。即ち府縣國郡市町村島山川沼潟灣岬等に對應する假名を省いた。

例 アツギ 厚木町

アズマダケ 東嶽村

イカサ 井笠鐵道

ウラカワ 浦川町

ウラシベツ 浦士別川

エニワ 惠庭岳

一、本辭典の見出しは表音を以てした。従つてつ京城はケージョー、飯田橋はイーダバシ、井伊・滑井の如きものはイイと表現されてある。

イ	ゐ	ジ	ぢ	ヒョー	ひよう・ひやう・へう
エ	ゑ	ズ	づ	ホー	ほう・はふ・ほう・ほふ
オ	を	ソー	さう・さふ・そう	ミョー	めう・みやう・みよう
オー	あう・あふ・おう・わう	チュー	ちう・ちゆう・ちふ	モー	まう・もう
カ	くわ	チャウ	てう・てふ・ちやう・ちやう	ユー	いう・いふ・ゆう
キュー	きう・きふ・きゆう	トー	とう・たう・たふ	ョー	えう・えふ・よう・やう
キョー	けう・けふ・きやう・きやう	ニョー	にう・にふ・にゆう	リョー	りう・りふ・りゆう
コ	こう・こふ・かう・かふ	ニョー	によう・ねう・ねふ	リョー	りやう・りやう・れう
コ	くわ	ノー	なう・なふ・のう	ロー	らう・らふ・らう
シュー	しう・しふ・しゆう	ヒョー	ひう・ひゆう		
シヨウ	せう・せふ・しやう・しやう				

一、項目の配列は、見出しの片假名の第一字目によつて先づ五十音順に配列し、第二字目以下これに倣ふ。同じ片假名にして漢字の異なる場合は、漢字の第一字目の總劃數によつて順序立て、劃數少なきものを先とした。(但し伊師・石の如き場合、伊の方石より劃數多きものを前に置くを原則とした。)

- イ 井島
- イ 伊島
- イーアイ 飯合川
- イーエ 飯戸岡
- イーオカ 飯岡
- イイ 滑爲・滑井
- イウ 意宇

イウチ 井内峠	イオー 硫黄	イオキ 伊尾木村
イエ 伊江	イオー 醫王山・夷王山	イオキ 伊福
イエキ 家城村	イオージ 醫王寺	
イエジマ 家島町	イオージマ 伊王島村	アガタ 吾田村
.....	アガタ 英太
.....	アガタ 英田

一、見出し中、同音異字にして何れも使用する場合は、或は古名・別名なる場合は左の如くした。

例 ウジ 宇治・菟道・鶴路

エゾ 蝦夷・夷狄・夷

一、現存市町村にして古へ異字が用ひられたる場合は左の如く表現して置いた。

例 アオ 阿尾(英遠)村

アオ 阿保(安保)町

一、見出しの漢字の部分に縣郡町村の文字を附したるは現存のものに限る。現存しない町村及び郷庄里などは町村郷庄里等の文字を見出しから省いてある。(但し古縣・古郡名に限り相川(縣)・飽田(郡)の如くした。

一、記號

一、〔 〕 各々獨立項目ではあるが、語幹的部分の共通なものが、二つ以上ある場合、別に柱を立てこの括弧を以て見出しに代へた。

例 イナサ 引佐

〔引佐郡〕

〔引佐細江〕

〔 〕 各市町村の項下に記すべき記事ではあるが、文章上の錯綜を避くるため、城・社寺・名勝史蹟天然記念物等は上記の括弧を用ひて當該市町村の項末に附した。

例 イナズ 稻津村 岐阜縣美濃國土岐郡の東部.....〔八幡神社〕.....

引用文中、原文のまま記載した場合、上記の括弧を用ひた。

例 〔今切〕静岡縣濱名湖の切れて海に接する所.....好色一代男・二抱の人に隙と
りて今切の女手形も人の.....

或る他の項目と聯關せしめて記述するを適當と認められた場合、その相手項目を見よの意味で上記の記號を用ひた。

例 イズサン 伊豆山 熱海市

當該項目が他の項目に關聯ある場合、その關聯項目を参照せよとの意味で上記の記號を用ひた。

例 〔妹背川〕大和國の妹山と背山との中を流る、吉野川のこと.....妹背山

編纂顧問・執筆諸家

(五十音順)

編纂顧問

執筆諸家

京都帝國大學名譽教授	文學博士	石橋五郎	名古屋高等商業學校教授	淡川康一
東京文理科大学教授	文學博士	喜田貞吉	新潟高等學校教授	安藤祐專
東京帝國大學名譽教授	文學博士	田中啓爾	西山專門學校教授・京都帝國大學囑託	井川定慶
東京帝國大學名譽教授	文學博士	辻善之助	京都帝國大學名譽教授	池田源太
東京帝國大學名譽教授	文學博士	脇水鐵五郎	京都帝國大學名譽教授	石橋五郎
東京帝國大學名譽教授	文學博士	渡邊萬次郎	浦和女子師範學校教諭	磯崎優
東京帝國大學助教授	文學博士	金田一京助	內務省神戶局考證課	梅田義彦
京都帝國大學名譽教授	文學博士	佐佐木信綱	日本大學教授	大島延次郎
文部省國寶調査官	文學博士	丸尾彰三郎	關谷大學講師	岡村精一
東京帝國博物館美術課長	文學博士	溝口禎次郎	京都帝國大學教授	織田武雄
東京帝國大學教授	文學博士	宮地直一	奈良女子高等師範學校教授	澤瀉久孝
大正大學教授	文學博士	矢吹慶輝		帷子二郎

東京文理科大学地理學教室	文學博士	喜田貞吉	東京帝國大學史料編纂官	高柳光壽
上智大學講師	文學博士	國島秀雄	臺北帝國大學助教授	丹桂之助
內務省技師	文學博士	國松久彌	臺北帝國大學附屬圖書館	梁梁
京都帝國大學教授	文學博士	小坂立夫	高松高等商業學校教授	寺田貞次
東京帝國博物館調査官	文學博士	小牧實繁	新潟高等學校教授	德重英助
奈良女子高等師範學校教授	文學博士	後藤守一	臺北帝國大學教授	中村喜代三
東京商科大學教授	文學博士	佐藤小吉	京都帝國大學教授	中村孝志
東京商科大學助教授	文學博士	佐藤小吉	奈良女子高等師範學校教授	西田直二郎
廣島高等師範學校教授	文學博士	坂本哲朗	山口高等商業學校教授	西山榮久
臺北帝國大學講師	文學博士	下村彦一	東京高等師範學校教授	花井重次
神戸商科大學助教授	文學博士	立石新吾	神戸市史編纂員	日置彌三郎
東京文理科大学教授	文學博士	田中啓爾	北海道帝國大學理科教授	檜垣良一
彦根高等商業學校教授	文學博士	田中秀作	長崎高等商業學校教授	伏見義夫
東北帝國大學講師	文學博士	田中館秀三	文部省維新史料編纂官	藤井甚太郎
小樽高等商業學校講師	文學博士	田中館秀三	第三高等學校教授	藤田元春
東京帝國大學講師	文學博士	田中館秀三	大阪高等學校教授	淵脇英雄
內務省技師	文學博士	田中館秀三	臺北帝國大學文政學部	

東京文理科大學地理學教室	增澤
臺北帝國大學文政學部	榎田 一
東京帝國大學史料編纂官補	松本 盛長
臺北帝國大學文政學部	松本 周二
内務省神戶局教務官	宮本 延人
臺北帝國大學助教	矢尾 板敦
	山崎 麓
臺北帝國大學助教	山本 由松
東京文理科大學講師	吉田 敬市
東京帝國大學名譽教授	理學博士 吉村 信吉
東京帝國大學教授	理學博士 脇水 鐵五郎
	理學博士 渡邊 萬次郎

日本地名大辭典の 最終の校了を見届けて

日本書房 澤田 久雄

二十五年來の宿望、十年來の計畫を具現して、日本地名大辭典の第一卷を世に送つたのは、實に昨十二年十月のこと、時恰も聖友たちは「歡呼の聲に送られて」頻りに戰場に向ひつゝあつた。之よりさき私の先輩や友人の中には、私のこの處女出版に對して「この時勢に、この尪大な難事業、殊に戰爭とは縁もゆかりもない地名辭典などは、先づ差控へた方がよからう」と忠告する者が多かつた。

然し私は考へた。此度の戰爭は、日清、日露などの戰爭とは違ふ。それ等の戰爭は戰場に於ける勝敗で全體の勝負がついたのだ。然るに此度の戰爭は、それだけで戰爭が終るのではなくして、實に日本國民と中華國民とが眞の握手ができるまでは、戰爭の繼續と看做すべきもの、從て國內も、それまでは戰時體勢でなければならぬ、否この東亞の安定に對して邪魔だてする者があれば、更に戰時體勢は繼續せられねばならぬ、と考へたのであつた。

されば、燈火は管制されても仕事を休んではならぬ如く、戦争によつて平和産業が萎縮するやうな事があつてはならぬし、また此様な状態をほんの一次的なものとするに於ては、大いなる誤算を來すと思つた。

戦場にある人々に弾薬・食料其他を充分送るために、銃後にある人々は如何なる艱難をも忍ばねばならぬことは勿論ではあるが、戦場へ充分なものを送り、なほ且つ銃後の人々も充實した生活ができるならば、之を理想とせねばならぬ。歐洲大戦當時に於ける歐洲各國の難澁と、今日の我國民のそれとを比較するならば、今日の我が状態は、かなり理想に近いと云はざるを得ない。而してそれは、如何に我國が充實してゐるかの證據として、私は國民諸氏と共に同慶に堪えないが、然し戦争が長期に亘ることを念頭において、精神と肉體とを健全に保つ以外のものは、ぜひ節約せねばならぬこと勿論である。

とまれ、私は右のやうな考のもとに、また、戦場に於ける聖友たちの苦難を切實に偲ぶ此時代にあつてなら、如何なる難苦にも堪え得て、難業も亦果し得るであらうとの確信を以て、身に餘る大業を強て處女出版として選ぶこととなつた。而して當時の出版界は、或は萎縮では無かつたかも知れないが、事實新規の出版は殆んど見られなかつた。

かうした状態下に、大膽にも地名辭典といふ難業を成さうとするには、もう一つ見逃すことの出来ない原因があつた。それは地理歴史研究會の援助である。以前より同會では、さうした物の出現を欲してゐたさうで「さういふ方面の援助なら惜みなく力に成らう」との快諾は、私が決心をするのに與つて大いに力があつたし、私は一層力強く出發することも出來たし、また爾來絶大なる御後援を仰いだことであつた。

二

少しく私事に亘るが、私が地名辭典を出すに至つた経緯を茲に述べて、今は亡き叔父の靈への奉告を兼ねたいと思ふ。叔父は少年時代しか故郷に居なかつた。殊に未だよく啓けない頃の臺灣などに長く居たせいか、故郷を思慕すること甚だ深かつた。偶々叔父は病床に臥したが、遠隔の地に居たこと、て、多くの兄弟姉妹を持ちながら臨終前に走せ参じたものは、この甥一人であつた。

そして叔父は云ふのであつた。「郷土誌を編まうと思つたが、讀んだだけで終るところだ。自分の生活に直接關係のなさうなもの、感激なくしては出來ないものだ。お前も不幸にして幼い時から異郷に住んでゐるが、もし感激が持てるなら、この事業を繼承してくれ」と。かくて枕頭に積み上げられた資料は、越後・岩代國境の一山村や一河津の町のみに関するものとは到底思はれぬ大量であつた。聞けば「祖先の地は、身を置くに處なき敗惨の人々の隠れ場所として好適な處であつた。而して、その人々の先を尋ねようとすると、諸々方々に關聯を持ち、勿論國史も一通り調べなければならぬ」と云ふやうな譯で、遂にいろんな本を集めなければならぬ成つてね」とのことであつた。

叔父から繼承した資料は大震災の際、東京・日本橋の濱町で一冊も残さず焼いて了つた。が然し私は、叔父の臨終の志だけは、しつかりと抱き續けて來た。かうした關係でもあらうか、私は地理や歴史が好きで、大學乃至大學院時代には社會學を専攻して居ながら、とかく地歴を之に結びつけて研究する傾向があつた。

かくて、風土記以來、幾度か全日本の地誌編纂が試みられながら途中で坐折したことを知り、また明治維新の

直後、政府が必要に迫られて之を試みたが、その事業が困難なるため僅かに簡単な地誌提要を得るに止まつたことを知り、更に、發刊の辭に述べし如く現に甚だ必要なことを自ら感じて、己が郷土誌の念願は一大飛躍して、全日本の地誌編纂を志すに至つた。偶々平凡社の大百科事典の編纂を自分が主宰し、此種經驗を得るに及んで、愈々編纂方面にも確信を有するようになった。

私は、一方に於て平凡社の大百科事典全廿八卷、大辭典全廿六卷の編纂を主宰すると共に、他方ひそかに地名辭典の準備を進めて來た。そして「大辭典完成ののちには、地名辭典、次に人名辭典、次に國書解題と各々世に送り、之だけを完了したら編纂事業から足を洗はう。爾後は、母と祖母とに死別以來の念願——而も常に自分の聖職とし本願として研究考察し續けて來たもの——即ち人生社會に就て、しんみりと考察したいといふ念願を満喫することしよう。」かう考へて居たのであつた。

然るに平凡社では、所期の目的たる大百科事典と大辭典とを完成したので、豫定通り辭典編纂局は解散することとなつた。茲に於て私は、獨立して日本書房を興し、その處女出版として日本地名大辭典を、世に送ることとなつた次第である。

三

地名辭典の編纂にあつては、編纂顧問の諸先生は元より、大先覺諸先生より有難き御叱正、懇篤なる御指導を戴いたが、その外に私個人に對して温き御鞭撻を戴いたことは、何物にも優る推進力であつた。最高の識者が自分のやつてゐる仕事に意義を認めて下さる——これほど大きな推進力が外にあらうか。「私は倒れるまでやりま

す」と御答へして邁進する以外、何事をも何物をも顧るに暇なかつた。

原稿執筆の諸先生に於かれては、恰も國家事業への参加の如き眞剣さを以て臨んで下された。例へば、原稿締切期日に遅れられた時など、私として恐懼おく所を知らざる態の詫狀を寄せられる程であつた。こんな時には、自分の責任の重大を感じ、かの御氣持に報いまつるよう、かの御援助が無にならぬよう、どうしても完成せしめねばならぬと、肝に銘じたことである。最初の公約通り間違なく全卷を刊行し得たことは、諸先生のかうした眞剣な御援助の資たるは言を俟たない。以上諸先生の芳名は一々茲に列記すべきであるが、編纂顧問及び執筆諸家として別に掲載し、甚だ失禮であるが茲では省略さして戴く。

また此度は、中央及び地方の諸官衙並びに諸學校から非常な御厄介になつた。特に内務省地方局及び神社局、文部省宗教局には多大な御厄介になつた。例へば地方局などでは、朝九時から午后四時までを一日とし延日數にして幾百日を、廳舎内に席を與へて下さつたことであらう。其外にまた忙しい時局に、幾百回電話を以て種々な照會をしたことであらう。その度毎に一々調査の上回答を與へて下さつたのである。神社局、宗教局でもほぼ同様な御厄介になつた。いま全國の諸官衙諸學校及び種々な資料を賜つた郷土研究の諸氏へと共に、滿腔の謝意を茲に捧ぐ。

なほ編纂以外種々な意味に於て御鞭撻御援助を賜つた石川林益・下中彌三郎・田中館秀三・徳富蘇峰・戸田貞三・矢吹慶輝(順序不同多謝)の諸先生並びに、赤城源三郎・東興亮・井川定慶・石田松太郎・木村亥吉・佐久間鎮雄・川上胖・佐藤好・佐藤八平・佐藤行雄・島田利長・高橋永雄・中村喜代三・蜂屋勇・楡垣良一(順序不同多謝)の諸氏に、いま無量の感慨に打たれつ、深甚なる謝意を表す。また編輯以外に經驗なき私を助けて、調製・營

業等のことにつき御援助下された古巢平凡社の諸賢に感謝を捧ぐ。

次に、編輯者としては非常に神経質的な私を見捨てず、また頼まれたり雇はれたりでは、到底なし得ない無理な仕事に對し、終始私と共に地名辭典の完成に努力された編輯部の諸氏に「諸氏と共に——なるが故に、公約通り、また其他にも坐折なく、この難事業が完成致しました」の一言を以て感謝の辭に代へたいと思ふ。特に、少なからぬ若き部員の過言をば、事業そのものに免じて、寛容よく最初より最終まで、終日終夜長い間、御指導を賜はつた坂本哲朗先生(主として地理方面を御指導)と増澤淑先生(主として歴史方面を御指導)、また戦争のやうな混亂の中に、人の和をはかり、諸方の連絡をよく保ち、私と全く同一體となつて完成に導いた今關善藏・鎌田敬止・小池英三・中村英一・廣田謙三・森鮮朗並びに今は出征の途にある門田八十八の諸氏に感謝を捧ぐ。

四

地名辭典の編纂にあたつて、編纂顧問の諸先生より懇篤な御指導を戴き、且つ執筆の諸先生からは立派な原稿を戴いたにも拘らず、なほ瑕瑾に乏しくない。これは顧問並びに執筆の諸先生の過失にあらざるは勿論、編輯部諸氏の過失として責むるも當らず、編輯統轄者たると共に、實に事業經營の責任者たる私に、罪を歸せらるべきを天下に乞ふ。

辭典の上で、一村の説明が千五行乃至二十行に表はされてあるものも、實は地理・歴史・神社・寺院等々、各々別々に専門の方々によつて記され、これを編輯部で綜合した、その結果である。然るに歴史的方面に概して變化なきも、市町村の現勢の如き、光陰と共に移る。されば、全市町村等の現勢を、一定時の狀況を以て一貫せし

め、以て、變化極まりない物に對する、せめてもの價値づけをしようと思つた。以上の如き錯雜せる編輯、また時間的制限、更に重き經濟的制約のもと、非才な私としては、實は果し得たる最高の成果——而も明るみへ出して見れば、かなり瑕瑾のある、貧しき贈物ではあつた。

若し之を將來、正確にして有益な建物の土臺の、そのまた下の割栗石としてでも世に用ひられるならば、以て自らは瞑せんとするもの、されど顧問並びに執筆の諸先生には全く申譯なき次第と、今更に身に餘る難業に手を下せる自らの不覺を諸先生に謝するものである。但し之が絶えざる増訂は私の終生の責務として繼續する意志あることを茲に誓つて、せめてもの御寛恕を乞ふの手土産と思ふ。同時に將來、江湖諸賢の御叱正を切に念願して止まないものである。

昭和十三年十二月三日

製複許不



日本地名大辭典

第六卷

昭和十三年十二月十日印
昭和十三年十二月初版第一刷發行

【定價十二圓】

編輯者 澤田久雄

東京市日蓮區中目黒三ノ一九〇

印刷者 君島深

東京市小石川區久留町一〇八

發行所 日本書房

東京市日蓮區中目黒三ノ一九〇

發賣元 株式會社 平凡社

東京市東區二九六三九番

共同印刷株式會社

東京市小石川區久留町一〇八

王子製紙株式會社

東京市豐島區有樂町一ノ一〇

村田文泉閣

東京市荒川區日野町八ノ五六五

本文其他用紙

印刷本 四段

R 291.033

N 77 (6)

終